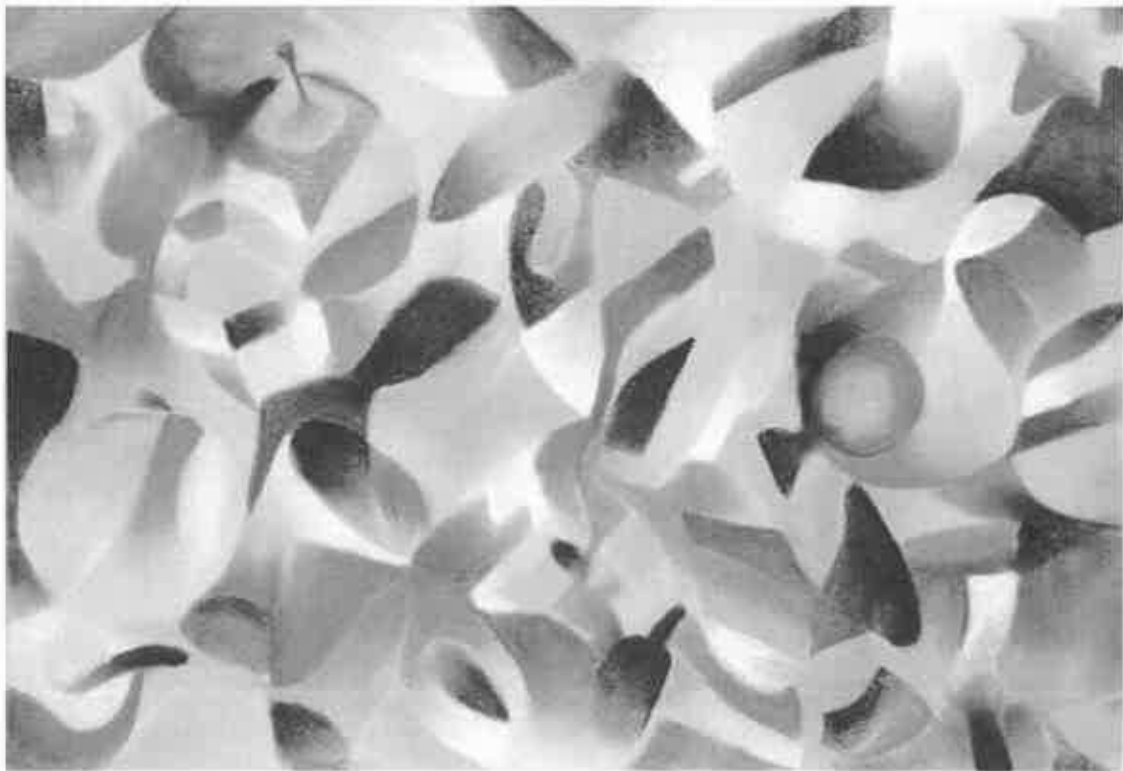


平成26年度
川越市の学力向上

～学力分析と指導の手立て12～



川越市教育委員会

川越市学力向上研究委員会

あ い さ つ

川越市教育委員会教育長
伊 藤 明

川越市教育委員会では、これまでの川越市学力向上・教育課程検討委員会と川越市学力調査研究委員会等を統合し、平成26年度から新たに川越市学力向上研究委員会を組織いたしました。ここに本年度の研究の成果を「川越市の学力向上～学力分析と指導の手立て12～」として刊行いたします。

さて、川越市教育委員会では、本年度、「川越市小・中学生学力向上プラン」（以下、「川越市学力向上プラン」）を策定いたしました。この「川越市学力向上プラン」では、本市の目指す子ども像を「志を高くもち、自ら学び考え行動する子ども」とし、川越市全体として児童生徒に思考力・判断力・表現力の育成を図ることを重点といたしました。また、学校の力、教師の力、地域の力、家庭の力を学力向上を支える4つの力と捉え、それぞれで事業を展開し、4つの力を一体化させたいと考えております。

「川越市学力向上プラン」の目標は、「子どもたち一人一人の学力向上」を図ることであり、これまでの様々な指導方法の工夫改善により、児童生徒の学力向上が図られております。今後、更なる具体的な取組を進めるため、市立小・中学校の校長及び教員による学力向上研究委員会を設置し、指導方法の工夫改善を全市で取り組むこととしました。これにより、「確かな学力」を市立小・中学校全児童生徒に定着させていきたいと考えております。

川越市学力向上研究委員会では、各部会で各種学力調査等の分析と改善の手立てを示すだけでなく、新しく教育情報誌「小江戸川越寺子屋タイムズ」を発行し、課題解決のために教師が改善すべき指導方法等の具体的な手立てを示しました。さらに、「川越市の児童生徒の学力・学習状況の調査」を実施し、川越市の児童生徒の実態を把握するとともに課題を明確にいたしました。各校におかれましては、自校の調査結果を十分に分析した上で、本冊子を有効に活用し、若手からベテランまでの教師が学力向上の方策を共有して研究を進め、児童生徒一人一人の学力向上を目指して御尽力くださるようお願いいたします。

結びに、本冊子の作成に携わっていただきました川越市学力向上研究委員会委員の皆様、並びに御指導くださいました関係各位に厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

は　じ　め　に

川越市学力向上研究委員会委員長
福島 正美

本年度より、市内小中学校では、川越市教育委員会により策定された『川越市小・中学生学力向上プラン』（以下、『川越市学力向上プラン』）の趣旨をふまえ、教育活動に取り組んでいます。平成26年度版『川越市学力向上プラン』では、川越市の児童生徒の確かな学力の向上、とりわけ、「思考力・判断力・表現力の育成」の一層の充実を目指しています。これを受け、市内全校で取り組むことができる学力向上策等について研究するという目的で、本年度より、「川越市学力向上研究委員会」が設置されました。本委員会は、昨年度までの「川越市学力向上・教育課程検討委員会」と「川越市学力調査研究委員会」を統合し、新たな組織としてスタートしました。

本年度、本委員会では、以下のような取組を行いました。

- ①「教研式標準学力調査（NRT）」、「川越市中中学生学力調査」の結果等からの市内小中学生の学力分析
- ②諸調査の結果分析をふまえた、各教科ごとの「指導の手立て」（指導資料）の研究
- ③児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むための指導の参考となる、教育情報誌（『小江戸川越寺子屋タイムズ』）の発行
- ④「川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」の実施と結果分析

そして、平成26年度の本委員会の取組を、『川越市の学力向上～学力分析と指導の手立て12～』としてまとめました。本年度の取組①、②については、「学力分析と指導の手立て12」の項に、取組③、④については、「教育情報誌『小江戸川越寺子屋タイムズ』」、「『川越市の児童生徒の学習・生活状況調査』報告書」の項に、それぞれまとめてあります。

本年度の本委員会の取組についての成果と課題は、平成27年度版の『川越市学力向上プラン』に反映されることとなります。今後も、『川越市学力向上プラン』に示された児童生徒の育成を目指し、諸調査等により市内小中学生の実態を把握し、そこから明らかになった課題を解決するための手立てについて、継続して研究を重ねてまいります。児童生徒一人一人の学力向上に向け、各校の教育活動の更なる充実と各教科等の指導の工夫改善に、本冊子がお役に立てば幸いです。

結びに、全体会（講演会）でご指導いただきました埼玉大学教授・清水誠先生、各部会でのご指導並びに運営でお世話になりました川越市教育委員会の先生方、そして、校務ご多用の中、多くの時間を割いて研究を推進してくださいました委員の皆様、さらに、委員の派遣につきましてご理解くださいました所属校の校長先生方に改めて感謝申し上げ、あいさついたします。

I 研究の概要

川越市学力向上研究委員会

「川越市小・中学生学力向上プラン」の中での位置付け

施策3 教師の力 「目標(1) 確かな学力を育む学習指導の推進」に該当し、教育委員会主体の学力向上に向けた対応策の強化を図る。

1 目的

川越市学力向上研究委員会は、次の事項についての検討を基に、川越市立小・中学校の児童生徒の学力向上を図ることを目的とする。

- (1) 児童生徒の学力の向上に係る方策に関する事項
- (2) 学力調査等による児童生徒の学力分析及び指導方法の工夫改善に関する事項

2 研究の内容

学力分析及指導の手立て 12

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査(NRT)、川越市中学生学力調査の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、課題解決を図るための手立て及び指導資料を示す。

○教研式標準学力検査(NRT)

小学校の国語、社会、算数、理科の4部会、中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5部会が、検査結果を分析し、川越市全体の課題を明らかにする。

○川越市中学生学力調査

中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5部会が、調査結果を分析し、川越市全体の義務教育の学習内容の定着状況を把握するとともに、学習上の問題点や指導上の改善点を明らかにする。

・平成26年度全国学力・学習状況調査(参考)

川越市教育委員会が主体となって、川越市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の効果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

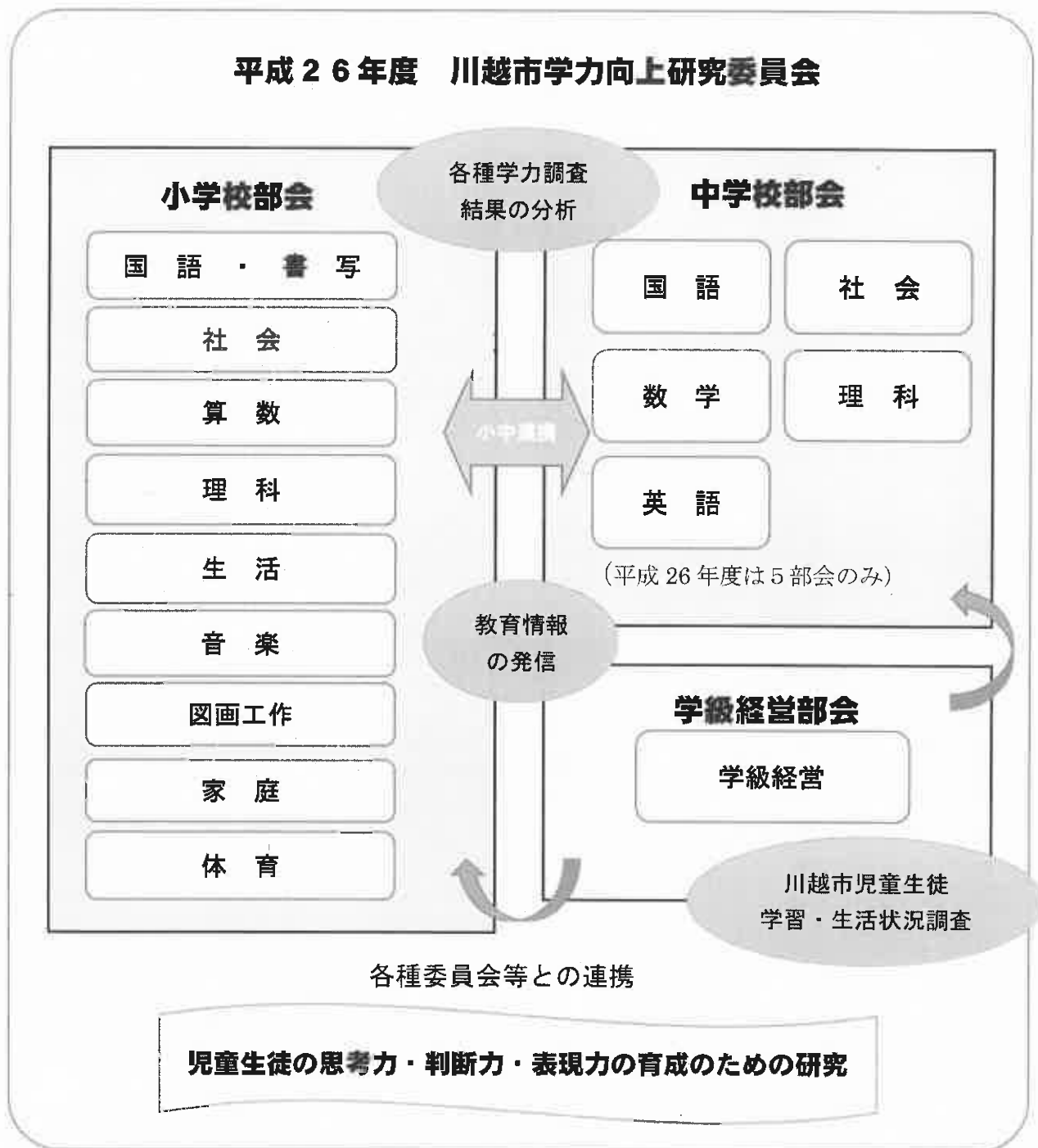
小江戸川越寺子屋タイムズ

各教科等における川越市全体の児童生徒の課題を踏まえ、教員が「児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むこと」の指導の一助となるスタンダードを示す。

川越市児童生徒学習・生活状況調査

川越市全体の児童生徒の学習・生活について、川越市の実態に即した研究を行い、学力向上に向けた教育活動を活性化させ、知・徳・体のバランスのとれた成長に資する統計資料を作成する。

3 研究組織図



4 「川越市小・中学生学力向上プラン」との関連

研究の成果を各学校において一層活用できるようにするために、以下のように示す。

- (1) 本年度の取組を「川越市小・中学生学力向上プラン（平成27年）」に示すとともに、研究成果を教育施策に反映させる。
- (2) 「川越市小・中学生学力向上プラン」に、本研究冊子の掲載ページを明示する。
- (3) 川越市教育委員会ホームページに研究の一部（「学力分析と指導の手立て12」、小江戸川越寺子屋タイムズ」等）を掲載し、情報を公開する。

Ⅱ 学力分析と指導の手立て 1 2

1 研究方法

(1) 検査資料名および研究の対象と教科

検査名	実施時期	対象	教科
①教研式標準学力検査 (NRT)	6月末まで	小4、小5 中1、中2	国語、社会、算数・数学、理科、英語(中2)
②川越市中学生学力調査	9・11月	中3	国語、社会、数学、理科、英語

(2) 方法

川越市教育委員会が事務局となり、市内小・中学校の校長、教員からなる、学力向上研究委員会を設置し、各教科について各部会を組織した。

各教科部会では、上記の検査結果を分析し、川越市の課題を明らかにし、課題解決を図る手立てを示した。

○ 教研式標準学力検査(NRT)について

(1) 各学年の状況

① 全国通過率と川越市通過率の比較

通過率とは、1つの問いについて、正答人数を総人数で割り、100倍した数である。川越市通過率とは、川越市の児童生徒の通過率の平均である。

② 各教科の5段階の出現率

川越市の各学年における各教科の偏差値を基に、全国基準に照らして5段階評定で表した。偏差値は、全国平均点を50とし、偏差値50前後が「3」の評価になる。

各教科の5段階の出現率とは、偏差値を5段階に分け、そこに含まれる人数の割合を表したもので、下図のようになる。

段階	1	2	3	4	5
偏差値	～34	35～44	45～54	55～64	65～
出現率	7%	24%	38%	24%	7%

5段階の出現率を折れ線グラフで表すと山型になり、頂点の位置が右寄りになるほど全国より上回っていることがわかる。「学校」の欄には、自校の5段階の出現率を記入することにより、川越市や全国と比較することができる。

「評定」の欄には、各学校で実施した評定の比率を出し、川越市や全国の5段階の出現率と比較することができる。

(2) 各教科

① 全体の傾向

大領域・中領域の正答率及び小問の通過率から、川越市としての課題等について考察し、全体の傾向を示した。

正答率	$\text{個人の正答率} = \frac{\text{個人の得点}}{\text{満点}} \times 100$ 川越市の正答率は、個人の正答率の合計を川越市の在籍児童(生徒)数で割った数とする。
通過率	$\text{通過率} = \frac{\text{正答した人数}}{\text{総人数}} \times 100$

② 大領域の比較・中領域の比較

大領域について	学習指導要領に示された「内容」を大きな領域に分類した。
中領域について	学習指導要領の「内容」を参考に単元に近い領域に分類した。

大領域・中領域の数字は、正答率で表した。特に、「傾向」の中の矢印は、川越市と全国の正答率を比較し、以下のように表した。

川越市と全国の正答率の比較（差）	傾向
5ポイント以上、上回る場合	△
3ポイント以上、5ポイント未満、上回る場合	↑
3ポイント以上、5ポイント未満、下回る場合	↓
5ポイント以上、下回る場合	▼

③ 課題解決の視点・指導の手立てから課題を把握し、指導の手立てを考察した。

(3) 教研式標準学力検査（NRT）の見方・生かし方

本調査で利用した教研式標準学力検査（NRT）は、全国基準に基づく相対評価法による学力検査である。活用にあたり以下のことを踏まえる必要がある。

- ① 学級全体の学力水準は、標準得点（学力偏差値）の学級平均（M）の値が全国平均偏差値 50 と比べて高いか低いかで判断する。
- ② 学力偏差値の分布で、学力の個人差が大きく見られる学級かどうかを標準得点（学力偏差値）の 5 段階分布で表している。全国の分布と比較することで学級の傾向が分かる。
- ③ 大領域や中領域では、全国の正答率との比較で、低い領域を重点指導領域としてどの領域・どの単元に重点をおいて指導すべきかを判断する。
- ④ 小問通過率を全国と比較して指導の重点箇所を見い出す。また小問分析表で、学級の誤答傾向に特徴がある小問については、誤答内容を確認し、指導法の工夫改善に役立たせることができる。

(4) 教研式標準学力検査（NRT）の活用の仕方

- ① 全国に照らし相対的に学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に活用する。
- ② 指導内容（領域別）ごとに指導成果を確認し、重点計画を立てることに活用する。
- ③ 小問分析表において、1問ごとに習得状況を確認し、全国の取得状況と比較しながら指導法の工夫改善に活用する。
- ④ 各教科の相対関係を知ることによって、その学年・個人の得意な教科、不得意な教科を把握する。
- ⑤ 知能検査との相関関係で、伸びる可能性が高いと考えられる児童・生徒（アンダーアチーバー）などの把握や指導に活用する。
- ⑥ 分析結果を基に、各学校、各学年、各教科の課題を把握し、校内研修の内容及び指導の実践に活用する。

○ 川越市中学生学力調査について

(1) 平成 26 年度中学 3 年生に実施した「中学生学力調査」の結果について掲載した。

(2) 各教科の正答率・各分野の出題の意図と考察が述べられている。

- ・ 正答率：受検者全体の中の正答者数（部分点の時は、得点分の配点）
- ・ 通過率：受検者全体の中で該当の答え方をした数
- ・ 得点率（達成度）：配点の合計の中での生徒得点
- ・ 無解答率：受検者全体の中の無解答者数

2 教研式標準学力検査（NRT）の結果

○川越市の学力の推移（標準学力検査）

（数値は偏差値平均）

教科	校種	学年	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
全教科平均	小学校	第4学年	51.7	50.8	51.0	51.1	51.0	50.9
		第5学年	51.7	51.4	51.2	50.3	51.0	50.2
		第6学年	51.2	50.2	50.3	49.7	49.0	
	中学校	第1学年	50.4	49.8	49.8	49.5	49.1	48.7
		第2学年	50.0	49.4	49.7	50.0	49.5	48.8
国語	小学校	第4学年	53.0	52.0	51.8	50.9	50.3	50.8
		第5学年	53.6	52.6	52.2	51.4	52.4	51.1
		第6学年	53.5	52.2	52.2	51.5	50.6	
	中学校	第1学年	51.7	51.1	51.4	50.6	50.2	50.4
		第2学年	52.3	50.9	50.9	51.2	50.5	50.8
社会	小学校	第4学年	51.4	51.2	51.2	51.2	51.0	50.9
		第5学年	53.1	52.6	52.3	51.4	51.6	51.0
		第6学年	50.5	50.3	50.7	49.2	47.9	
	中学校	第1学年	49.5	49.2	49.0	49.1	48.6	48.1
		第2学年	49.2	48.7	48.2	47.7	47.9	47.5
算数・数学	小学校	第4学年	51.7	50.9	52.1	50.7	51.3	51.1
		第5学年	52.3	52.8	52.6	50.1	51.1	50.3
		第6学年	52.0	51.5	51.2	49.7	49.7	
	中学校	第1学年	50.7	50.3	50.0	50.2	49.3	49.1
		第2学年	50.3	49.9	50.7	51.3	50.7	49.2
理科	小学校	第4学年	50.4	48.9	49.0	51.6	51.3	51.0
		第5学年	47.8	47.7	47.4	48.5	48.9	48.4
		第6学年	48.8	46.8	47.0	48.4	47.6	
	中学校	第1学年	49.5	48.5	48.7	47.9	48.0	47.4
		第2学年	47.9	47.4	48.1	48.2	46.5	45.9
英語	中学校	第1学年						
		第2学年	50.7	50.7	51.1	51.5	52.0	50.6

平成22年度より移行措置版に対応

平成24年度より小学校と中学1年は新学習指導要領に対応

平成25年度より中学2年は新学習指導要領に対応

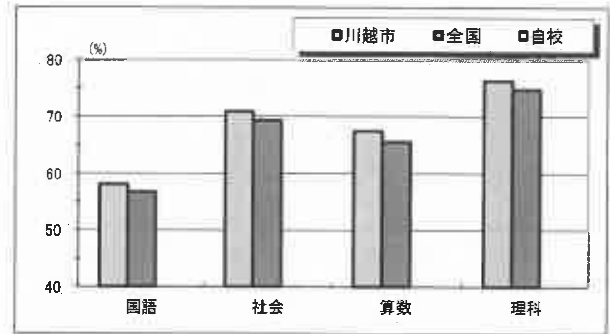
は同一集団を表す一例

(1) 各学年の状況

①小学校第4学年

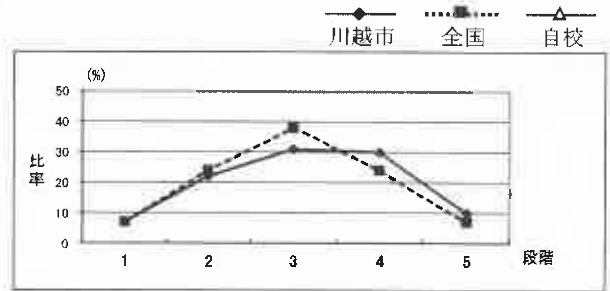
(ア)全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	算数	理科
川越市	58.1	70.9	67.4	76.3
全国	56.7	69.3	65.5	74.8
自校				

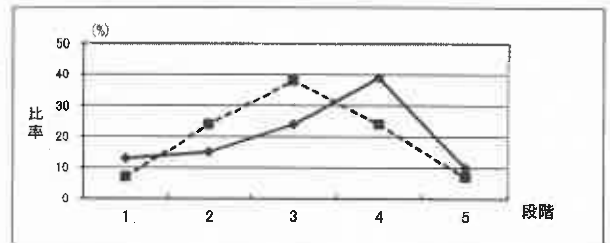


(イ)各教科の5段階出現率

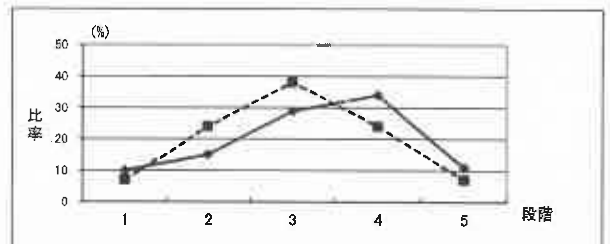
国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	22	31	30	10
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



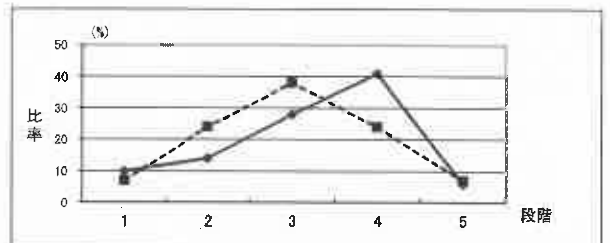
社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	13	15	24	39	10
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



算数	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	15	29	34	11
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



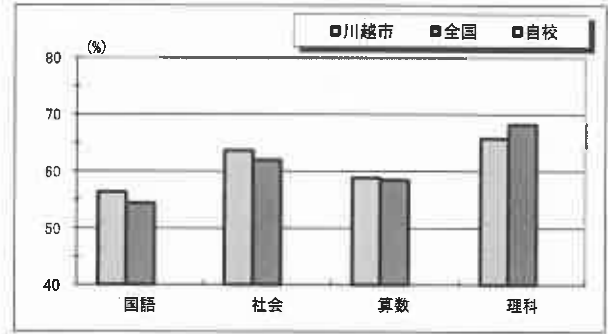
理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	14	28	41	6
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



②小学校第5学年

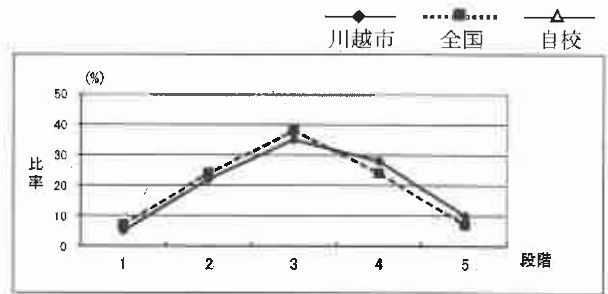
(7)全国通過率と川越市通過率の比較

(%)				
教科	国語	社会	算数	理科
川越市	56.4	63.6	58.8	65.8
全国	54.4	61.9	58.4	68.2
自校				

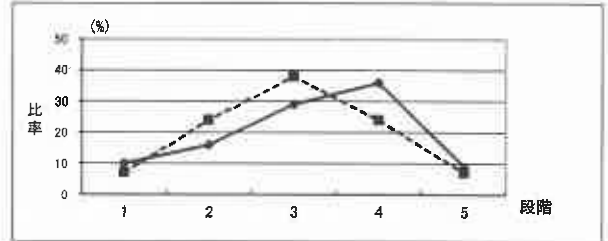


(i)各教科の5段階出現率

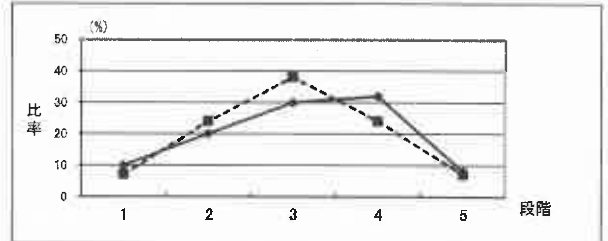
国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	5	22	35	28	10
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



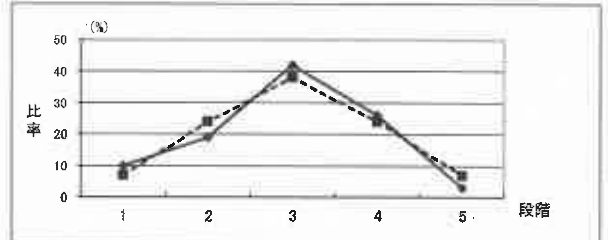
社会 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	16	29	36	9
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



算数 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	20	30	32	8
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					



理科 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	19	42	26	3
全国	7	24	38	24	7
自校					
評定					

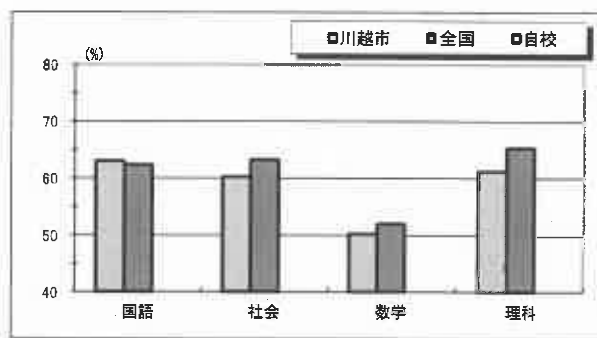


③中学校第1学年

(7)全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科
川越市	63.0	60.2	50.2	61.2
全国	62.3	63.2	52.0	65.3
自校				

(%)



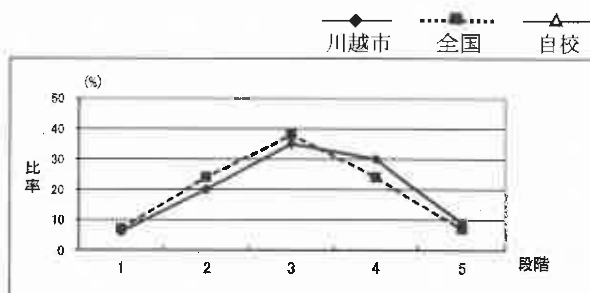
(1)各教科の5段階出現率

国語

段階	1	2	3	4	5
川越市	6	20	35	30	9
全国	7	24	38	24	7
自校					

(%)

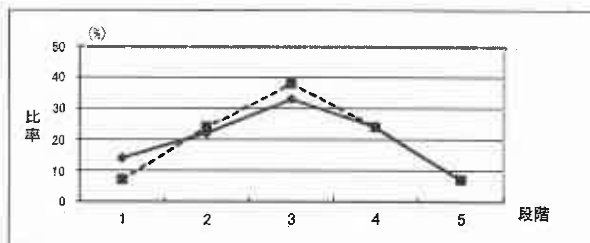
評定					
----	--	--	--	--	--



社会

段階	1	2	3	4	5
川越市	14	22	33	24	7
全国	7	24	38	24	7
自校					

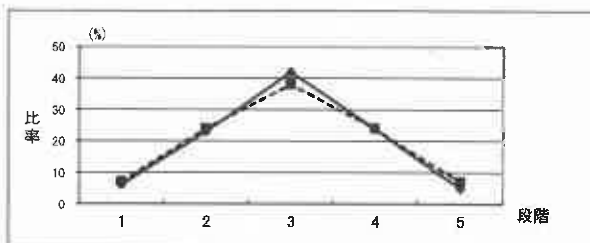
評定					
----	--	--	--	--	--



数学

段階	1	2	3	4	5
川越市	6	23	42	24	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

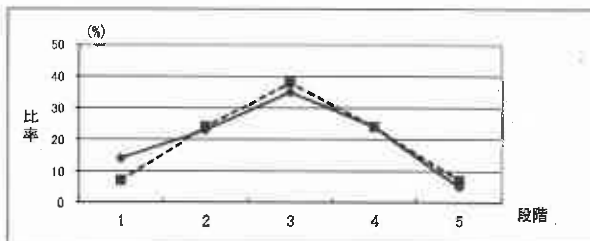
評定					
----	--	--	--	--	--



理科

段階	1	2	3	4	5
川越市	14	23	35	24	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--

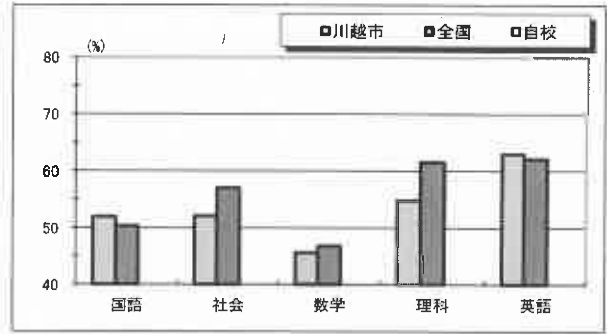


④中学校第2学年

(7)全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科	英語
川越市	51.9	52.0	45.6	54.8	63.0
全国	50.3	57.0	46.8	61.5	62.1
自校					

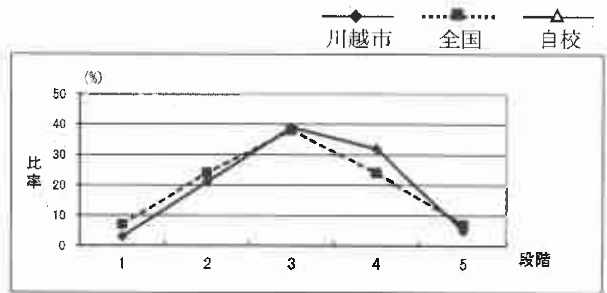
※社会は『地歴』実施校の集計値



(1)各教科の5段階出現率

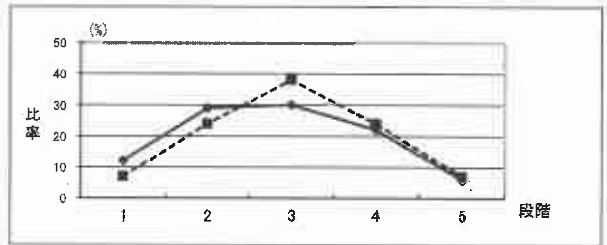
国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	3	21	39	32	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



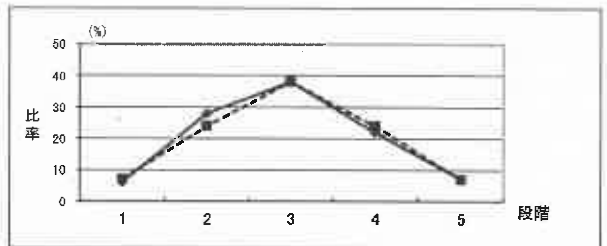
社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	12	29	30	22	6
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



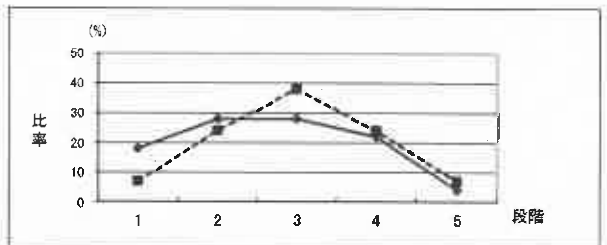
数学	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	28	38	22	7
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



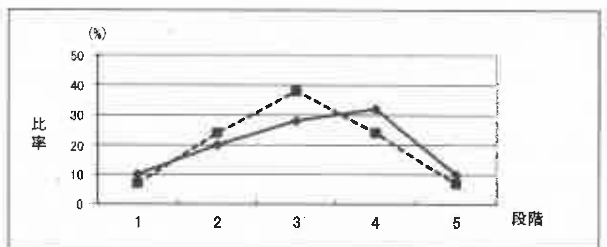
理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	18	28	28	22	4
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



英語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	20	28	32	10
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



領域別集計表(教科指導用)

標準得点(学力標準値)

5年 全体 国語 2,910 名 偏差値平均(M) 51.1 標準偏差(SD) 10.1	5年 全体 社会 2,916 名 偏差値平均(M) 51.0 標準偏差(SD) 11.1	5年 全体 算数 2,913 名 偏差値平均(M) 50.3 標準偏差(SD) 11.0	5年 全体 理科 2,917 名 偏差値平均(M) 48.4 標準偏差(SD) 10.3
--	--	--	--

埼玉県

川越市 小学校

5年

大領域別集計

部	内容	1	2	3	4	5	合計	全国平均との比較
1	話すこと・聞くこと	男 7	28	43	15	9	60.0	105
	女 5	20	44	19	11	64.3		
2	書くこと	全 8	29	34	25	7	47.8	104
	女 7	23	32	29	9	56.4		
3	読むこと	全 7	31	35	17	9	43.9	104
	男 9	35	35	16	6	40.1		
	女 6	28	34	19	13	48.0		
4	伝統的な言語文化と 国語の特質	全 11	21	35	29	4	66.0	102
	男 13	23	33	28	4	64.2		
	女 20	31	31	1	1	49.0		
1	健康な生活と安全な 生活	男 11	19	36	30	8	67.3	103
	女 5	18	38	30	8	66.9		
2	地域の開発と人々の 生活	全 6	16	46	22	10	62.7	103
	男 8	19	44	20	10	61.2		
	女 4	14	48	23	10	64.4		
3	県のおよすと人々のく らし	全 9	17	36	30	8	59.4	101
	男 11	18	34	28	9	57.9		
	女 6	16	38	32	8	61.0		
1	数と計算	男 6	26	36	26	6	56.1	99
	女 5	25	35	27	7	57.0		
	全 13	25	41	19	2	57.1		
2	量と測定	男 14	24	40	19	3	57.0	95
	女 11	26	44	18	2	57.3		
	全 5	20	37	29	8	54.2		
3	図形	男 6	21	35	29	9	53.7	105
	女 4	20	40	29	8	54.8		
	全 7	19	39	20	14	66.5		
4	数量関係	男 9	20	37	19	14	65.2	104
	女 6	18	42	22	14	66.0		
1	季節と生物・人の体 のつくり	男 8	19	42	25	6	71.3	97
	女 11	19	43	27	6	69.7		
	全 5	19	43	27	6	73.0		
2	月と星・天気の様子	男 7	20	43	17	4	56.3	96
	女 5	25	48	19	3	58.6		
	全 8	19	50	18	5	65.6		
3	電気の働き	男 9	16	47	21	7	66.9	95
	女 6	23	54	15	3	64.1		
	全 7	21	37	30	5	66.4		
4	空気・水・金属の性質 と温度	男 10	20	34	30	6	65.6	98
	女 4	22	39	29	1	67.1		

中領域別集計

部	内容	1	2	3	4	5	合計	全国平均との比較
1	1 自然について話すこと	34.8	36.5	95				
	2 図表を中心に集金つかけ聞くこと	78.4	74.5	105				
	3 図表に沿って話し合うこと	64.3	56.4	108				
2	4 目的に応じて構成を考えた書くこと	51.1	50.7	101				
	5 文の中心をつながらに注意し書くこと	52.2	46.5	112				
	6 読者の立場から書くこと	43.9	41.8	107				
3	7 文法的な言葉を使わねこと	44.0	42.7	101				
	8 コピーにたいして同解すること	40.2	38.5	104				
4	9 読者の立場から書くこと	78.1	74.3	105				
	10 読者の立場から書くこと	66.9	63.3	104				
	11 読者の立場から書くこと	68.8	70.0	98				
1	1 水の利用と水源の確保	68.3	57.3	101				
	2 こまの廻りやサイケル	64.8	64.8	104				
	3 安全を守る警察の仕事	69.1	66.3	104				
	4 地域の仕事や水車や水車をつくつて	63.6	61.0	104				
2	5 地図も読み取る書くこと	57.5	46.3	104				
	6 図表から読み取る書くこと	71.2	69.1	103				
	7 地図の読み取る書くこと	70.2	66.5	106				
	8 地図の読み取る書くこと	64.5	66.2	99				
	9 地図の読み取る書くこと	45.1	46.3	97				
	10 県内の特色ある地域の様子や産業	73.2	67.7	108				
1	1 1 数と計算	55.9	54.3	103				
	2 2 量と測定	27.4	30.7	89				
	3 3 図形	66.0	70.0	99				
	4 4 数量関係	54.7	57.4	95				
2	5 月と星・天気の様子	54.0	52.6	103				
	6 電気の働き	61.9	71.3	87				
	7 空気・水・金属の性質と温度	46.7	49.3	95				
	8 いろいろな図形・平行・垂直	60.6	64.0	112				
	9 立体図形・ものの位置	76.0	73.0	108				
	10 2つの量の関係	58.9	58.8	100				
	11 公式などのいろいろな式	54.7	58.2	103				
	12 数の性質	56.6	59.8	95				
3	1 1 季節と生物・人の体 のつくり	75.5	76.7	98				
	2 2 月と星・天気の様子	82.2	83.0	99				
	3 3 電気の働き	48.6	54.5	89				
	4 4 空気・水・金属の性質と温度	61.3	61.9	99				
	5 5 いろいろな図形・平行・垂直	63.7	65.8	97				
	6 6 立体図形・ものの位置	70.3	79.0	89				
	7 7 2つの量の関係	78.6	79.3	99				
	8 8 公式などのいろいろな式	62.3	64.9	96				
	9 9 数の性質	55.3	64.3	102				

領域別集計表(教科指導用)

埼玉県

川越市 中学校

2年

大領域別集計

中領域別集計

<p>2年 全体</p> <p>国語</p> <p>2,659名</p> <p>偏差値平均(M) 50.8</p> <p>標準偏差(SD) 8.5</p>	<p>40</p> <p>30</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>0</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>795</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>79 54 104 81 124</p>
<p>2年 全体</p> <p>地歴</p> <p>2,661名</p> <p>偏差値平均(M) 47.5</p> <p>標準偏差(SD) 10.5</p>	<p>40</p> <p>30</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>0</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>754</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>149 743 1008 578 182</p>
<p>2年 全体</p> <p>数学</p> <p>2,660名</p> <p>偏差値平均(M) 49.2</p> <p>標準偏差(SD) 9.7</p>	<p>40</p> <p>30</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>0</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>750</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>18 28 28 22 4</p>
<p>2年 全体</p> <p>理科</p> <p>2,663名</p> <p>偏差値平均(M) 45.9</p> <p>標準偏差(SD) 11.2</p>	<p>40</p> <p>30</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>0</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>740</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>7 11 750 579 115</p>
<p>2年 全体</p> <p>英語</p> <p>2,663名</p> <p>偏差値平均(M) 50.6</p> <p>標準偏差(SD) 11.1</p>	<p>40</p> <p>30</p> <p>20</p> <p>10</p> <p>0</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>848</p>	<p>1 2 3 4 5</p> <p>20 28 32 10 265</p>

部 内 容	3訂	1訂	2訂	3訂	4訂	5訂	正答率	全国比	全国正答率との比較
1 話すこと・聞くこと	5	21	38	29	7	72.0	67.9	106	
2 書くこと	3	15	38	35	9	76.2	56.9	104	
3 読むこと	6	17	38	31	9	64.2	38.0	180	
4 伝統的な言語文化と国語の特質	12	25	40	19	5	37.9	43.3	102	
1 世界の様々な地域	11	25	34	22	9	55.9	58.7	95	
2 原形から古代の日本	18	24	34	18	5	52.3	60.0	87	
3 中世の日本	11	29	37	18	5	44.8	50.6	89	
1 数と式	6	14	48	23	10	52.7	49.1	107	
2 図形	12	26	37	22	4	49.1	51.3	96	
3 関数	8	32	42	12	8	38.2	45.3	85	
4 資料の活用	13	24	36	23	4	35.9	40.0	92	
1 身近な物理現象	13	34	38	10	5	49.9	58.6	85	
2 身の回りの物質	10	34	36	15	5	58.5	66.2	88	
3 植物の生活と種類	7	28	38	20	5	53.5	60.6	88	
4 大地の成り立ちと変化	7	24	41	18	10	55.4	59.3	93	
1 聞くこと	6	22	37	27	7	71.9	76.8	101	
2 話すこと	4	18	38	31	8	80.2	64.4	99	
3 読むこと	12	25	34	24	6	59.8	52.7	105	
4 書くこと	13	21	38	23	5	51.9	62.2	101	

部 内 容	1訂	2訂	3訂	4訂	5訂	正答率	全国比	全国正答率との比較
1 構成を工夫して話すこと	7	26	38	24	5	68.2	67.9	106
2 話し手の意図を考慮して聞くこと	3	15	38	35	9	76.2	56.9	104
3 課題を明らかにし話し合うこと	12	29	36	17	6	54.7	38.0	180
4 課題を明らかにし話し合うこと	6	17	38	31	9	64.2	43.3	102
1 1訂の読み	11	25	34	22	9	55.9	58.7	95
2 2訂の読み	18	24	34	18	5	52.3	60.0	87
3 3訂の読み	11	29	37	18	5	44.8	50.6	89
1 1訂の読み	6	14	48	23	10	52.7	49.1	107
2 2訂の読み	12	26	37	22	4	49.1	51.3	96
3 3訂の読み	8	32	42	12	8	38.2	45.3	85
4 4訂の読み	13	24	36	23	4	35.9	40.0	92
1 1訂の読み	13	34	38	10	5	49.9	58.6	85
2 2訂の読み	10	34	36	15	5	58.5	66.2	88
3 3訂の読み	7	28	38	20	5	53.5	60.6	88
4 4訂の読み	7	24	41	18	10	55.4	59.3	93
1 1訂の読み	6	22	37	27	7	71.9	76.8	101
2 2訂の読み	4	18	38	31	8	80.2	64.4	99
3 3訂の読み	12	25	34	24	6	59.8	52.7	105
4 4訂の読み	13	21	38	23	5	51.9	62.2	101

(2) 各教科の状況

【国語】

①小学校第4学年（内容第3学年）

(ア)大領域の比較

内 容	川 越		全 国		全 国との差		自 校
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25	
1 話すこと・聞くこと	62.0	60.2	61.7	60.0	60.6	60.0	50.9
2 書くこと	38.8	41.6	35.8	50.0	50.7	50.7	50.3
3 読むこと	47.6	48.0	47.3	46.4	46.4	46.4	50.8
4 伝統的な言語文化と国語の特質	68.5	64.3	65.1	66.3	66.9	66.9	

(イ)全国通過率との開きがある小問

(ア)全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 領域 内 容	川 越 全 国との差	平 成24年度 全 国との差	平 成25年度 全 国との差	平 成26年度 全 国との差	平 成27年度 全 国との差	全 国との差	自 校
1 1 丁寧な言葉遣いで話す (4-3)	52.54	-2	48.54	-6	51.54	-3	(1-3)
3 7 場面の様子を読み取り (10-2)	44.47	-3	46.47	-1	42.47	-5	(7-2)
3 7 心算の読み取り (10-3)	38.38	0	37.38	-1	35.38	-3	(9-6)
3 7 物語の仕方 (10-4-2)	35.42	-7	35.42	-7	34.42	-8	(10-4-1)
4 8 指示語・その (11-1)	59.61	-2	59.61	-2	58.61	-3	(10-4-1)
4 8 指示語・その (11-3)	67.69	-2	65.69	-4	65.69	-4	
4 11 漢字の書き・書く (15-1)	49.57	-8	42.56	-14	41.56	-15	
4 10 ローマ字・ラップ (16-1)	35.43	-8	34.43	-9	36.43	-7	
4 10 ローマ字・ラップ (16-2)	43.56	-13	38.56	-18	44.56	-12	

②小学校第5学年（内容第4学年）

(ア)大領域の比較

内 容	川 越		全 国		全 国との差		自 校
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25	
1 話すこと・聞くこと	65.1	64.6	62.1	59.3	59.3	59.3	51.4
2 書くこと	51.5	53.9	51.4	45.3	49.3	49.3	52.4
3 読むこと	44.4	47.2	43.9	42.1	42.1	42.1	51.1
4 伝統的な言語文化と国語の特質	66.3	68.2	66.0	64.7	64.7	64.7	

(イ)全国通過率との開きがある小問

(ア)全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 領域 内 容	川 越 全 国との差	平 成24年度 全 国との差	平 成25年度 全 国との差	平 成26年度 全 国との差	平 成27年度 全 国との差	全 国との差	自 校
1 1 話すこと・聞くこと (3-3-4)	44.43	1	44.40	4	37.40	-3	(3-3)
1 1 話すこと・聞くこと (3-3-3)	42.41	-1	42.38	4	36.38	-3	(3-2)
2 5 意見を書く (5-4)	42.45	-3	42.42	0	39.42	-3	(11-3)
3 7 登場人物の理解 (7-6)	52.49	-7	59.57	2	52.57	-5	
3 6 事実の読み取り (8-1)	32.34	-2	37.33	4	29.33	-4	
3 6 文の読み取り (8-3)	31.35	-4	35.33	2	28.33	-5	
4 11 漢字の書き・書く (12-2-2)	65.66	-3	68.68	0	65.68	-3	
4 11 漢字の読み・節 (12-3-1)	43.52	-9	41.51	-10	44.51	-7	
4 11 漢字の書き・書く (12-3-2)	65.70	-5	63.70	-7	60.70	-10	

③中学校第1学年（内容第6学年）

(ア)大領域の比較

内 容	川 越		全 国		全 国との差		自 校
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25	
1 話すこと・聞くこと	68.0	66.6	67.0	66.0	66.0	66.0	50.6
2 書くこと	60.2	59.6	59.2	56.9	56.9	56.9	50.2
3 読むこと	54.2	53.4	52.9	51.5	51.5	51.5	50.4
4 伝統的な言語文化と国語の特質	55.0	55.3	56.3	57.2	57.2	57.2	

(イ)全国通過率との開きがある小問

(ア)全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 領域 内 容	川 越 全 国との差	平 成24年度 全 国との差	平 成25年度 全 国との差	平 成26年度 全 国との差	平 成27年度 全 国との差	全 国との差	自 校
1 3 語彙・共通語 (3-2)	36.84	2	76.84	-8	79.84	-6	(5-3)
3 7 表紙・そればそれ (8-2)	37.37	0	34.37	-3	34.37	-3	(9-1)
4 9 漢字書き・粗読 (13-1)	29.46	-17	28.47	-19	26.47	-21	(13-4)
4 9 漢字書き・粗読 (13-2)	45.50	-5	40.52	-12	39.52	-13	(14-2)
4 9 漢字書き・粗読 (13-3)	20.34	-14	24.31	-7	26.31	-5	(10-2)
4 9 漢字送り仮名・読む (14-1)	33.42	-9	30.41	-11	36.41	-5	
4 9 漢字送り仮名・書く (14-3)	19.46	-27	29.43	-14	34.43	-9	
4 9 漢字送り仮名・書く (14-4)	48.60	-12	55.61	-8	56.61	-5	
4 9 類語の構成 (15-2)	40.42	-2	40.44	-4	40.44	-4	

④中学校第2学年（内容第1学年）

(ア)大領域の比較

内 容	川 越		全 国		全 国との差		自 校
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25	
1 話すこと・聞くこと	72.1	72.0	67.9	67.9	67.9	67.9	50.5
2 書くこと	53.8	59.2	56.9	56.9	56.9	56.9	50.8
3 読むこと	37.7	37.9	36.0	38.0	38.0	38.0	
4 伝統的な言語文化と国語の特質	42.3	44.0	42.9	43.3	43.3	43.3	

(イ)全国通過率との開きがある小問

(ア)全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 領域 内 容	川 越 全 国との差	平 成24年度 全 国との差	平 成25年度 全 国との差	平 成26年度 全 国との差	平 成27年度 全 国との差	全 国との差	自 校
2 5 時空のあいさつ (4-1)	36.44	-8	36.41	-5			(6-1-3)
3 7 行動と理由の読み取り (7-2)	13.19	-6	12.18	-6			(7-2)
3 6 要点の読み取り (8-5)	2	-3	2	-3			(8-4)
4 11 漢字の書き・垂らす (11-1)	43.59	-16	46.59	-13			(9-2)
4 11 漢字の書き・検しい (11-2)	55.67	-12	63.67	-9			(10-3)
4 11 漢字の書き・延期 (11-3)	43.50	-7	41.50	-4			(11-4)
4 9 表現技法の理解 (12-1)	28.32	-4	27.32	-5			(12-4-2)

(イ)は問題番号
・ボート・乗客 (6-1-3)
・行動と理由の読み取り (7-2)
・要点を読みとる (8-4)
・要点の読み取り (8-5)
・文脈の理解 (9-2)
・漢字の読み・垂らす (10-3)
・漢字の書き・検しい (11-4)
・漢字の読み・延期 (12-4-1)
・表現技法の理解・名詞 (12-4-2)

【社 会】

①-1 小学校第4学年 (内容第3学年)

(7) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		偏差値 平成24年度平均 49.8 偏差値 平成25年度平均 53.5 偏差値 平成26年度平均			
内 容	川 越	全 国	自 校	全 国との差	目 校
1 身近な地域	H.25 H.26	H.25 H.26	H.25 H.26	H.25 H.26	H.25 H.26
2 地域の人々の生活と販売	70.9 75.8	71.8 71.8	71.8 71.8	-0.9 4.0	4.0
3 わたしたちのまちとくらし	65.9 71.9	62.7 62.7	62.7 62.7	3.2 9.2	9.2
	66.4 73.5	72.0 72.0	72.0 72.0	-5.6 1.5	1.5

(4) 全国通過率との開きがある小問

(4) 全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 小	内 容	平成24年度 川 越 国 越	平成25年度 全 国 と 越 国 の 差	平成26年度 全 国 と 越 国 の 差	全 国との差	自 校	全 国との差	目 校
1	3 地図記号・学校	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.25 H.26	H.24 H.25	H.25 H.26
2	4 表現の工夫・買い物	73.3 73.3	72.6 71.8	71.8 71.8	1.5 1.5	0.8	4.8	4.3
3	7 工場・立地条件・広さ	67.1 67.0	68.3 62.3	62.7 62.7	4.8 3.6	3.6		
3	8 スーパー・魚を切る人	76.9 78.6	76.3 78.0	77.3 77.3	-1.1	-0.7	-1.0	
3	9 スーパー・倉庫管理							

①-2 小学校第4学年 (内容第3学年)

(7) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		偏差値 平成24年度平均 51.2 偏差値 平成25年度平均 51.1 偏差値 平成26年度平均 50.7			
内 容	川 越	全 国	自 校	全 国との差	目 校
1 身近な地域	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.25 H.26
2 地域の人々の生活と販売	73.3 73.3	72.6 71.8	71.8 71.8	1.5 1.5	0.8
3 音のくらし	67.1 67.0	68.3 62.3	62.7 62.7	4.8 3.6	3.6

(4) 全国通過率との開きがある小問

(4) 全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 小	内 容	平成24年度 川 越 国 越	平成25年度 全 国 と 越 国 の 差	平成26年度 全 国 と 越 国 の 差	全 国との差	自 校	全 国との差	目 校
1	2 複製道具・カメラ	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.25 H.26	H.24 H.25	H.25 H.26
1	3 地図記号・学校	63.7 63.7	62.7 62.7	62.7 62.7	1.0 1.0	1.0		
1	3 図書館の方位・北東	88.9 88.9	-2 86.9	90 90	-4			
1	3 図書館の方位・北東	44.5 50	-6 47.4	-2 45.4	-4			
1	3 まち探検コース	63 63	0 60.6	-5 59.6	-6			
1	3 まち探検コース	62 66	-4 61.6	-5 61.6	-5			
2	6 パン工場・衛生	61 60	1 60.3	-2 58.6	-4			
2	6 工場見学・仕事の仕度	69 64	2 64.6	67 67	-3			
3	7 音の道具・火鈴	67 66	-9 77.9	76 76	-17			
3	7 楽器の時間減少	37 55	-18 40.4	54 54	-14			

② 小学校第5学年 (内容第4学年)

(7) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		偏差値 平成24年度平均 51.4 偏差値 平成25年度平均 51.6 偏差値 平成26年度平均 51.0			
内 容	川 越	全 国	自 校	全 国との差	目 校
1 健康な生活と安全な生活	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.26 H.26
2 地域の開墾と人々の生活	66.7 67.9	67.3 64.1	65.2 65.2	2.6 2.7	2.1
3 奥のようすと人々のくらし	63.2 63.2	62.7 60.7	60.7 60.7	3.2 2.5	2.0
	59.4 61.3	59.4 58.1	58.6 58.6	1.3 2.7	0.8

(4) 全国通過率との開きがある小問

(4) 全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 小	内 容	平成24年度 川 越 国 越	平成25年度 全 国 と 越 国 の 差	平成26年度 全 国 と 越 国 の 差	全 国との差	自 校	全 国との差	目 校
1	1 地図・分水嶺	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.26 H.26	H.24 H.25	H.25 H.26
1	1 地図・ダム	62.5 62.5	-2 51.6	-5 53.6	-3			
1	1 地図・森林の働き	62.5 62.5	-3 61.6	-7 63.6	-3			
1	1 森林・消防署	28 38	-10 34.3	37 37	-3			
2	6 月水郷の開発と道具	65 66	-1 62.6	-6 64.6	-4			
3	8 地図・一番高い山	81 83	-2 81.8	-1 79.8	-3			
3	8 地図・急な道	34 35	-1 34.3	-3 32.3	-5			
3	9 地図の利用・生活産業	50 53	-3 52.5	32 37	-3			
3	9 川の流れる方向	16 24	-8 17.2	20 20	-6			

③ 中学校第1学年 (内容第6学年)

(7) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		偏差値 平成24年度平均 49.1 偏差値 平成25年度平均 48.6 偏差値 平成26年度平均 48.1			
内 容	川 越	全 国	自 校	全 国との差	目 校
1 地理的分野	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.26 H.26
2 歴史的分野	66.5 66.3	65.8 64.3	63.3 63.3	2.2 2.5	2.5
3 公民的分野	56.7 55.8	54.2 51.2	51.5 51.5	-4.5 -7.3	-7.3
	64.2 62.9	62.3 65.3	65.9 65.9	-1.1 -3.0	-3.6

(4) 全国通過率との開きがある小問

(4) 全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大 中 小	内 容	平成24年度 川 越 国 越	平成25年度 全 国 と 越 国 の 差	平成26年度 全 国 と 越 国 の 差	全 国との差	自 校	全 国との差	目 校
1	5 郵便物が通る道・広さ	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.24 H.25	H.26 H.26	H.24 H.25	H.25 H.26
2	7 北条時宗と元寇	49 61	-13 49.6	-13 46.6	-15			
2	7 元の襲来	67 71	-16 53.7	-15 53.7	-18			
2	8 出来事・西海戦争	27 36	-9 28.3	-10 26.3	-12			
2	7 歴史地図・長崎	32 41	-9 32.4	-9 30.4	-11			
2	7 江戸時代のおよび	48 55	-7 46.5	-9 42.5	-13			
2	6 人物・東大寺の文化	70 79	-9 68.7	-11 67.7	-12			
2	6 条約改正に尽力した人	31 39	-8 29.4	-12 30.4	-11			
3	10 日本国憲法・平和主義	67 73	-6 65.7	-10 65.7	-10			

【算数/数学】
①小学校第4学年 (内容第3学年)

(ア)大領域の比較
大領域別集計 (正答率%)

内 容	川 越		全 国		自 校	
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 数と計算	65.0	65.0	64.4	64.2	64.2	64.2
2 量と測定	66.7	66.3	67.1	65.3	64.1	64.7
3 図 形	75.2	75.4	74.7	73.3	72.7	72.7
4 数量関係	64.9	65.2	65.3	63.6	61.4	61.4
偏差値	平成24年度平均 50.7		平成25年度平均 51.3		平成26年度平均 51.1	
偏差値	平成24年度平均 51.3		平成25年度平均 51.1		平成26年度平均 51.1	

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域	内 容	川 越	全 国	自 校	
				H.24	H.25
()は問題番号	1 2 減法・4位数-4位数 (3-2)	67.73	-6	69.72	-3
	1 3 乗法・2位数×2位数 (4-2)	54.59	-5	53.58	-3
	1 2 加法についての性質 (6-1)	44.49	-4	44.47	-3
	1 5 数直線・小数 (8-1)	66.77	-11	68.73	-5
	1 6 数量関係・分数 (8-2)	44.53	-9	44.49	-5
	1 6 大小比較・分数と小数 (9-2)	65.70	-5	67.70	-3
	1 1 1 そろばん・数の表示 (10-1)	53.58	-5	52.58	-6
	2 7 秤の上よみ (12-2)	14.21	-7	14.20	-6
	3 10 秤の切り口の形 (25-1)	62.68	-6	62.67	-5
	偏差値	平成24年度平均 50.1	平成25年度平均 51.1	平成26年度平均 50.3	

(ウ)小学校第5学年 (内容第4学年)

(ア)大領域の比較
大領域別集計 (正答率%)

内 容	川 越		全 国		自 校	
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 数と計算	56.9	57.7	56.1	57.6	56.7	56.7
2 量と測定	57.8	58.5	57.1	63.3	60.0	60.0
3 図 形	56.6	56.2	54.2	50.8	51.5	51.5
4 数量関係	66.6	68.2	66.5	64.4	63.9	63.9
偏差値	平成24年度平均 50.1		平成25年度平均 51.1		平成26年度平均 50.3	
偏差値	平成24年度平均 51.1		平成25年度平均 50.3		平成26年度平均 50.3	

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域	内 容	川 越	全 国	自 校		
				H.24	H.25	
()は問題番号	1 2 四角五入 (2)	21.32	-11	24.30	-4	
	1 4 小数の加法 (6-1)	74.82	-8	76.80	-4	
	1 5 分数の加法減法 (10-2)	36.43	-7	38.43	-5	
	2 2 6 面積の単位換算 (13-1)	25.40	-15	24.35	-11	
	2 6 面積の単位換算 (13-2)	25.41	-16	27.36	-9	
	2 7 3 直角を用いた角 (13-4)	62.70	-8	60.67	-7	
	2 7 3 直角を用いた角 (17-1)	38.61	-23	39.57	-18	
	2 7 3 直角を用いた角 (17-2)	44.64	-20	45.60	-15	
	3 8 垂直な位置にある直線 (22)	61.97	-6	62.66	-4	
	4 11 四角の 넓いの計算 (30-1)	59.71	-13	55.69	-14	
偏差値	平成24年度平均 50.7		平成25年度平均 51.3		平成26年度平均 51.1	
偏差値	平成24年度平均 51.3		平成25年度平均 51.1		平成26年度平均 51.1	

③中学校第1学年 (内容第6学年)

(ア)大領域の比較
大領域別集計 (正答率%)

内 容	川 越		全 国		自 校	
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 数と式	59.1	58.0	57.9	57.6	58.2	58.2
2 図 形	50.7	49.5	48.6	51.9	51.9	51.9
3 関数	51.7	50.5	49.4	52.7	53.3	53.3
4 資料の活用	45.5	44.0	44.2	43.3	44.0	44.0
偏差値	平成24年度平均 49.2		平成25年度平均 49.3		平成26年度平均 49.1	
偏差値	平成24年度平均 49.1		平成25年度平均 49.1		平成26年度平均 49.1	

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域	内 容	川 越	全 国	自 校		
				H.24	H.25	
()は問題番号	1 3 分数の乗法・立式 (8-1)	18.24	-6	17.24	-7	
	2 6 展開図・四角柱 (13-1)	67.72	-5	63.70	-10	
	2 6 展開図の辺の長さ (13-2)	73.76	-3	71.76	-5	
	2 6 四角柱の体積 (13-3)	38.46	-10	35.44	-9	
	2 6 円柱の体積 (13-3-2)	49.54	-5	48.54	-6	
	3 8 比例の事象 (17-1)	49.50	-1	46.50	-4	
	3 8 反比例の事象 (17-2)	22.27	-5	21.27	-6	
	3 8 比例関係の適用 (18-2)	40.50	-10	40.48	-8	
	偏差値	平成24年度平均 50.7	平成25年度平均 51.1	平成26年度平均 49.2		
	偏差値	平成24年度平均 51.1	平成25年度平均 49.2	平成26年度平均 49.2		

(ウ)中学校第2学年 (内容第1学年)

(ア)大領域の比較
大領域別集計 (正答率%)

内 容	川 越		全 国		自 校	
	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 数と式	55.1	52.7	47.4	49.1	50.6	51.3
2 図 形	50.2	49.1	50.6	51.3	45.3	45.3
3 側 数	39.6	38.4	45.3	45.3	37.7	40.0
4 資料の活用	38.4	36.9	37.7	40.0	0.7	-3.1
偏差値	平成24年度平均 50.7		平成25年度平均 51.1		平成26年度平均 49.2	
偏差値	平成24年度平均 51.1		平成25年度平均 49.2		平成26年度平均 49.2	

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域	内 容	川 越	全 国	自 校		
				H.24	H.25	
()は問題番号	2 4 作図の手順・垂線 (9-2)	52.63	-11	53.63	-10	
	3 6 yがxの関数 (19-1)	20.31	-11	20.29	-9	
	3 6 yがxに比例 (19-2)	44.56	-12	43.56	-13	
	3 6 yがxに反比例 (19-3)	39.46	-7	37.46	-9	
	3 6 比例定数 (22)	46.52	-6	44.52	-7	
	3 6 反比例のグラフ (23)	37.41	-11	34.41	-7	
	3 6 反比例の表と式 (24)	47.58	-11	47.58	-11	
	3 6 反比例の表と式 (24)	22.36	-8	18.36	-12	
	4 7 有効数字 (28-1)	25.33	-5	23.33	-10	
	偏差値	平成24年度平均 49.2		平成25年度平均 49.3		平成26年度平均 49.1
偏差値	平成24年度平均 49.1		平成25年度平均 49.1		平成26年度平均 49.1	

(イ)全国通過率30%以下の小問

- ・等式の性質 (5-1)
- ・1が方程式を解くこと (6-3)
- ・方程式をつくること (7-2)
- ・正負の数の加法・乗法 (8-2)
- ・平方根として表わされる数 (11-2)
- ・円すいの体積の計算 (16-)
- ・円の弦の長さ (17-)
- ・yがxの関数 (19-1)
- ・2次元のグラフを通る点 (20-2)
- ・反比例の表と式 (24)
- ・対数・べき乗 (25-2)
- ・ヒストグラムと棒グラフ (31-1)
- ・ヒストグラムの読み取り (31-2)

()は問題番号

【理科】

(1)小学校第4学年 (内容第3学年)

(ア)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 昆虫と植物	79.8	H.25	79.5	H.24	78.9	H.26	78.9
2 大橋と地面の様子	75.5	75.4	74.9	71.3	72.0	72.0	72.0
3 物の性質と動き	74.7	75.2	74.4	75.3	74.7	74.7	74.7
4 物と動き	76.2	75.4	75.4	71.7	72.5	72.5	72.5

偏差値 平成24年度平均 51.6
偏差値 平成25年度平均 51.3
偏差値 平成26年度平均 51.0

全国との差

全 国 と の 差

H.24 H.25 H.26

0.9 0.6 0.1

4.2 3.4 2.9

-0.6 0.5 -0.3

4.5 2.9 2.9

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 モンペロ模様の羽の観察 (1-2-1)	72	77	-5	74	78	-4	71
1 1 昆虫の体のつくり・腹 (2-1)	64	74	-10	68	76	-8	65
1 1 不完全変態・トンボ (4-4)	69	99	0	68	70	-2	66
1 2 種の観察・ホクセンカ (5-1)	77	81	-4	75	81	-6	76
2 4 地面の温度の測り方 (12-2)	73	82	-9	77	82	-5	75
2 4 光を浴びた時の様子 (16-)	56	57	-1	55	60	-5	55
3 7 水に浮かべた磁石 (18-)	67	73	-6	67	73	-6	67
3 6 鉄の缶とアルミ缶電流 (19-1)	18	26	-11	16	22	-6	16
3 7 鉄の缶とアルミ缶磁石 (19-2)	48	54	-6	47	52	-5	46
3 7 磁石の車・降雪物 (20-2)	64	71	-7	67	71	-4	64

偏差値 平成24年度平均 48.5
偏差値 平成25年度平均 48.9
偏差値 平成26年度平均 48.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.4 -1.2 -2.0

-1.6 -2.7 -2.6

-3.1 -2.6 -3.7

-2.0 -0.6 -1.4

(2)小学校第5学年 (内容第4学年)

(ア)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 季節と生物・人の体のつくり	70.9	72.1	71.3	73.3	73.3	73.3	73.3
2 月と星・天気の様子	58.4	57.3	57.4	60.0	60.0	60.0	60.0
3 電気の働き	66.9	66.7	65.6	70.0	69.3	69.3	69.3
4 空気・水・金属の性質と温度	68.3	67.2	66.4	68.3	67.8	67.8	67.8

偏差値 平成24年度平均 48.5
偏差値 平成25年度平均 48.9
偏差値 平成26年度平均 48.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.4 -1.2 -2.0

-1.6 -2.7 -2.6

-3.1 -2.6 -3.7

-2.0 -0.6 -1.4

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
2 4 折出する水容器 (9-2)	26	35	-9	24	34	-10	24
2 4 気体の浮けた水容器 (12-2-1)	22	39	-17	24	39	-15	20
3 7 小橋の役割と位置 (18-2)	33	48	-15	33	49	-16	30
3 7 肝臓の役割と位置 (18-4)	45	53	-8	41	53	-12	40
3 7 大橋の役割と位置 (18-5)	64	74	-10	61	73	-12	60
4 11 堆積時の様子・川 (20-2-4)	64	69	-5	64	69	-5	59
4 10 三日月と太陽の位置 (24-1)	32	39	-7	31	41	-10	27
4 10 月の表面・クレーター (24-4)	63	72	-9	68	72	-4	66

偏差値 平成24年度平均 48.5
偏差値 平成25年度平均 48.9
偏差値 平成26年度平均 48.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.4 -1.2 -2.0

-1.6 -2.7 -2.6

-3.1 -2.6 -3.7

-2.0 -0.6 -1.4

(2)中学校第1学年 (内容第6学年)

(ア)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 エネルギー	68.0	67.1	67.2	70.0	69.4	69.4	69.4
2 磁石	50.0	49.5	48.7	54.7	54.7	54.7	54.7
3 生命	72.0	71.7	70.4	74.7	74.7	74.7	74.7
4 地殻	59.1	59.4	57.1	61.3	61.3	61.3	61.3

偏差値 平成24年度平均 47.9
偏差値 平成25年度平均 48.0
偏差値 平成26年度平均 47.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.0 -2.3 -2.2

-4.7 -5.2 -5.0

-2.7 -3.0 -4.3

-2.2 -1.9 -4.2

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
2 4 折出する水容器 (9-2)	26	35	-9	24	34	-10	24
2 4 気体の浮けた水容器 (12-2-1)	22	39	-17	24	39	-15	20
3 7 小橋の役割と位置 (18-2)	33	48	-15	33	49	-16	30
3 7 肝臓の役割と位置 (18-4)	45	53	-8	41	53	-12	40
3 7 大橋の役割と位置 (18-5)	64	74	-10	61	73	-12	60
4 11 堆積時の様子・川 (20-2-4)	64	69	-5	64	69	-5	59
4 10 三日月と太陽の位置 (24-1)	32	39	-7	31	41	-10	27
4 10 月の表面・クレーター (24-4)	63	72	-9	68	72	-4	66

偏差値 平成24年度平均 48.5
偏差値 平成25年度平均 48.9
偏差値 平成26年度平均 48.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.4 -1.2 -2.0

-1.6 -2.7 -2.6

-3.1 -2.6 -3.7

-2.0 -0.6 -1.4

(2)中学校第2学年 (内容第1学年)

(ア)大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 身近な物理現象	52.0	50.0	58.5	58.5	58.5	58.5	58.5
2 身の回りの物質	59.9	68.5	65.7	66.2	65.7	66.2	65.7
3 植物の生活と種類	53.8	53.5	60.6	60.6	60.6	60.6	60.6
4 大地の成り立ちと変化	56.7	55.4	59.3	59.3	59.3	59.3	59.3

偏差値 平成24年度平均 46.5
偏差値 平成25年度平均 45.9
偏差値 平成26年度平均 45.9

全国との差

H.24 H.25 H.26

-5.6 -8.6

-5.8 -7.7

-6.8 -7.1

-2.6 -3.9

(イ)全国通過率との開きがある小問

大領域別集計 (正答率%)		川 越		全 国		自 校	
内 容	川 越	H.24	H.25	H.24	H.25	H.24	H.25
1 2 用語・フックの役割 (4-2)	51	79	-28	58	78	-20	58
2 4 用語・溶質 (11-1)	17	40	-23	19	40	-21	19
2 5 用語・薬留 (14-3)	28	42	-14	19	42	-23	19
3 7 用語・道管 (23-2)	42	62	-20	43	62	-19	43
4 9 溶着・穴のできた理由 (24-3)	58	76	-18	58	72	-14	58

偏差値 平成24年度平均 47.9
偏差値 平成25年度平均 48.0
偏差値 平成26年度平均 47.4

全国との差

H.24 H.25 H.26

-2.0 -2.3 -2.2

-4.7 -5.2 -5.0

-2.7 -3.0 -4.3

-2.2 -1.9 -4.2

【英語】

①中学校第2学年（内容第1学年）

(7)大領域の比較

大領域別集計（正答率％）	偏差値		平成25年度平均		平成26年度平均		全国との差
	川	越	H.25	H.26	H.25	H.26	
1 聞くこと	79.8	77.9	76.3	76.8	3.5	1.1	
2 話すこと	64.5	63.9	63.3	64.4	1.2	-0.5	
3 読むこと	56.0	56.3	52.7	52.7	3.3	2.6	
4 書くこと	54.3	52.9	50.0	52.2	4.3	0.7	

(4)全国通過率との開きがある小問10問

(7)全国・川越ともに
通過率30%以下の小問

大領域別集計	内 容	川 越	平成25年度		平成26年度		全国との差		
			全国との差	川 越	全国との差	川 越			
2	4 強讀して話す・兄弟の (6-2-1)		40	47	-7	40	47	-7	
2	4 強讀して話す・日越 (6-2-2)		54	59	-5	53	59	-6	
2	6 エビーチ・生んでいる (8-2)		69	72	-3	66	72	-6	
2	5 会話・質問に答える (9-4)		59	60	-1	56	60	-4	
4	10 単語数よりお気に入りの (13-3)		53	62	-9	54	62	-8	
4	10 通話選択・三単現 (15-3)		66	70	-4	65	70	-5	
4	11 通話順序・疑問詞 (16-1-3)		10	16	-6	9	16	-7	
4	11 英作文・ルーシー (17-2)		39	40	-1	38	44	-6	

内容	川 越	偏差値		全国との差
		H.25	H.26	
・ 字音の管理解・郵番号 (11-2)				
・ 文意の管理解 (12-3)				
・ 通話補充・彼女のもの (14-2)				
・ 単語数より・疑問詞 (15-1-3)				
・ 単語の導致 (16-2-2)				

()は問題番号

3 平成26年度「川越市中学生学力調査」報告書

■調査目的

- 川越市内の中学3年生の学習状況（中学で習得すべき学習内容がどの程度身に付いているか）を調査することによって、学習上の問題点や指導上の改善点を明らかにする。

■調査内容

- 国語・社会・数学・理科・英語について、学習指導要領に定める内容からペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて、第1回(9月)と第2回(11月)の2回実施した。

●受験者数（人）

	第1回	第2回
国語	2,770	2,745
社会	2,768	2,740
数学	2,768	2,744
理科	2,768	2,742
英語	2,767	2,741

【教科毎ごとの平均正答率（%）】

	第1回	第2回
国語	58.4	52.9
社会	48.0	47.4
数学	50.6	51.7
理科	51.7	44.7
英語	50.0	47.7

【平均正答率の推移】

教科別集計（平均正答率）

教科	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
国語	55.4	57.8	58.3	63.3	54.2	58.7	60.0	44.0	58.4	52.9
社会	53.8	48.9	45.5	51.5	53.6	59.6	47.3	49.6	48.0	47.4
数学	46.3	45.8	52.2	37.9	52.2	45.3	49.6	48.9	50.6	51.7
理科	46.9	56.7	38.8	46.8	51.7	51.0	43.8	47.3	51.7	44.7
英語	46.0	49.2	43.1	48.5	52.0	50.9	43.8	45.8	50.0	47.7

国語

【第1回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○文学的文章の読解

会話文や特徴的な表現をもとに主人公の心情や考え方をつかむ力をみることをねらいとした。選択肢から適切なものを選ぶことはできているが、自ら記述して答える設問になると、全く書けていないケースがみられた。本文の内容が理解できても、それを文章として適切に表現する力が不十分である。

○言語事項

漢字の読み書き、文法事項の基本に加えて、熟語や漢字の成り立ちが理解できているかどうかをみる設問とした。「預ける」のような日常的に用いているはずの漢字が書けないなど、基礎的な学力に不足がみられる。

○説明的文章の読解

文脈を追って文章の内容をとらえる力をみることをねらいとした。話題ごとに、大まかな内容をつかむことはできているが、文学的文章と同様に、自ら記述して答える設問になると書けなくなってしまっている。長く書かれた文章の要点をつかみ、条件に合わせてまとめる力が身に付いていない。

○古典的文章の読解

主語をおさえて読みながら、内容を大まかにつかむ力をみることをねらいとしたが、主語が正確につかめず、そのために内容理解が不十分である。古文についての基本的な知識の不足もみられる。

○作文

資料をもとにして自分の考えを書く力をみることをねらいとした。全体的には書けているが、原稿用紙の適切な使い方ができていないケースや書きかけ、全くの無解答も散見され、原稿用紙の使い方・時間配分などについての適切な指導が必要である。

〈多く見られる誤答分析〉

大問2

問1 (4) 正解 簡潔 通過率 45.4%

誤答 別字 率 30.1%

学習の場でよく見聞きし、自らも口にすることがあるはずの言葉だが、点画の過不足などではなく全くの別字を書き間違っている。漢字を適切に用いて書く機会を増やす必要がある。

大問4

問2 正解 むずかり 通過率 55.5%

誤答 その他 率 29.6%

基本的な歴史的仮名遣いの問題であるにもかかわらず、半数しか正解できていない。また、約15%は無解答である。基本的な知識の不足がみられる。

【第2回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○文学的文章の読解

登場人物の様子・行動などから、心情や人物像を適切に読み取る力をみることをねらいとした。本文に書かれた内容を正確に理解・把握せず、自分の感覚や思い込みで答えてしまっているケースが目立つ。

○言語事項

漢字の読み書きのほか、語彙や文法の知識をみる設問とした。漢字・四字熟語はある程度身に付いているが、敬語を適切に用いることができないなど、全体的に知識不足である。

○説明的文章の読解

文章の要点をつかみ、筆者の主張する内容を正しく理解する力をみることをねらいとした。書かれた内容はある程度理解しており、選択肢から適切なものを選ぶことはできている。しかし、記述して答える設問では無解答も目立ち、文章の要点をまとめて書く力が不足していることがわかる。

○古典的文章の読解

内容をある程度具体的につかむ力をみることをねらいとしたが、主語をおさえきれておらず、理解が不十分である。また、歴史的仮名遣いのルールを正しく身に付ける必要がある。

○作文

複数の意見の中から自分が賛成するものを選んで作文するという形で、理由を明確にして書く力をみることをねらいとした。指定された条件を守れていない、原稿用紙の適切な使い方ができていないなどがあり、作文に取り組む上での適切な指導が必要である。

〈多く見られる誤答分析〉

大問2

問2 正解 正しく単語に区切れている 通過率 7.5%

誤答 別の区切り方 率 91.5%

一文を単語に句切る問題だったが、文節と混同している・助動詞を一単語として区切ることができないなど、単語についての正確な理解が不足している。

大問2

問3 正解 エ 通過率 45.0%

誤答 ウ 率 41.1%

主人公の「気が重くなった」理由を選択する問題だったが、本文中に理由についての記載があるにもかかわらず、それとは無関係な一般論が書かれた選択肢が選ばれている。主観が優先され、本文に基づいて読み取ることができていない。

社 会

【第1回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○地理的分野

「世界地理総合」は、世界地図やグラフ、表などの読み取りを中心とした出題、「日本地理総合」は、日本地図やグラフ、地形図などの読み取りを中心とした出題、「世界・日本地理総合」は、世界地図や日本地図、写真などの読み取りを中心とした出題となっており、いずれも地理的技能や地理的分野の基礎的な知識の習得をみることをねらいとして出題した。表や地形図を読み解く技能は身に付いていると言えるが、基礎的な知識の習得は十分とは言えない結果となった。

○歴史的分野

「歴史総合(古代～近世)」、「歴史総合(近代)」、「歴史総合(古代～近代)」は、年表や地図、写真、絵などの資料を使い、歴史的事象に関する基礎的な知識の定着と、学習した知識や歴史資料を活用して文章で表現する力などをみることをねらいとして出題した。知識問題のうち選択問題の通過率は高いものの、語句記述問題の通過率は低く、歴史的事象に関する基礎的な知識の定着が十分とは言えない結果となった。

〈多く見られる誤答分析〉

大問1

問2 正解 通過率 29.4%

誤答 率 70.6%

誤答のうち、「放牧」の割合は14.3%、「酪農」の割合は7.1%、「畜産」の割合は0.9%、「その他」が19.6%、「無解答」が28.7%となっており、「無解答」の割合が最も大きくなっている。また、「その他」に含まれる解答として、「移動牧畜」や「移牧」と書いているものが複数見られた。遊牧は地理の教科書のはじめの方の単元（「世界各地の人々の生活と環境」）に掲載されている内容であるため、第1回の実施時点では復習が十分ではなく、知識として定着していなかったと考えられる。

大問4

問2 正解 通過率 13.5%

誤答 率 86.5%

誤答のうち、「イ→ウ→ア→エ」という順番になっているものが11.5%、「イ→ウ→エ→ア」という順番になっているものが8.0%となっており、「その他」に含まれる解答の中にも、「イ」から始まっているものが多く見られた。「ア」は韓国併合、「イ」は岩倉使節団の派遣、「ウ」は下関砲台の占領、「エ」は内閣制度の創設に関する内容だが、幕末から明治時代にかけての歴史の流れの確認が十分ではなかったと考えられる。

【第2回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○地理的分野

「世界地理総合」は、統計表やグラフの読み取りを中心とした出題、「日本地理総合」は、日本地図やグラフ、地形図などの読み取りを中心とした出題となっており、いずれも地理的技能や地理的分野の基礎的な知識の習得をみることをねらいとして出題した。地理分野における基本的な知識は身に付いているが、地理の学習で習得した技能を活用する力は十分とは言えない結果となった。

○歴史的分野

「歴史総合(古代～近世)」「歴史総合(近代)」は、年表や写真、絵、グラフなどの資料を使い、歴史的事象に関する基礎的な知識の定着と、学習した知識や歴史資料を活用して文章で表現する力などをみることをねらいとして出題した。知識問題の通過率は高いものの、歴史的事象を自分の言葉で説明する問題の通過率は低く、知識や資料を活用して表現する力は十分とは言えない結果となった。

○公民的分野

「わたしたちの生活と現代社会、基本的人権」は、現代社会の特色や基本的人権に関する学習事項の理解の程度、「日本国憲法と基本的人権」は、日本国憲法や基本的人権に関する学習事項の理解の程度をみることをねらいとして出題した。表やグラフの読みとりを行う問題の通過率は高いが、基礎的な知識を問う問題の通過率は低く、基礎的な知識の定着は十分とは言えない結果となった。

〈多く見られる誤答分析〉

大問4

問5 (文章記述) 正解 通過率 14.6%
誤答 率 85.4%

問題用紙中に提示された三つの写真資料を参考にして、①沖縄が戦場となったこと、②沖縄がアメリカ合衆国の統治下にあったこと、③沖縄が日本に復帰したことの三点をすべて書いて満点(5点)となる問題だが、①に触れず、②と③の二点だけを書いて部分点(3点)となった解答が多く見られた。現代史に関する復習や理解が不十分で、写真資料を活用しきれなかったものと考えられる。

大問6

問2 正解 通過率 8.2%
誤答 率 91.8%

誤答の中では「国民主権」は書いているものの、記号を「エ(内閣総理大臣の指名)」と書いているものが多く見られた(21.2%)。また、「国民主権」は書いているものの、記号を「イ(最高裁判所長官の指名)」と書いているものも次いで多く見られた(8.0%)。日本国憲法の三つの原則に関する理解は十分だが、天皇の国事行為に関する理解や、国会・内閣の仕事に関する理解が十分ではなかったと考えられる。

数 学

【第1回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○数と式・方程式

基本的な数と式の計算技能の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、75.9%であり、基本的な知識は十分に身に付いているといえる。しかし、連立方程式の立式（大問1(11)ア：正答率 57.6%/無解答率 15.5%）ができていない生徒が多くみられ、問題を正しく把握し、具体的な場面の中の数量の関係を式に表現することに課題があることがわかる。

○図形

基本的な図形の性質の理解や計量の技能、図形について論理的に考察し表現する能力の定着をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、30.6%であった。図形の対称性に着目し、垂直二等分線などを利用して、条件を満たす点を作図できるかをねらいとして出題した大問2(2)の無解答率が30.0%と高かった。条件を満たす図形の考察を通して、その作図に必要な方法を導き出す力に課題があることがわかる。

○関数

簡単な数量の関係を式に表すことについての知識や、一次関数のグラフについて図形の性質を利用して解く応用力の定着をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、34.3%であった。反比例の関係を表す式についての知識をみる大問1(7)の正答率が50.7%（無解答率16.0%）であり、関数についての基本的な知識が不十分であることがわかる。また、図形の性質を利用して条件を満たす点の座標を求める応用力をみることをねらいとした大問3(2)の正答率は低く、関数と図形の知識を関連させて考えることに課題があることがわかる。

○資料の活用

不確定な事象をとらえ、予測し、問題解決する能力をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、48.9%であった。

〈多く見られる誤答分析〉

大問1(8) 相対度数

正解 0.2 通過率 42.1%

誤答 5 率 22.6%

度数そのものを答えたと思われる誤答が大変多く見受けられた。「相対度数」の考え方を確実に習得できるようにするために、全体を1としてとらえる見方・考え方を丁寧に指導する必要がある。

大問4(1) 三角形の合同の証明<記述>

正解 正答 通過率 25.5%

誤答 合同条件のみ不可 率 4.7%

合同の証明に必要な式とその理由が書けているにもかかわらず、合同条件に誤りがあり、減点となってしまった誤答が見受けられた。合同条件を確実に習得できるようにするために、合同条件を活用して証明を完成させていく指導を丁寧に行う必要がある。

【第2回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○数と式・方程式

基本的な数と式の計算技能の習得をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、71.5%であり、基本的な知識は身に付いているといえる。因数分解を用いて式の値を求めさせる大問1(4)、解の公式を用いて二次方程式を解く大問1(5)など、3年生の学習内容である設問についての正答率も高い(それぞれ、80.8%、70.8%)。この分野の中では、具体的な場面で方程式を利用することができることをねらいとした大問1(11)アの正答率(42.2%)が低く、文章を正確に読み取り、文字式で表現することについて課題があることがわかる。

○図形

基本的な図形の性質の理解や計量の技能、図形について論理的に考察し表現する能力の定着をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、40.3%であった。垂直二等分線と垂線を利用して、条件を満たす点を作図できるかをみることをねらいとした大問2(2)の達成度(53.8%)は高く、無解答率(15.6%)も低かった。「2点から等しい距離にある点」、「点から最も近い」といった作図方法を直接的に指示する問題文から、正しい作図をする技能については十分に身に付いているといえる。

○関数

一次関数についての基本的な理解や、変化の様子について一次関数を利用して表現・処理する技能、関数 $y=ax^2$ について図形の性質を利用して解く応用力などをみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、37.5%であった。三角形の面積の比から条件を満たす直線の式を求める大問3(2)の正答率(16.8%)は低く、無解答率(51.6%)は高かった。面積比から点の座標、点の座標から直線の式、と求める答えまでに複数の手順を必要とする問題であるが、各々の手順自体は決して難しくない。答えまでの手順を論理的に考察し、確実に解いていく態度や考え方を身に付ける必要がある。

○資料の活用

不確定な事象をとらえ、予測し、問題解決する技能をみることをねらいとして出題した。

この分野の達成度は、55.6%であった。

〈多く見られる誤答分析〉

大問1(7) 一次関数と y の変域

正解 通過率 55.1%

誤答 率 32.1%

切片の「7」を書いたり、関数 $y=ax^2$ の場合と混同し、最小値を「0」と書いたりする誤答などが見受けられた。変域の考え方を確実に習得できるようにするために、グラフに表して求めていく指導を積み重ねる必要がある。

大問1(8) 中央値(メジアン)

正解 18.8 通過率 42.3%

誤答 18.3 率 10.9%

「平均値」を答えた誤答が多く見受けられた。各々の代表値の意味を確実に習得できるようにするために、具体的な資料の読み取りを踏まえ、理解を深める指導を積み重ねる必要がある。

理 科

【第1回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○大地の変化

地層の観察から読み取れることを中心に、岩石や化石の基礎的な知識の習得をみることをねらいとして出題をした。堆積岩の区別や、地層から過去に起きたことの推定などは通過率が高かったが、岩石の名称や化石の特徴を問う問題で通過率の低いものもあり、基礎的・基本的な知識の定着がやや不十分であることが分かる。

○動物の生活と生物の変遷

刺激と反応についての基礎的な知識の習得に加え、実験・観察結果の読み取りや考察する力をみることをねらいとして出題した。名称を問う問題や反射の事例などの知識は概ね身に付いているが、反射が起こることの利点を問う問題の通過率は低く、観察結果から考察し表現する力を付けることが課題である。

○身のまわりの物質

再結晶の実験の基礎的な知識の習得に加え、表やグラフから必要な数値を読み取り、答えを導き出す能力をみることをねらいとして出題をした。実験操作や結果の因果関係は理解できているが、質量パーセント濃度を求める問題や、表をもとに必要な数値を選択し答えを求める問題は誤答や無解答が多い。計算を含め、科学的な思考力・表現力を身に付けることが課題である。

○電流の世界

実験操作を正しく行う技能、電流と磁界の関係を理解し、磁界や電磁誘導の実験結果から考察する力などをみることをねらいとして出題した。コイルにはたらく力の向きや大きさについての実験操作の問題は概ね通過率が高いが、電磁誘導の実験操作は通過率が低い。電磁誘導を利用した機器についての問題の通過率も低いことから、電磁誘導の理解が十分ではないと考えられる。

〈多く見られる誤答分析〉

大問2

問2 (2) 正解 ア 通過率 31.0%
誤答 イ 率 32.3%

示準化石となる生物について、生息範囲の広さは理解しているが、栄えて絶滅するまでの期間の理解が曖昧であったと考えられる。

大問5

問2 (3) 正解 ア 通過率 34.0%
誤答 ウ 率 38.9%

磁界の中で電流が流れるときに受ける力を利用したモーターと、電磁誘導を利用した発電機の区別がついていないと考えられる。

【第2回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○天気とその変化

簡易真空容器で雲を作る実験を通して、雲ができる様子を正しく理解しているかどうかをみることをねらいとして出題をした。気圧と温度の関係については概ね理解しているが、雲のできる過程を実験と関連付けて考えることに課題がある。表から必要な数値を読み取り、湿度を求める問題は全体で最も通過率が低く、基礎的な知識と読み取る力を身に付ける必要がある。

○生命の連続性

エンドウの花のつくりやメンデルの実験を通して、受粉や遺伝に関する基本的内容から発展的内容までを理解しているかどうかをみることをねらいとして出題をした。全体的には他の単元よりも通過率は高めであったが、受粉後の花粉の様子と実験の精度を上げる方法の記述問題の通過率がやや低く、基礎的な知識と表現する力を身に付ける必要がある。

○化学変化とイオン

酸・アルカリの性質を調べる実験から、酸性とアルカリ性の違いとイオンとの関係、中和について理解しているかどうかをみることをねらいとして出題をした。中和を表す化学反応式については概ね理解できているが、酸性とアルカリ性に含まれるイオンや、中和と中性の違いについての理解が十分ではないと考えられる。

○運動の規則性

物体の運動についての知識の定着と、実験データからグラフ作成や計算を行う力の習得をみることをねらいとして出題をした。表から等速直線運動であることを読み取り、グラフを作成することが課題であると考えられる。また、斜面を下る台車にはたらく力についての理解が不十分である。運動の規則性についての正しい知識と科学的に思考する力を身に付けることが必要である。

〈多く見られる誤答分析〉

大問2

問3 (2) 正解 エ 通過率 23.3%

誤答 ウ 率 52.8%

露点に達すれば水蒸気が水滴になること、水蒸気は目に見えないこと等の理解が不十分であったと考えられる。また、白く見えたものと水滴のイメージが結びつきにくいことも考えられる。

大問5

問1 (2) 正解 ア 通過率 23.0%

誤答 イ 率 67.5%

速さがだんだん速くなることから、力も大きくなると答えたと思われる。力と速さの関係、重力や分力についての理解が不十分であったと考えられる。

英 語

【第1回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○リスニング

対話やある場面を説明した英文を聞き取ることができるかをねらいとして出題した。4つの分野の中で最も通過率が高く、日頃の指導の成果が出ている。特に情報数(量)が少ないものや音声で聞き取ったキーワードがそのまま選択肢になる問題では高い通過率になったが、複数の情報から判断して答える問題になると、通過率が落ちる傾向が見られた。応用力を付けることが課題である。

○対話文の読解

対話文を読み取り、対話の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。選択式の問題はある程度解けたようだが、記述を伴う問題では通過率が低く、表現力の定着が課題である。

○長文の読解

まとまった量の英文を読み取り、英文の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。長文の内容を把握する力はある程度ついているが、対話文の読解同様、記述を伴う解答では通過率が低く(選択式問題が4割以上の通過率なのに対し、大問4問2の英問英答の通過率は18.4%)、無解答率の高さも目立った。読みとった内容を英語で表現する力が課題である。

○英作文

与えられた条件に従い、自分の考えなどを含めてまとまった内容の文章が書けるかをねらいとして出題した。上位群と下位群の差が見られる。上位群の生徒は、最後の文でI want to ~などの表現を使って今後の抱負を書くなど、構成にまで気を配った解答が見られた。下位群の生徒は、1・2文目は比較的書けており、like to ~[~ing]の表現は書けているが、3文目以降の文を書けていない。基本的語彙の定着や、時制、接続詞becauseを使った表現等、学習済みの文法事項の定着が課題である。

〈多く見られる誤答分析〉

大問2 問4

正解 通過率 28.6%

無解答 率 26.2%

誤答の中には、数ではなく、具体的な色を列挙した誤答が一定数見られた。

大問3 問3

正解 通過率 13.9%

無解答 率 9.5%

誤答のパターンはさまざまだったが、文全体の意味を正しくつかんでおらず、“one of”の部分を正しく並べられていても、be動詞isの直後にAbby'sを置いた誤答が比較的多く見られた。

大問5 〈誤りの見られる表現の主なもの〉

- ・名詞的用法の不定詞や動名詞を使う場面で、動詞の原形を使っている。
- ・Because ~.の誤用(主節がないもの)

【第2回 結果講評】

〈各分野の出題の意図と考察〉

○リスニング

対話やある場面を説明した英文を聞き取ることができるかをねらいとして出題した。4つの分野の中では通過率が一番高く、日頃の指導の成果が出ている。ただし、問4・5の通過率が他の小問と比べてやや低かった。状況にふさわしい表現を選ぶ力を付けることが課題である。

○対話文の読解

対話文を読み取り、対話の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。設問に関連した部分の読み取り問題の通過率は比較的高いものの、記述を伴う問題や対話文全体の理解を必要とする問題の通過率は低い傾向にあった。表現力や対話全体の流れを捉える力の定着が課題である。

○長文の読解

まとまった量の英文を読み取り、英文の内容を正しく把握することができるかをねらいとして出題した。第1回より通過率が下降したが、これは大問4の問4の解答形式を入試に合わせて適語補充にしたためだと考えられる。表現力、特に要約文に正しい形で語を補充できる力の定着が課題である。

○英作文

与えられた条件に従い、自分の考えなどを含めてまとまった内容の文章が書けるかをねらいとして出題した。第1回は2文のみ、3文のみの解答が目立ったが、第2回は5文書いている解答がより多く見られた。また、「モノ」であるKawagoeを主語にし、受け身形を使って巧みに表現した文なども見られた。第1回と比べ、文法事項の定着が見られる。冠詞の使い方など、細かいポイントだけではなく、学習済みの文法事項のさらなる定着が課題である。

第1回も第2回も、埼玉県の入試と比べて英作文の無解答率が少なく、英文を書くことの意欲付けはよくできていると思われる。ただし、何らかの内容を書いたが点数が全く入らなかった割合は埼玉県の入試と比べて高い。まとまりのある内容を、誤りのない英文で書くことが課題と言える。

〈多く見られる誤答分析〉

大問3 問7

正解 通過率 18.2%

誤答 率 52.1%

無解答 率 29.8%

does she do と現在時制にしたものや、did you do と主語を you にした誤答が目立った。

大問4 問4(2)

正解 walking 通過率 21.9%

誤答 walked 率 11.2%

解答すべき内容を理解できていたと思われる約4割の生徒のうち、約半数が適切な語形にすることができなかった。～ing形にせず、過去形で答えてしまった誤答が目立った。

大問5 〈誤りの見られる表現の主なもの〉

- Kawagoe is __ beautiful[nice] city. (冠詞の抜け)
- Kawagoe is Tokinokane [long history]. (has を使うべき場面で be 動詞を使っている。)

4 指導の手立て

～「教研式標準学力検査（NRT）」「川越市中学生学力調査」を活用して～

【国語科（小学校）】

1 国語科における本市の傾向

（1）教研式標準学力検査（NRT）の偏差値からみた傾向

- ・平成26年度、第4学年は50.8、第5学年が51.1と平均値の50をわずかに上回っている。
- ・平成21年度からの推移をみると、第4学年、第5学年ともに、偏差値は下降傾向にある。

（2）教研式標準学力検査（NRT）の正答率にみる全国との比較

①第4学年

- ・大領域別では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、全国平均を2.6ポイント下回っている。
- ・中領域では「文学的な文章を読むこと」「指示語の理解」「ローマ字を書くこと」が全国平均を下回っている。また、「話題に沿って話し合うこと」、「文の中心やつながりに注意して書くこと」、「説明的な文章を読むこと」、「辞書を活用すること」では、全国平均を上回っているものの、60%以下の正答率となっている。

②第5学年

- ・大領域ではすべての領域で、全国平均を上回っている。しかし、「書くこと」、「読むこと」が60%以下の正答率である。
- ・中領域では、「目的に応じて話すこと」、「漢字の読み書き」の2領域で全国平均を下回っている。また、「目的に応じて構成を考えて書くこと」、「文の中心やつながりに注意して書くこと」、「説明的な文章を読むこと」、「文学的な文章を読むこと」、「ことわざについて理解すること」では、全国平均を上回っているものの、60%以下の正答率となっている。

2 国語科における課題

（1）ローマ字の読み書き

ローマ字は、第3学年で学習するが、使用する機会が少なく、定着が図れていない。促音や拗音などの書き方も含めて繰り返し指導する必要がある。

（2）ことわざの理解

知っていることわざの数が少ない。単元で学習した後に、生活の中で触れる機会を設ける。

（3）説明的な文章を読むこと

内容を読み取ることや構成を捉えることが、あまりできていない。各学年の指導事項を系統的に身に付けさせていく。

※以上の課題をふまえ、次ページより説明的な文章を読む力を高めるための具体的な指導の手立てを紹介する。

3 指導の手立て

【低学年】「のりものことをしらべよう」(東京書籍 新編 あたらしいこくご一下)

第1学年及び第2学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

- (1) 目標を設定する。(身に付けさせる力を明確にする。
目標 書かれていることの順序を考えながら読むことができる。)
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(言語活動を意識した読み方)

① 目標を達成するための言語活動を設定し、学習の見通しをもつ。

(例) 「1ねん〇くみ のりもの ずかん」をつくろう。



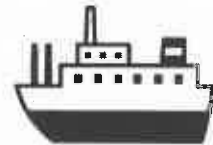
- ・書いてあることを正しく読めるようにする。
- ・順序よく説明できるようにする。(説明のパターンを身に付ける。)
- ・「のりもの」に興味を持ち説明したいという意欲を持つ。

身に付けさせたい力を意識した学習課題を設定する。

② 「のりもの」に興味を持つ導入づくりをする。

(例) ・身近な乗り物について話し合う。

- ・乗り物の写真や映像を見せる。
- ・乗り物が主人公の物語を読み聞かせる。



③ 文章のつくりを整理し、ワークシートをつくる。→ カード作り (P.44)

- ・()は ~ための ふねです。(P.38L.2) - 「やく目」
- ・~が あります。(P.38L.4) - 「つくり」
- ・~で ~します。(P.38L.6) - 「できること」

4つの船について徐々に自分の力でまとめられるようにする。

→ワークシートを単語の書き込み式から枠のみにするなど段階的に書く量を増やしていく。

④ すきな乗り物についての本を読ませるための準備をする。

- ・学校図書館から乗り物に関する本を集める。
- ・市立図書館から集団貸出を利用して図書を用意する。
- ・家庭にある本を持ってきてもよいことを伝える。

〈図書選定のポイント〉

読み仮名はふってあるか。言葉遣いは難解ではないか。

情報量は適当か。(多すぎると読みきれない。カード型の図鑑なども有効。)

挿絵や写真は適当か。(特に低学年の児童には図や絵が重要。)

→1年生に適した図書を選ぶために司書教諭や学校司書のアドバイスを
受ける。

(3) 学習課題を設定し、支援を工夫する。

- ・音読を徹底して行い、説明的な文章の構成や文のリズムを自然に身に付けさせる。
- ・電車や自動車など乗り物好きな児童に紹介してもらい、関心を高める。
- ・板書の際、「やく目」「つくり」「できること」の部分を中心に色分けしてパターン化する。
- ・挿絵(写真)を活用して書いてある内容が具体的に理解できるようにする。

【中学年】「自然のかくし絵」(東京書籍 新編 新しい国語三上)

第3学年及び第4学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

- (1) 目標を設定する。(身に付けさせる力を明確にする。)
目標 段落の内容をとらえながら読むことができる。
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(読み取る方法と表現等を明確にする。)

① 「段落」の意味を理解し、学習の見通しをもつ。

文書の中にいくつかある、小さい内容のまとまりを、段落という。まず、**段落に番号をつけ、それぞれの段落の内容を短い文でまとめる**活動を行う。また、まとめた内容をもとに、**文章全体の構成をとらえる**。

- ② 形式段落に番号をつけ、いくつかの段落で構成されているかを確認する。
- ③ それぞれの段落の内容を短い文でまとめる。

○繰り返し出てくる言葉を見つける。

- ・こん虫 ・色 (木のみきや草の色、緑色、黄色など)
- ・体の色 ・ほご色 ・役立つ ・てき ・身を守る



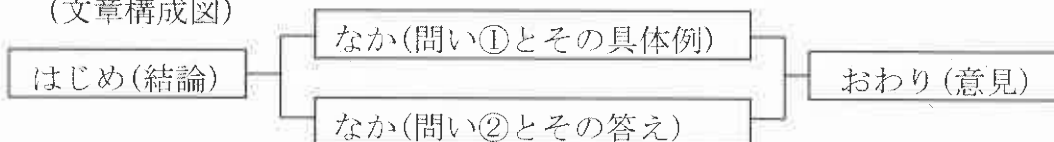
○大事だと思う言葉 (題名「自然のかくし絵」とつながりがある言葉) に気をつけて読み取る。

- ・見分けにくい色 ・身をかくす ・目をだます

④ 説明の順序に気をつけて(第2学年にて既習)、文章全体の構成をまとめる。

- ・「～でしょうか。」—第3段落、第8段落が問いであることがわかる言葉
- ・「たとえば」「また」「さらに」「このほかにも」—前段落とつなぐ接続語
- ・「では」—第8段落で話題が変わることがわかる接続語
- ・「このように」—まとめが書かれていることがわかる言葉

(文章構成図)



(3) 学習課題を設定し、支援を工夫する。

○ 文章に即した写真を手立てに、段落の内容を捉える。

→それぞれの写真がどの段落の内容を分かりやすくしているか考えよう。

(支援)・P.38の写真は、どの段落の内容に合っていますか。

- ・こん虫の名前や色に着目しましょう。

○ 段落相互の関係を捉え、文章の構成をまとめる。

→文と文をつなぐ言葉に気をつけ、文章全体の組み立てを考えよう。

(支援)・文と文をつなぐ言葉を□でかこんでみましょう。

- ・「はじめ」「なか」「おわり」の大きな3つの段落にまとめましょう。

【高学年】「動物の体と気候」（東京書籍 新編 新しい国語五）

第5学年及び第6学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんに読むこと。

- (1) 目標を設定する。(身に付けさせる力を明確にする。)
 目標 要旨をとらえることができる。
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(読み取る方法と表現等を明確にする。)

① 「要旨」の意味を理解し、学習の見通しをもつ。

筆者の述べたいことの内容を要旨という。要旨をとらえるために、**段落の中心をまとめ、事実と感想、意見の違いを整理し、文章の構成をまとめる活動を行う。**

② 段落の中心をまとめる。(第3学年及び第4学年にて既習)

③ 文末表現に着目し、事実と感想、意見との違いに気づく。

- ・～体温が下がるのを防ぐのに役立っている。(P. 33L. 9)－事実
- ・～寒地の生活に適しているわけである。(P. 35L. 5)－事実
- ・～直接受けないようになっているのである。(P. 36L. 1)－事実
- ・～最高のけっさくであるといえるだろう。(P. 36L. 9)－感想、意見

④ 段落の中心や接続語等に着目し、文章の構成をまとめる。

- ・「逆に」(P. 33L. 11)－第4段落と第5段落をつなぐ接続語
- ・「また」(P. 34L. 9)－第7段落で話題が変わることがわかる接続語
- ・「だけではない」(P. 36L. 3)－第13段落を本論③に含むことがわかる言葉



⑤ 結論に要旨が書かれていることを理解し、決められた文字数でまとめる。

すんでいる場所の気候や風土に合うようにできている動物たちの体は、自然が長い年月をかけて作りあげてきた、最高のけっさくである。

(3) 学習課題を設定し、支援を工夫する。

○ 文末表現に着目し、事実と感想、意見との違いに気づく。

→段落の中心となる文を事実と感想、意見に分類しよう。

(支援)・動物の体のことについて具体的に書かれていますか。(事実)

・文末の書き方に着目しましょう。

○ 段落の中心や接続語等に着目し、文章の構成をまとめる。

→段落のまとまりを整理し、文章の組み立てを考えよう。

(支援)・文と文をつなぐ言葉(接続語)に着目しましょう。

・中心となる文の内容を比べ、その関係を考えましょう。

・段落のまとまりの組み立てを考え、図に表しましょう。



【国語科（中学校）】

1 国語科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）より

川越市国語科の偏差値は例年と同じく、中学校で実施する第1、2学年とも平均50を越えている。昨年度と比較しても第1、2学年ともに偏差値は上昇している。また、ここ5年間の経年変化を見ると、本市中学生の平均偏差値は学年が上がるにつれて低下する傾向にあったが、今年度の第2学年は平成25年度と比較し、はじめて0.6ポイント上昇した。これは、市内各中学校がこれまでのNRTの結果を分析し、日頃の取組を工夫した成果と考えられる。

大領域の比較を見ると、本市の生徒は「話すこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を上回っている。特に「書くこと」は両学年ともに毎年2ポイント程度高く、得意な領域である。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質」は例年全国平均を下回っており、不得意な領域である。

さらに中領域・小問を見ると「伝統的な言語文化と国語の特質」の中の「漢字の読み・書き」が例年大きく下回っている。特に第1学年では全国と比較し、書きの「測量」では20ポイント前後、送り仮名の「快い」も「測量」と同程度下回っている。第2学年でも、書きの「垂らす」「険しい」などは毎年下回っている。第2学年では、「説明的な文章の読み取り」も下回っており、今後論理的な文章の読み取りの指導を工夫する必要がある。

(2) 川越市中学生学力調査の結果から

国語科全体では、1回目の正答率が58.4%で、第2回目は52.9%であった。1回目と2回目の正答率を比較すると、2回目が5.5ポイント下がっている。問題別の正答率を見ると第2回では大問2の語句・文法が大きく下がったことと、大問3の説明的文章の内容理解が第1回と比較して下がったことが主な原因と考えられる。

問題毎の正答率から具体的な課題を見ると、第1回目では、

- ・古典の主語を問う問題は17.7%と際だって低かった。
- ・古典の「内容の理解」が28.2%と次に低い。
- ・説明的文章の「内容の理解」が29.8%、39.9%と小問2問ともに低かった。
- ・漢字の読み取り「萎えた」が46.1%、書き取り「簡潔」が46.1%、「預ける」が50.1%と全体の中では若干低い結果となっている。

第2回目では、

- ・漢字は第1回と比較し大きく上昇し、「勇敢」「軌跡」「薦める」の読みは70%後半から90%の正答率、書き取り「吸う」は90%以上の正答率で書き取りの「拡散」以外はかなり高い結果となった。
- ・文法の単語に区切る問題が7.5%、熟語の組み立てで漢字一字を入れて完成させる問題は4.9%という非常に低い結果であった。記号を選択する四字熟語や敬語の問題はある程度できていたが、上記の2問が記述式であったことも正答率の低い原因と言える。
- ・古典の正答率は第1回目より第2回目が総じて上昇している。これは古典学習が年間指導計画で2学期に配置されていることが原因と考えられる。

2 国語科における課題

本年度実施のNRTおよび、川越市中学生学力調査の結果から、中学校国語科における課題は以下のように考えられる。

- (1) ここ数年、中学生の課題として言語事項が弱い傾向が続いている。第1学年NRTでは書き取り「測量」「往復」、や第2学年「垂らす」は例年全国平均と比較して、20ポイント前後下回っている。また、中学校学力調査でも書き取りがどの調査でも低い傾向にある。また、同音異義語や熟語の構成は例年苦手分野である。
- (2) 文学的文章では、心情の理解は読み取れるものの、行動とその理由の読み取りが正確にできないという傾向がある。さらにその理由を限られた文字数の中で表現することになると、正確に表現することができていないという課題が明確になっている。
- (3) 表現における課題は手紙文を書くことを苦手としている事が挙げられる。これは、スマートフォンや携帯電話が中学生にも普及し、それらから友人や家族に気軽にメールやSNS

- (LINE・Facebook・Twitter 等)で文章を送ることが多くなった反面、挨拶文や手紙などフォーマルな文章を書く機会が非常に少なくなっていることが大きな原因と考えられる。
- (4) 文法面においては副詞を正確に理解できていないという課題が見受けられる。どの語句を修飾し、どんな状態や程度を表す語句なのかを身に付けている中学生は少ない。また、読書経験や文章を読解する機会の少ない生徒にとっては、副詞の呼応関係を目にすることが少ないためか、正確に身に付いていない状況である。

3 指導の手立て

これらの課題をもとに、本年度の指導の手立ては以下の3点であると考え、課題解決のための指導資料を作成した。(指導資料①②③)

(1) 間違いやすい漢字

漢字の学習はより多くの語句に触れるような学習機会を作り、繰り返し行うことが重要である。熟語の構成についても同様であり、指導計画作成の際、意図的・計画的に学習する場面を設けていくことが必要であろう。また、送り仮名の難しい漢字についても学習機会を増やし、数多く触れさせたい。

具体的には、特に間違いやすい同音異義語は「開放・介抱・快方・解放・解法・会報」のように使用頻度が多く同音異義語の数が多いものである。そこで、指導資料①では上記のような同音異義語の問題を掲載した。

次に、熟語の構成については、二字熟語の5つの構成「意味が似ている漢字」「意味が対になる漢字」「主語と述語の関係」「下の漢字が上の漢字の目的や対象を表す漢字」「上の漢字が下の漢字を修飾する漢字」についてもしっかりと学習させたい。

さらに、「著しい」「暖かい」などのように中学生が日常使用する中で、間違いやすい送り仮名について学習機会を増やしたい。

(2) 手紙の書き方

メールやSNS (LINE・faceBook・Twitter 等)で文章を送ることが多くなった昨今の中学生は、改まった手紙を書く機会が非常に少なくなっている。

手紙に関しては、(1)学習する場の設定(指導計画上の位置付け)→(2)手紙の定型を学ぶ(スタンダードの認識)→(3)手紙を書く機会を増やす(活用能力の育成)と言う流れを設定する必要がある。特に(2)の手紙の定型をしっかりと身に付けることが重要であると考えた。

そこで、手紙文の正しい書き方を身に付けるために実際の手紙文を指導資料②(ワークシート)として作成し、定型の定着を図る工夫をした。このワークシートは「書き出し」「時候のあいさつ」「結びのあいさつ」「日付」「署名」「あて名」を正しく書き込む場所が学習できるような構成になっている。また、下段にヒントを配し、より学習しやすくなるようなスタイルにした。

特に時候のあいさつの文言はある程度決まっているので、1年(1月から12月)の具体的な文言を複数記入できるよう指導したい。学習する際には、国語便覧や国語辞典等を活用しながら行う指導をこころがけたい。(国語辞典などの活用は日頃の国語科の授業でも同様である)

(3) 文法(副詞の呼応)

携帯電話やスマートフォンでのメールのやりとりや、若者文化が作り出す造語などの言語環境によって、活用しない自立語の中の「副詞」は使う機会の多い割に正しく使えていない、という実態がある。

そこで、「副詞」の学習についての指導の手立てを指導資料③(ワークシート)として作成した。「連体詞」や「副詞」の用法等を習得する場合、第1学年で学習すべき「修飾・被修飾の関係」が理解できないために身に付いていない生徒も多い。したがって、「連体詞」や「副詞」の学習の前段階として、「修飾・被修飾の関係」を確実に理解させる手立てが必要である。

指導の手立てとして作成した指導資料③(ワークシート)は、「副詞の定義」について設問形式にまとめた。その種別(状態の副詞・程度の副詞・呼応の副詞)の具体例を挙げながらそれぞれについて説明した。

同音異義語

次の一部の同音異義語を正しく書きなさい。

- ① (1) 校庭をカイホウする。()
- (2) 病人がカイホウする。()
- (3) 病状がカイホウに向かう。()
- ② (1) コウセイな判断。()
- (2) ケラ刷りをコウセイする。()
- (3) 社会をコウセイする一員。()
- ③ (1) 政府の見解をシジする。()
- (2) 部下にシジする。()
- (3) 著名な陶芸家にシジする。()
- ④ (1) カンシヨウ的な文章。()
- (2) 絵画をカンシヨウする。()
- (3) 他人の生活にカンシヨウする。()

熟語の構成

次の一部と同じ構成（成り立ち）になっている熟語を、後のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ① 歡喜に満ちた表情
ア 哀歎 イ 佳境 ウ 失策 エ 帰還 ()
 - ② 吉凶を占う。
ア 無傷 イ 雌雄 ウ 山岳 エ 応募 ()
 - ③ 肉を解凍して食べる。
ア 攤手 イ 和食 ウ 巨木 エ 河川 ()
 - ④ 机上に書類を置く。
ア 巨大 イ 開会 ウ 曲線 エ 功罪 ()
- 送りがなの難しい漢字
次の一部のカタカナを漢字一字と送りがな（ひらがな）に直しなさい。
- ① イチジルシイ変化があった。()
 - ② 指示されていた手順をアヤメル。()
 - ③ 会社にツトメル。()
 - ④ 練習中に足をイタメル。()
 - ⑤ アタタカイ季節になる。()
 - ⑥ ムスカシイ問題を解く。()
 - ⑦ 税金をオサメル。()

手紙の書き方

この手紙は、中学生の小島貴子さんが安藤梨葉の持様にあって書いた手紙です。

1 左の空欄に当てはまる語を書きなさい。

①書き出し ②時候のあいさつ
③安否のあいさつ ④用件
⑤書き起こし ⑥挨拶

「1」 さわやかな秋風の吹く季節となりました。皆様にはお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、先日は真夏の暑さの中、私達の総合的な学習の時間のためにお時間をいただき、誠にありがとうございました。川越の街の伝統を深く学び、私たちも川越の伝統を守っていこう、という思いが強くなりました。また機会がありましたら、ぜひお話を聞かせください。

⑦結びのあいさつ
皆様の健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

前日付
〇月〇日
⑧宛名

①書き出し ②結びの例
書き出しと結びの例

書き出し	結び
一般的な手紙	敬具
改まった手紙	敬白
親しい人へ	さようなら
前文を略す場合	草々
前略	

2 右の手紙が書かれた季節はいつですか。()

3 身の回りで見つけた季節感を取りあげて、時候のあいさつを考えよう。

① 四月 ()

② 七月 ()

4 次の時候のあいさつは、何月に使うとよいでしょうか。

① 風靡る季節となりました。

② 秋も深くなってまいりましたが、

③ 春まだ浅い今日このごろですが、

④ 師走に入って寒さが一段と増してまいりましたが、

⑤ 菜陽花の花が雨に似合うこのごろですが、

()月 ()月 ()月 ()月 ()月

⑥ 敬称を
行末にそろえて書く。
本文より二字ほど下げる。
本文より
行末にそろえて書く。
行頭にそろえて書く。

中学校国語科 指導資料③

「副詞の呼応」をマスターしよう

まよとめまよ

副詞とは・・・(①)語で、活用が(②)。

主として、(③)を修飾する品詞。

情態の副詞・・・「どのように」という状態を表す。

例・・・ゆづり 走る。 サイサイ 降る。

程度の副詞・・・「どのくらい」という程度を表す。

例・・・かなり 大きい。

呼応の副詞・・・下に決まった言い方がきて、話し手の気持ちや態度を表す。

例・・・まるで 夢の ようだ。 決して 言わ ない。

1 次の一線の副詞と呼応するように、() にあてはまる語を から選んで書きなさい。

- ① まるで春の () 暖かさだった。
- ② たとえ失敗し () あきらめない。
- ③ まさかそんなことはある () 。
- ④ こんなことはめつたに起こら () 。
- ⑤ いったい何をすればいいの () 。
- ⑥ おそろしく明日は晴れる () 。

- ⑦ ない
- ⑧ ても
- ⑨ でしょう
- ⑩ ような
- ⑪ まい
- ⑫ か

2 次の一線の副詞に呼応させて、「話す」という語を使って() に書き入れなさい。

- ① たぶん彼は母に () 。
- ② もし彼が () 、よく聞いてあげてください。
- ③ たとえ彼が () 、本当だと思わないでくれ。
- ④ いくら聞いても、かれは決して () 。
- ⑤ なぜ彼は全然 () 。

3 次の文中の一線の言葉に合わせて、間違いを探して書き直しなさい。

- ① たとえ両親が反対したら、私は夢をあきらめない。() () ()
- ② クラスの中で、ほとんど賛成する人はいる。() () ()
- ③ かなり勉強したのに、少しも成績はよくなった。() () ()
- ④ 彼はめつたに忘れ物をする。() () ()
- ⑤ どうして彼は無断で休んだのです。() () ()

指導資料①解答

- 1 ① (1) 開放 (2) 介抱 (3) 快方
- ② (1) 公正 (2) 校正 (3) 構成
- ③ (1) 支持 (2) 指示 (3) 師事
- ④ (1) 感傷 (2) 鑑賞 (3) 干渉
- 2 ① エ ② イ ③ ア ④ ウ
- 3 ① 著しい ② 誤る ③ 勤める ④ 痛める ⑤ 暖かい
- ⑥ 難しい ⑦ 納める

指導資料②解答

- 1 ① 拝啓 ② 小島貴子 ③ 安藤製菓の皆様
- 2 秋

- 3 ① (例) 剣道場の寒さに身も心も引き締まるこのごろです。
- ② (例) 新入生の制服姿が学校をにぎわす季節となりました。
- ③ (例) 夏の青空の、まぶしい日々となりました。

- 4 ① 五月 ② 十月 ③ 三月
- ④ 十二月 ⑤ 六月

指導資料③解答

- 1 ① 自立 ② ない ③ 用言
- ④ ような ⑤ ても ⑥ まい ⑦ ない ⑧ でしょう
- 2 ① 話すだろう (話すでしょう)
- ② 話せば
- ③ 話しても
- ④ 話さない
- ⑤ 話さないのか

- 3 ① たらなくても
- ② いるーい
- ③ なったーい
- ④ するーい
- ⑤ ですよーい

【社会科（小学校）】

1 社会科における本市の傾向

(1) 全国と川越市の偏差値の比較より

教研式標準学力検査（NRT）における平成21年度から26年度までの偏差値をみると、第4、5学年は常に全国平均よりやや上の偏差値であることや、この傾向は過去6年間変わっていないことから、本市における第3、4学年で学習した社会科の内容は定着しており、学力は十分身に付いていると考えられる。

(2) 全国と川越市の通過率の比較より

NRTにおける平成26年度の全国通過率と川越市の通過率を比較してみると第4、5学年における大領域、中領域共に昨年度より通過率は向上している。また通過率の値も、全国平均と比較してほぼ同程度である。このことから本市における第3、4学年で学習した内容は定着しており、社会の学力は身に付いていると考えられる。しかし、小問毎に通過率をみてみると、過去3年間、全国平均を下回っているものがある。例えば第4学年では、①「調べ学習に必要な道具はカメラである」を選択する小問 ②「昔の道具の使い道で、体を温める道具は火鉢や囲炉裏である」（ランプではない）を選択する小問 ③道具の発達によるくらしは変化しており、家事にかかわる時間が短縮された」と解答する小問 ④「東西南北の言葉を用いて、A地点からB地点までの道案内を示す小問等である。第5学年では、①「森林の働きのひとつに、雨水を一時蓄えた後、少しずつ流す働きがある」と解答する小問 ②「警察の仕事には事故、事件の出動の他にも交通違反の取り締まりや地域の見回りをする仕事がある」と解答する小問 ③2枚の地図を比較し、「畑から田になった、橋ができた、家が増えた」等の変化を見抜き、どちらの地図が開発前でどちらが開発後であるか、根拠を示し説明する小問 ④等高線を基に土地の高低を見抜き、川の流れる方向を示す小問等である。

(3) 全国と川越市の5段階出現率の比較より

成績のグラフを見ると出現率を表す山形の頂点は右寄りである。例えば、段階2と段階3に相当する児童は全国平均値より少ない一方、段階4に相当する児童はととても多い。このことは、全国平均に比べ学力が高い児童がかなり多い実態を示している。本市の第3、4学年の社会科の学力は高い児童が多いといえる。

2 社会科における課題

偏差値、通過率、出現率の比較や経年変化の分析から、①学力の低下傾向が継続状態にあること②児童間に深刻な学力差が存在し、二極化傾向にあること③学年が進むにつれ、この二極化傾向が広がる可能性があることが指摘される。

これらの課題を解決するために、方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導（資料収集、学習活動の工夫、環境作り等）である手立て1～3を取り入れ授業を活性化したり、全国通過率との開きがある小問の内容に関係する学習について、年間指導計画に印をつけ、授業で意識的に指導したりする必要がある。

3 指導の手立て

方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導のポイント

手立て1 子どもたちの生活体験と地図を関連付けるための資料の収集

①地図の収集（川越市都市計画課より）

- ・川越市全図 1 / 15000
- ・校区 1 / 2500
- ・市内の特色ある地域（土地利用） 1 / 2500

②学習に合う写真の収集

- ・学区内の特色とらえさせるための写真（土地利用・目印など）

③子どもたちが地図を活用できるように資料の教材化

- ・子どもたちが見学できる道筋をはっきりさせるように番号などをふる。
- ・子どもたちが白地図と写真を対応させられるようにする。

手立て2 子どもたちの生活体験と地図を関連付ける学習活動

1 小単元名 学校のまわりの様子

2 小単元の目標

学校のまわりの地域の様子に関心をもち、土地利用や交通の様子について観察し、絵地図や地図記号・四方位などを用いた地図にまとめる。また、土地利用や交通の様子について理解し、身近な地域の様子は場所によって違いがあることを考え・判断し、言語などで適切に表現している。

3 小単元の指導計画（13時間扱い）

学習活動・学習内容	手立てとの関連（*留意点）
①学校の近くの様子に関心をもって調べ、学習問題を設定する	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 学校のまわりはどのようになっているのでしょうか。 </div>	
②学校の周りの調査計画をたてる <ul style="list-style-type: none"> ・校区の特色を捉えられるように、いくつかのコースを設定する。 	コースにはっきりとした目的物を設定した調査活動 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活体験とリンクさせる。 ・地図に調査の流れがはっきりするように、地図に行く順番の数字などをふり、子どもたちが調査の流れをはっきり分かるように支援する。 *安全面の視点から保護者にも協力を依頼する。
③学校の周りの地域をテーマに沿って調査する <ul style="list-style-type: none"> ・調査計画を参考にしながら、何回かに分けて調査を行うようにさせる。 	現地で分かったことを、地図で対応をさせた調査活動

④ 調査して分かったことを発表する

- ・土地利用の様子、交通の様子、土地の高低などを押さえられるようにする。

調査で分かったことから、地域の特色を自分の言葉で表現する学習活動
 ・地図の中に調査の際のつぶやきなどを記入する。（付箋の活用）



⑤ 絵地図にまとめる

- ・学校のまわりの特色を方位ごとにまとめるようにする。

⑥ 地図記号を使った地図を作成する

- ・地図記号でまとめるよさや四方位を使う意味をとらえさせながら、地図でまとめさせる。

1 小単元名 わたしたちの川越市

2 小単元の目標

川越市の様子に関心をもち、八方位、特色ある地形、土地利用の様子、古くから残る建造物、主な公共施設の場所と働き、交通の働きなどを観察・調査したり、白地図に表したりする。また、特色ある地形や土地の様子などを理解し、地域の様子は場所によって違いがあることを考え、判断し、言語などで適切に表現している。

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

学習活動・学習内容	手立てとの関連
<p>① 川越市の様子について話し合い、学習問題を設定する</p>	<p>実際に行けない所を子どもたちに実感させるためのICTの活用 ・校外に出て地図をもとに調べる活動が十分に取れないことが予想されるので、地図アプリのストリートビューを活用する。</p>



学習問題 わたしたちの川越市は場所によってどう使われ、どのように様子がちがっているのだろうか？

②川越市の様子について地域の特色ごとにまとめる

自分の校区の特色と、他校校区の特色の比較からの市の様子の読み取り

・川越市内の特徴のある写真や地図を準備し、どのような場所なのかを考えさせるようにする。その際に「学校のまわりの様子」の学習を生かし、他校のまわりといった形でなじみのある学習の流れで様子をとらえさせる。

例. ○○小のまわりについて

→川越市のどの方位にあたるか？

→その場所の特色（地形、土地利用など）はなにか？

③学習問題を話し合っ解決する

結論 川越市の北から東にかけて低地が広がっており、田が一面に広がっている。南から西にかけては台地で畑や住宅、工場が多い。中央部は住宅が多く、昔からの建物がたくさんあり、多くの観光客が集まってくる。

④川越市を紹介するマップを作成する

⑤調べたことをまとめて発表し合う

手立て3 地図や方位を意識付ける、学校・教室環境作り

①第3学年に限らずどの学年の教室にも「東・西・南・北」の方位を表示する。

②各階の廊下掲示板等に学区域地図や市・日本地図の掲示をする。

③各教室に地図に関わる図書資料を置いておく。

【社会科（中学校）】

1 社会科における本市の傾向

(1) NRTの偏差値からみた傾向

教研式標準学力検査（NRT）の偏差値は、平成21年度から平成26年度で平均値を下回り、学年が進むにつれ、偏差値が低下している。特に第2学年で低下の幅が約1ポイントと大きい。

全国と川越市の通過率を比較すると、第1、2学年ともに下回りそのポイントも学年が進むにつれて低下の傾向にある。

5段階出現率を見ると、4と5の段階の割合の合計が、1学年が全国と同数、2学年もほぼ同数である。しかし、1の段階は1・2学年ともに全国の2倍近くであり、10%を超えている。これは、学力の差が顕著になってきているといえる。

第1学年の分野別では、地理的分野が全国を上回り、歴史的分野と公民的分野が下回っている。第2学年の分野では、地理的分野・歴史的分野ともに下回っており、特に奈良、平安、鎌倉時代の学習内容が大きく全国平均と比較して下回っている。

(2) 中学生学力調査の結果から

領域別に見ると地理的分野の設問での正答率が高く、歴史的分野（特に近世～近代）の正答率が低い。歴史的分野近世～近代の日本の平均正答率は34.5%と低い結果となっている。

問題の内容別結果の中では、特に第1回 大問4(2)「伊藤博文と関わりのある出来事の古い順並べかえ」の正答率が13.5%、大問4(3)「明治政府の政策」の正答率が16.5%と低かった。

観点別に見ると資料活用の技能の設問は正答率が比較的高く（特に地理的分野）、社会的思考・判断・表現の設問での正答率が低い傾向が見られる。また、歴史的分野の中で複数の事象を時代順に並べ替える設問など、ひとつの歴史事象とその時の時代背景を併せて問う設問や、複数の事象を関連させて問う設問の正答率が低い。

2 社会科における課題

歴史的各事象の知識を確実に身に付けるとともに、各時代毎にしっかりとまとめ、時代背景とともにその内容をきちんと整理する必要がある。また、歴史の大きな流れの中で、歴史的な事象間の因果関係を理解させることが大切である。さらに、近現代に於いては、当時の国内情勢と国際情勢との関連の中で歴史的な事象しっかりと理解させることが大切である。具体的には、その事象が起きた原因とその結果、その結果が与えた影響などを、国内と国外・国際情勢を関連付けて理解できるようにする必要がある。

また、政治面などの変革に着目させ、それによって前の時代と違うどのような特色が生まれたのかを考察し、自分の言葉で表現して、時代の転換の様子をとらえさせる学習を、教師がいかに進めていくかが重要である。

3 指導の手立て（歴史的分野における基礎的・基本的な知識・技能の定着）

～平安時代と比較し、鎌倉時代の特色を大きくとらえる学習～

(1) 学習指導要領 「中世の日本」の中項目のねらい

- ア 武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを、理解させる。
- イ 武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

(2) 授業で扱う具体的な内容

武家政治の特色	東アジアの国際関係	武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化	
武士が台頭し、やがて「主従の結び付きや武力を背景として」東国に武家政権が成立したこと	東アジア世界との密接なかかわりや、それが国内に及ぼした影響	技術面の進歩によって農業や工業が発達し、生活が向上し、商品流通が活発化したこと	新たに生まれた文化の特色
御家人制度を基盤とする鎌倉幕府の成立	元寇と鎌倉幕府の滅亡	諸産業の発達と民衆の生活	鎌倉時代の文化と新しい仏教

(3) 指導目標

古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにする。

(4) 学習テーマ

「平安時代と比較し、政治、外交、人々の生活、文化と仏教の面から鎌倉時代の特色をとらえよう」

(5) 基礎・基本の定着を図る手立て

- ① 平安時代との違いという視点に立って、鎌倉時代を学習することにより、武家政権の成立や武家政治の特色および古代から中世への変化を理解させる。
- ② 学習のまとめとして新聞を作成させ、習得した基礎的・基本的な知識や技能の活用とその定着を図り、ねらいにせまる。

(6) 単元の指導計画と評価規準 (6時間扱い)

時	○学習活動 ・ 学習内容	◎学習活動に即した評価規準
1	○学習テーマを設定する。 「平安時代と比較し、政治、外交、人々の暮らし、文化と仏教の面から鎌倉時代の特色をとらえよう」 ・鎌倉幕府の政治 ・鎌倉時代の人々の暮らし ・鎌倉時代の仏教と文化 ・鎌倉時代の外交 ○武士はどのようにしておこり、力をのばしていったか ・武士の登場 ・武士団と荘園 ・院政と武士	◎学習テーマを理解し、平安時代と比較しながら鎌倉時代の特色をとらえる活動に意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ◎武士が主従の結び付きや武力を背景に成長し、院政や政争を通して政治的な力を伸ばしたことについて理解し、知識を身に付けている。 【知識・理解】
2	○武家政権はどのような特徴を持っていたか ・源平の争乱 ・鎌倉幕府の始まり ・執権政治	◎御恩と奉公の関係を中心とする支配のしくみや執権政治の確立をもとに、鎌倉幕府による武家政治の特徴をとらえている。 【思考・判断・表現】
3	○鎌倉時代の人々はどのような暮らしをしていたのか ・地頭の支配 ・武士の生活 ・民衆の動き	◎さまざまな資料をもとに、武士の日常生活や民衆や農民の暮らしの変化をとらえている。 【技能・活用】
4	○鎌倉時代の文化や宗教はどのような特色をもっていたか ・鎌倉文化 ・新しい仏教の教え	◎鎌倉時代に新しい特徴を持った文化や仏教が生まれたことを、武士の台頭と関連付けてとらえている。【思考・判断・表現】 【技能・活用】
5	○モンゴルはどのように襲来し、日本にどのような影響を与えたか ・モンゴル帝国の拡大 ・二度の襲来 ・鎌倉幕府の滅亡	◎モンゴルの襲来が日本に与えた影響を理解し、鎌倉幕府滅亡の原因を多面的・多角的にとらえている。 【思考・判断・表現】
6	○平安時代と比較して、鎌倉時代の特色をまとめよう ・鎌倉時代新聞の作成	◎学習内容をもとに新聞を作成し、平安時代との違いを明らかにしながら鎌倉時代の特色をとらえている。 【思考・判断・表現】 【技能・活用】【知識・理解】

〈社説〉

幕府の支配が
確立した理由は？

鎌倉幕府誕生！

将軍・源頼朝氏に聞く支配のしくみ

鎌倉歴史新聞

15万人の幕府軍、京都を制圧

発行者名

〈海外ニュース〉
モンゴル高原に
史上最強軍出現！

農業の新しい風

武士の日常紹介

【広告らん】

琵琶法師が語る
平家物語の世界

金剛力士像
作ります

続々誕生！新仏教

【算数科】

1 算数科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値からみた傾向

小学校第4・5学年では、ここ6年間において平均値の50を上回っている。今年度は昨年度に比べ、偏差値がそれぞれ0.2ポイント、0.8ポイント低下した。

(2) 正答率、通過率にみる全国との比較

①第4学年(内容第3学年)

- ・領域別にみると、「量と測定」「図形」「数量関係」の各領域は、全国平均を2～3ポイント上回っている。しかし、「数と計算」領域は0.2ポイントの上回りである。
- ・全国通過率よりも下回り、その差が大きい（6ポイント以上）小問は「乗法・2位数×2位数」「数直線・小数や分数」「そろばん・数の表示」「秤のよみ」である。特に、「秤のよみ」は、全国・川越市ともに通過率20%以下になっている。

②第5学年(内容第4学年)

- ・領域別にみると、「量と測定」領域が全国平均を2.9ポイント、「数と計算」領域は0.6ポイント下回っている。特に「量と測定」領域の中領域にあたる「角」は9.4ポイント全国平均を下回っている。
- ・全国通過率との開きがある小問は「三角定規を用いた角」の2問が20ポイント前後、「四則の混じった計算」が14ポイント、「面積の単位換算」2問、「3直角」「垂直な位置にある直線」「分数の加法減法」が10ポイント前後、「四捨五入」「小数の加法」も7ポイント下回っている。特に「四捨五入」、「和の見積り」、「ひし形の理解」は全国通過率30%以下(いずれも川越は20%台)の小問である。

2 算数科における課題

(1) 数直線上の読みについての指導

数直線上の小数や分数の読み、秤の読みに課題がある。数直線の指導は、最小目盛りの単位をどらえることを、「数と計算」領域だけでなく「量と測定」領域などでも関連付けて指導することが必要である。

(2) 面積の単位換算についての指導

単位の意味と大きさの関係をとらえることができるようにする。指導にあたっては、算数的活動を通し、それぞれの単位に基づく面積の大きさについての感覚を豊かにしていけるようにする。

(3) 三角定規の角についての指導

三角定規のそれぞれの角の大きさを正しくとらえられるようにする。その過程では単に答えを出すだけでなく、ICT機器の活用を図るなどして、求め方(方法)を順序立てて説明できるように指導することが大切である。また、間違い例を示し、児童と一緒に考えていくような指導の工夫も考えられる。

3 指導の手立て

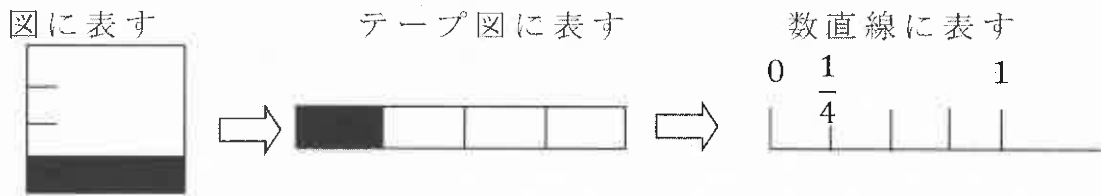
(1) 数直線上の読みについての指導

数直線上の読みの指導において、最小目盛りの単位をとらえることを、「数と計算」領域だけでなく、「量と測定」領域でも関連付けていく指導の工夫

分数は、第2学年において単位分数を、分割分数の意味で導入してきた。小数や分数の意味や表し方については、第3学年で学習する。小数は、10進法で大きさを表すことができるが、分数は $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ などのように、単位として、それぞれの大きさを表すことができるとともに、単位分数の幾つ分かで表すことができるよさがある。分数の大きさをとらえるようにするためには、図や数直線上に表し、視覚的にとらえて理解できるようにするなどの指導の工夫が考えられる。有効な表現方法として、テープ図で等分していることを視覚的に確認し、その後、数直線と対比させて数として座標軸に表していく。天秤の目盛りの読み取りなど、「量と測定」領域においても関連付け、目盛りの最小に目を向け、1目盛りがわかればどこもわかるという指導を展開していく。

【活動例】

① $\frac{1}{4}$ を図や数直線に表しましょう。



② 次の図は、はかりの一部分です。←のところの重さはどれだけですか。

はかりの一部分からわかることは何？

1kg

1kgと2kgの間だね。

真ん中に長い目盛りがあるよ。

真ん中は、1kg500g位だね。

右から左に見ても、長い目盛りに注目する。

1kg

数直線と結び付けて指導する。

1kg 500gと1kg 600gの間は、5等分されているから、1目盛りが20gになるね。

いろいろな目盛りの問題に挑戦してみよう。

(2) 面積の単位換算についての指導

単位正方形の数の求め方を基にした公式を導き理解する指導の工夫

公式を導く指導では、「単位正方形の幾つ分かを数えるために効率的な方法はないか。」と考えられるようにすることから始まる。この時、「縦の個数×横の個数」で全体の個数を求められるという発想は乗法指導時のアレイ図にも関連付けられる。

第2学年の乗法九九の指導では、交換法則や分配法則、さらに複合図形（L字型）につながるアレイ図を数える学習をする。単位面積の正方形を数える場合にも、「一辺×一辺」という言葉での公式指導にとどまらず、アレイ図を数えた方法と関連付けながら、全体の単位正方形の数の求め方として指導をしたい。

アレイ図と単位正方形の関連付け

4×6

かける数
かけられる数

縦に4個、横に6個だね！

$2 \times 3 + 2 \times 6$

アレイ図と考え方は同じだね！

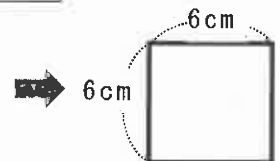
単位の意味を考えて図に表そうとする児童を育む指導の工夫

言葉や式を図に表そうとする態度を養う。図に置き換えれば、縦や横の長さが明確になる。

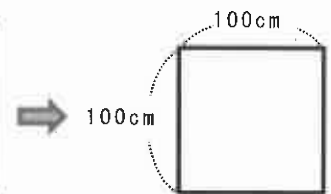
また、等しい面積の形作りの活動を行うことで、広さを柔軟にとらえ、等積変形についての素地を養うとともに、第5学年へのつながりを意識した指導をしたい。

言葉や式を図に表す

一辺が6cmの正方形の面積

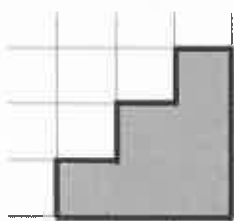
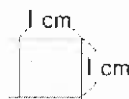


$1 \text{ m}^2 = \square \text{ c m}^2$
 $1 \text{ m} = 100 \text{ cm}$
 $1 \text{ m}^2 = \text{一辺 } 100 \text{ cm}$
 の正方形

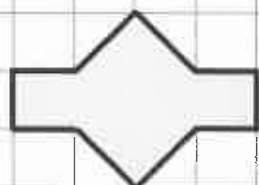


等しい面積の形づくり

面積が6cm²のいろいろな形をかきましょう。



長方形や正方形を使ってかいた例



等積変形についての素地を養う形の例



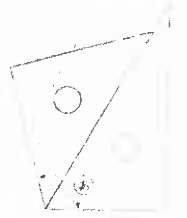
(3) 三角定規の角についての指導

間違い例を示し、話し合いを通して三角定規を組み合わせた角の大きさを理解できるようにする指導の工夫

『右の図は、1組の三角じょうぎを組み合わせたものです。①の角の大きさは何度ですか。』

という問題に対して、75度という答えが多くありました。

どのようにしてこのような答えが出てきたのか話し合いましょう。また、正しい答えを言いましょう。



【指導のポイント】

- 1組二種類の三角定規を組み合わせて計算で求めることができるが、どうして75度という解答が出てきたのか、その理由を考えることを通して、この問題を解決するために必要なことを子どもたちが気付けるようにする。

ポイント1 二種類の三角定規のそれぞれの角の大きさを覚える

ポイント2 二種類の三角定規を組み合わせた角を計算で求めることができる

ポイント3 直角を基にすると、角の大きさが90度より大きいかどうか判断できるなどの角の大きさについての感覚を身に付ける

【子どもの活動】

角を計算で求めることに言及する

T1 「どのようにして75度という答えを出したのかな。」

C1 「2つの角をたせば求められるよね。」

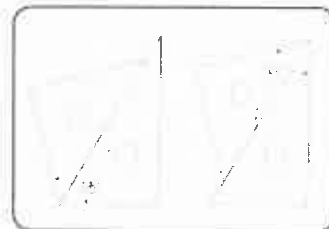
C2 「75度ということは、45度と30度にしてしまったのかな。」

C3 「角の大きさは、たせるよね。」

C4 「考え方は合っているね。」

C5 「①は60度+45度で105度だね。」

デジタル教科書で
見てみましょう。



①は105度だけ
ど、②は75度にな
るね。

角の大きさについての感覚に言及する

T2 「75度を出したときにすぐに間違いだと気づかないかな。」

C6 「①の開き具合は直角より開いているから、90度よりも大きいはずだね。」

C7 「90度より大きい小さいか、見た感じでわかるといいね。」



実際に自分でいろいろな大きさの角を作る

T3 「二種類の三角定規を組み合わせて、いろいろな大きさの角の大きさを作ってみよう。」

C8 「たし算だけでなく、ひき算でもできそうだよ。」

T4 「三角定規を使って作った角の大きさを友達に伝えて、どうやって作るかお互いに問題を出し合ってみよう。」

135度を作
ったよ。どうや
って作ったか
わかるかな。



活動を、2人組→4人組→…→学級全体と広げ、いろいろな角度の作り方を共有できるようにしたい。

【数学科】

1 数学科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値からみた傾向

中学校第1・2学年では、平成26年度、偏差値の平均値50を下回る。前年度との比較では、第1学年で0.2ポイント、第2学年では1.5ポイント低下している。経年変化を見ると、平均値50から徐々に下回っていく傾向にある。

(2) 正答率、通過率にみる全国との比較

①第1学年(内容小学校第6学年)

・全国通過率と10ポイント以上の差がある内容は「展開図・四角柱」、「四角柱の体積」、「比例関係の適用」である。「図形」、「関数」領域で全国との差が大きい傾向にある。

②第2学年(内容中学校第1学年)

・全国通過率と10ポイント以上の差がある内容は「作図の手順・垂線」、「 y が x に比例」、「反比例のグラフ」、「有効数字」である。「図形」、「関数」、「資料の活用」領域で全国との差が大きい傾向にあり、「関数」領域は全国的に見ても例年通過率が低い。以下は、「比例」に関わる中領域の経年比較である。

「比例」に関わる中領域の比較 (正答率)		平成24年	平成25年	平成26年
二つの量の関係、関係を表す式 (小学校第5学年内容)	川越市	61.2	60.5	
	全国	58	57.8	
	全国との差	3.2	2.7	
比例や反比例 (小学校第6学年内容)	川越市	47.8	46.6	44.8
	全国	49.5	50.1	50.1
	全国との差	-1.7	-3.5	-5.3
比例と反比例 (中学校1年内容)	川越市	53	39.6	38.4
	全国	53.3	45.3	45.3
	全国との差	-0.3	-5.7	-6.9

…同一集団

2 川越市中学生学力調査の結果から

- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得することで解決できる「数と式」、「方程式」に関する小問では、比較的正答率が高い。「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域に関わる問題では、全体的に正答率が低い。
- ・「図形」領域では、図形を動的に捉えたり、根拠を明らかにして筋道を立て説明したり、その説明から新たな性質や関係を読み取ったりすることに課題がある。また、「関数」領域では、関数的な見方や考え方を活用して事象をとらえる小問で正答率が低く課題がある。

3 数学科における課題

(1) 「図形」についての指導

平面図形の基本的な作図方法の定着を通して、図形の性質などについて実感的な理解を深め、論理的に考察できるような指導が必要である。

(2) 「関数」についての指導

変化の様子を調べ、対応のきまりを見いだしたり、式、表、グラフを比例定数と関連付けたりして理解できるような指導が必要である。

(3) 「資料の活用」についての指導

目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断したり説明したりすることを通して、「代表値」や「相対度数」等、基本的な用語の必要性と意味を理解し、統計的な見方や考え方を養うような指導が必要である。

4 指導の手立て

(1) 図形

基本の作図方法を定着するための指導の工夫

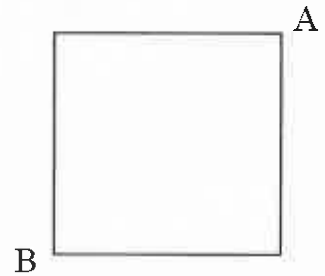
基本の作図方法については、小学校ではコンパスなどを複数学年で活用するにも関わらず、中学校では第1学年の時に数時間扱う程度なので、定着が難しい内容である。

作図方法を理解し活用していくには、ただ手順を覚えるのではなく、意味を理解することが大切である。実際には、対称性等を意識して学習していくが、それぞれの作図が意味するもの（ひし形等）も指導していく。また、実際に紙を折ってみて、その折り目の線の特徴を調べてみるなど、数学的活動を取り入れながら、実感を持って特徴を理解していくように工夫をする。さらに、各学年で図形の学習をするときに、意図的に作図の内容について触れることも大切である。例えば、第2学年の証明の学習のときに、作図の方法が正しいことの証明を試してみたり、第3学年の円周角の学習のときに、作図を通して成り立つ性質を確かめたりすることもできる。

繰り返し扱うことで、作図の方法を確実に定着させていくようにする。

活動例 垂直二等分線の特徴を調べてみよう。

右の図のような折り紙で、AとBの位置が重なるように折ったとき、折れ目の線はどんな特徴があるか。その理由も考えてみよう。



- ・ いろいろな部分の長さや角度を測ってみよう。
- ・ 共通していることはどんなことだろう。
- ・ いろいろな部分に線を書き入れてみよう。

予想される生徒の反応

- ① A、Bから折り目までの長さが等しいこと
→ 折り目の上なら、どこをとっても等しくなる
 - ② 線分ABと垂直に交わっていること
 - ③ 折って重なった部分は角度が等しくなること→角の二等分線につながる
- ※ グループで発表する等、説明させる機会を作る。



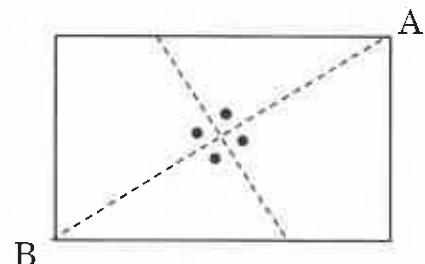
- ・ 紙が、正方形でなかったらどうだろう。
- ・ 長方形の紙で試してみよう。
- ・ (重なるように2回折ってみよう。)

- ◎ 重なるように、2回折る。

折り方により、折り目の線が

- ・ ABを二等分していること
- ・ 90° で交わること

が確認できる。



(2) 関数

比例定数の理解を深めるための指導の工夫

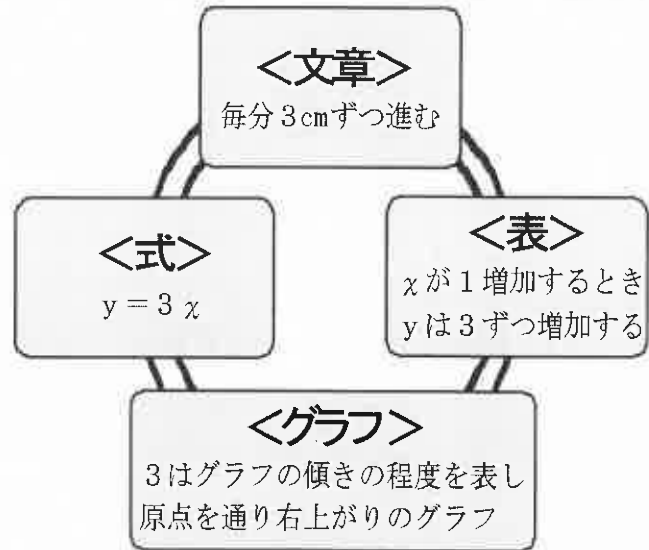
関数関係を表す方法には、文章、式、表、グラフの四つがあり、これらの四つを結び付けてとらえられるようにすることが求められる。

活動例 変化の様子を調べよう。

A君とB君が、別々の水そうに、それぞれ一定の水量で水を入れました。A君が3分後に調べたところ水の深さは12cmになっていました。B君が5分後に調べたところ深さ15cmになっていました。 x 分後の水の深さを y cmとして、二人が入れている水の量について比べてみよう。

数量関係の問題で、特に、比例の場面を扱う際に、重要な役割を担う値が「比例定数」である。その符号が「+」であるか「-」であるかは、 x の増加に伴う y の値が「増加するか」あるいは「減少するか」に拠る。関係する二つの数量の変化に着目し、その変化の割合をとらえられるような指導を積み重ねていくことが大切なポイントとなる。

数量関係を的確にとらえられるように、単元を通して式・表・グラフに表したり、関連付けたり、読み取ったりできるような展開を求めるようにしたい。



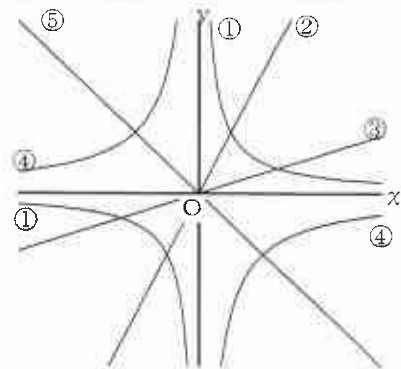
比例・反比例のグラフについての学習を終えた後で、次のような問題を意図的に仕組みます。練習を積み重ねることで、式とグラフの相互関係を、比例定数に着目してとらえる力を伸ばすことができるでしょう。

右の①～⑤のグラフは、次のア～オの関数のいずれかのグラフです。

ア $y = \frac{4}{x}$ イ $y = \frac{1}{3}x$ ウ $y = -\frac{8}{x}$

エ $y = -x$ オ $y = 2x$

①～⑤は、ア～オのどのグラフを表しているか答えなさい。



発展問題として、「 $y = -2x$ のグラフをかき加えなさい。」なども考えられます。さらに、このような指導が、 $y = ax + b$ (一次関数) や $y = ax^2$ (二次関数) の学習においても繰り返されることで、数量関係をとらえることにおいて一層の成果が得られるでしょう。

(3) 資料の活用

資料を整理し、傾向をとらえ、数学的な表現で説明する力を育むための指導の工夫

生徒の説明には日常的な表現が見られることがあるので、既習事項を活用して、数学的な表現で的確に説明できるようにし、説明の質を高めていけるような活動を充実させる。

活動例 ボウリング大会の出場選手を決めよう。

あるボウリングチームでは大会の個人戦に出場する選手を1人決めることになりました。表1は候補の選手2人の選手が20ゲームずつ投げた得点の結果です。表2は、表1を度数分布表に整理したものです。あなたはどちらの選手が出場するのにふさわしいと思いますか。

◎「どちらの選手が、本番の緊張した状況で力を発揮できるか」など具体的な場面を想定させ、その傾向について話し合えるようにする。

表1 ボウリングの得点

A選手	B選手
178	168
173	174
178	173
175	172
186	186
170	181
182	185
176	189
179	174
176	178
193	189
181	193
185	168
164	170
188	177
167	162
182	204
174	179
177	184
171	173
平均 176.9	177.1

表2 ボウリングの得点

階級(点)	A選手	B選手
	度数(回)	度数(回)
160~165	1	1
165~170	2	4
170~175	4	6
175~180	7	3
180~185	3	2
185~190	2	2
190~195	1	1
195~200	0	0
200~205	0	1
計	20	20

平均値が高いB選手を選びます。

代表値として平均値を用いるときに注意しなければならないことは何か。

全体とかけ離れた値の影響を受けやすく、分布の様子をつかめないことがあることです。

では、平均値以外で代表値としてふさわしいものがあるかもしれないね。何があるだろう。

中央値、最頻値があります。

では、それぞれ調べて説明できる材料となるかどうか判断してみよう。

安定しているA選手を選びます。

安定しているとは、どういうことですか。数学的に説明できますか。

ヒストグラムや範囲を使えば「安定している」ということを数学的な表現で説明することができそうです。

安定しているのはA選手、200点以上の記録を出す可能性があるのはB選手。もしあなたが監督だとしたら、どちらの選手を選ぶかな。

【理科（小学校）】

1 理科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値から見た傾向

- ・平成25年度までは第4、5、6学年で実施していたが、平成26年度からは第4、5学年での実施となった。
- ・過去5年間では平均値である偏差値50を中心に $-3.0 \sim +1.6$ の範囲内で推移している。
- ・学年が進むにつれ、偏差値が下がる傾向がある。これは同一年度での学年比較においても、同一学年の追跡比較においても同様の傾向である。

(2) 教研式標準学力検査（NRT）の正答率から見た傾向

- ・第4学年（内容第3学年）で、全国との差が -5 ポイント以上の小問は、動物や植物の観察に関する設問が3問、地面の温度に関する設問が1問、光や磁石、電気に関する設問が5問、全53問中計9問であった。
- ・第5学年（内容第4学年）で、全国との差が -10 ポイント以上の小問は、動物や植物の観察に関する設問が2問、水蒸気に関する設問が1問、電流に関する設問が4問、空気と水に関する設問が1問、物の加熱と体積に関する設問が1問、全55問中計9問であった。
- ・第4学年で教科書の単元に近い10領域で見ると、全国平均を下回った領域は「こん虫の育ち方や体のつくり」「じしゃくの性質」の2領域であった。
- ・第5学年で教科書の単元に近い10領域で見ると、全国平均を上回った領域は「水の温度による変化」のみで、残りの9領域は全国平均を下回っている。

2 課題

- ・全体的に知識・理解の定着が低い。第4学年では昆虫の卵、昆虫の体の名称、地面の温度の正しいはかり方、磁石の極の性質、第5学年ではテントウムシの越冬、光電池に関する用語、回路図の定着の低さが目立つ。予定調和的に結果をまとめ、子どもにじっくり考えさせない授業を行っていないだろうか。教材研究をしっかり行い、まず教員自身が学習内容をしっかり把握する。目標を明確にし、基本を大切にしたい授業の展開が課題となる。
- ・現在使用している教科書の構成との関連では、教科書に出ている磁石の同極が反発するという実験に、磁石の間に紙を入れるという条件を付け加えている設問の正答率が特に低い。教科書に出ている観察や実験を順番に機械的に行っていないだろうか。学習した内容を一般化し生活と関連付けた活動をする授業の展開が課題となる。
- ・植物や動物の観察など、年間を通じた学習の正答率が低い。年間指導計画立案時に、学校として組織的に対応すべき飼育・栽培年間計画等の内容に対して、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」対応するかまで具体化すべきである。実効性のある年間指導計画立案が課題となる。

3 指導の手立て

手立て1 問題解決の過程を定着させるための手引きの作成

児童が日々の授業の中で、どのような流れで問題を解決していくのか、見通しをもつて取り組めるように、授業の大まかな流れを手引きとして作成し、ノートに貼っておく。ノートづくりの参考にもなる。

問題解決活動の過程：問題→予想→方法→観察・実験→結果→考察→まとめ

<児童用手引き例（高学年）>

<p>問題</p>	<p>前の学習内容を振り返る。 どんな学習をしてきたかな？今、わかっていることは？ 問題を確認する。</p>
<p>予想 方法</p>	<p>問題についての予想をする。 どうしてそう考えたのかな？ なにかふだんの生活の中で、 似たようなことがあったかな？ 解決に向けての観察・実験方法を考える。 どんなことがわかれば解決できそうかな？ どんな観察・実験をすれば、〇〇がはっきりするかな？</p> <div data-bbox="893 694 1404 940" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>ここでの予想が大変重要です。予想の根拠をはっきりとさせましょう。(△△だから、〇〇じゃないかな？など)各自が自分の考えをしっかりとノートに書けるようにしましょう。慣れるまでは、友だちの考えを聞いて、納得できる理由があれば、同じ立場で意見を書いてよいでしょう。この予想は、観察・実験の結果が出た後に振り返るものになります。</p> </div>
<p>観察 実験</p>	<p>観察・実験上の注意事項を確認する。 この観察・実験で気をつけることは〇〇だな。 グループで観察・実験を行う際、全員で役割を分担して進めます。 何がみえるかな？色は？動きはどうだろう？聞こえる？においは？手触りは？ この観察・実験は、何を確かめるために行うのかな？</p> <div data-bbox="1117 929 1436 1142" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>注意については、先生の指示をしっかりと聞き、守りましょう。わからないことは聞きましょう。火を使う時は？刃物を使う時は？薬品を使う時は？ガラス器具は？など。</p> </div>
<p>結果 考察</p>	<p>観察・実験から「わかったこと（結果）」「考えられること（考察）」を書きましょう。 【わかったこと（結果）】(例)「この実験で、〇〇は△△となった。」 結果を、グラフや表にまとめられるものは、まとめてみよう！傾向がわかりやすくなるよ。 【考えられること（考察）】(例)「☆☆は□□であると考えられる。なぜなら、△△だから。」 ☆観察・実験の結果や考えを発表します。みんなで聞きましょう。 ★ペアで・グループで、考えをまとめてみましょう。 まずは、隣の人に自分の考えを伝えてみましょう。 ★自分以外の考えについて説明します。 他の友だちの考えを説明できるかな？ 結果と考察を比べてみましょう。 共通点は？大事な語句は？どのやり方で 結果は同じかな？はじめの予想と比べてみましょう</p> <div data-bbox="1021 1579 1428 1736" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>各自、各班のまとめの内容から、共通点を見つけ出したり、大事な語句を抜かさずまとめているかを確認したりして、よりよい内容を選択し、まとめていきましょう。</p> </div> <div data-bbox="917 1758 1404 1937" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>今日の問題の答えを言葉でまとめます。穴埋めや文の始めを先生が書き、続きを自分の言葉で書くこともあります。慣れてきたら、自分の言葉で書けるようにしましょう。このとき、重要な用語はしっかりと抜かさず書きましょう。</p> </div>
<p>まとめ</p>	<p>まとめをかきましょう。 今日の問題に対する答えは「〇〇〇〇〇」だ。</p> <div data-bbox="901 1960 1396 2072" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>他に疑問点や解決できていないことはないかな？ノートに書き留めておきましょう。次の問題へとつなげていったり、自由研究のヒントになったりするよ。</p> </div>

手立て2 問題解決に結び付く導入

導入では、子どもの学習意欲が高まる「事物・現象」を提示し、問題を自分のものとして把握させて、学習活動につなげる必要がある。自然体験が少ない子どもは、疑問が浮かびづらいので、まずは、全員に自然事象に触れさせ、そこから疑問や発見を引き出すようにする。

○直接体験（体感）する活動から、問題意識をもたせる導入例

小3 磁石の性質

「かごの中の空きかんを、じしゃくを使ってとりだそう」

形や大きさの違うアルミニウム缶とスチール缶を数個ずつ混ぜてかごに入れ、磁石を使って取り出してみる。磁石につく缶とつかない缶があることから、金属でも磁石につく物とつかない物があることを実感させ、身の回りでも磁石につく物とつかない物があるか調べようとする意欲を高める。

小4 空気と水の性質

「かさ袋ロケットをとばそう」

空気の入ったポリ袋などを押して空気の存在を確かめたり、手ごたえを感じたりすることで、子どもが楽しく空気の存在を実感できる。袋に空気を閉じこめて細長いかさ袋の風船ができる。（袋の口の開いている方から息を入れ膨らませ、開いている口をモールで縛る。）木製の棒（指でもよい）などで強く押し込む。空気からの反発力を感じたら、袋を支えている方の手を放すとかさ袋ロケットが勢いよく遠くまで飛ぶ。

小5 振り子の運動

「音楽に合わせてふりこを振らせよう」

音楽で使っているメトロノームなどを見せて、ふりこの運動の変化に興味をもたせる。糸やおもりでふりこを作り、速い曲や遅い曲にふりこの動きを合わせる体験をさせる。ふりこの動きを曲に合わせてときに工夫した点を話し合い、ふりこが1往復する時間を変えたいときにはどうすればよいか考えさせる。

○写真やデジタル教材を活用して、問題意識をもたせる導入例

小6 土地のつくりと変化

「地面の下はどうなっているのでしょうか」

これまでの体験をもとに、地中の様子を予想してノートにかかせる活動を行い、大地のつくりについての関心をもたせる。その後、教科書の地層写真やデジタル教材を活用して、大地は小石、砂、粘土などで構成されていること、がけがしま模様になって見えるのは、色や粒の大きさの違う小石、砂、粘土が層になって積み重なっていることをおさえる。このとき、小石や砂や粘土を実際に見たり触ったりさせながら、粒の大きさや手触りの違いを実感させるとよい。

手立て3 考察力を高める指導の工夫

1 定型文を使った考察力の育成

考察に慣れていない児童には、結果も含め、考察を定型文にして提示し、練習させていくと身に付く。初めは定型文の中でも、「穴埋め形式」で取り組んでいく。

例) 水100gに食塩10gを溶かすことができた食塩水は()gになった。

次に「単語つなぎ形式」にステップアップする。「単語つなぎ形式」とは考察に必要な単語を提示し、児童がその中から自分の考察に必要な言葉を選択し、記述していくものである。選択する単語は次の3段階に分け、児童の習熟度に応じたものを提示する。

- ①考察上必要な言葉
- ②発展的もしくは次の単元につながるような言葉
- ③オリジナルの言葉

これにより、児童の考察に関する意欲を高めていく。

「単語つなぎ形式」ができるようになったら、考える力をより伸ばすために、(結果)「～(操作)したら、～になった。」

(考察)「～(結果)から、～と考えた。」という型のみを示し、取り組ませる。

2 言語活動を通じた考察力の育成

(1) ペア学習・グループ学習による考察

考察の場面でグループでの話し合いを意識的に取り入れ、自分の考えを述べさせるようにする。考えがまとまらない児童は、周りの意見を聞いて、良いと思った考えを取り入れて良いこととし、全員が必ず考えを述べる約束とする。

例) A「ぼくは～だと思います。理由は～だからです。」

B「ぼくも～さんの意見と同じで、～だと思います。理由は～だからです。」

グループでの話し合いが終わったら、グループごとに発表用紙に書かせて、一人一役の役割分担をさせて、全体の前で発表させる。

3 ノート指導をとおした考察力の育成

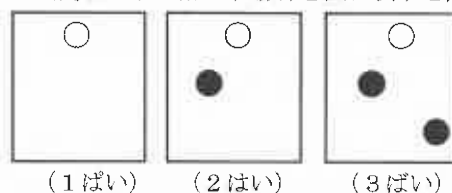
児童に「ノートの書き方のパターン」を提示する。

課題からまとめまでを、ノートの見開き2ページでおさめ、簡潔で見やすい記録方法を身に付けさせ、一目で学習内容が把握できるようにする。考察のスペースを広く取り、図や表、絵、記号等を使って、自由に記述できるようにする。また、これらを説明や討論といった学習場面で活用する。

月日	考察
問題	
予想	
方法	
結果	まとめ

図や表、絵、記号等を説明で使うことによって、言葉で説明できない児童でも説明できるようになる。これにより言語活動の充実にもつながる。

(食塩を水に溶かす場合を図に表すと)



○とけた食塩の量 ●溶け残った食塩の量

【理科（中学校）】

1 教研式標準学力調査（NRT）の偏差値からみた傾向

- ・中学校では、第1、2学年ともに平均値を下回っている。また、学年が進むにつれ、全国を下回っている領域数が増加する傾向が見られる。
- ・全国と川越市中領域の正答率を比較すると、第1学年では、12領域中11領域（-5ポイント以上の領域は5領域）、第2学年では、11領域中すべての領域（-5ポイント以上の領域は8領域）で下回っている。
- ・第1学年（内容は小学校第6学年）の「気体の溶けた水溶液」「小腸の役割と位置」「月の表面・クレーター」「三日月と太陽の位置」、第2学年（内容は第1学年）の「圧力の計算」「質量パーセント濃度」「用語：フックの法則、溶質、蒸留、道管」において、全国の通過率を大きく（15ポイント以上）下回っている。

2 川越市中中学生学力調査より

正答率が30%を下回った小問内容は以下の通りである。

第1回	<1年生の内容> ○圧力の大きさ（いろいろな力の世界） ○質量パーセント濃度（水溶液の性質） ○堆積岩（大地の変化） <2年生の内容> ○熱量（電流の性質） ○ひとみの大きさ（刺激と反応）
第2回	<1・2年生の内容> ○ゼニゴケ（種子をつくらない植物） ○湿度・水滴・雲の実験（雲のでき方と水蒸気） <3年生の内容> ○酸とアルカリ・水素イオン・中和（酸、アルカリとイオン） ○斜面の台車の運動・速さ（物体のいろいろな運動）

この分析結果をもとに、学習内容が定着するような指導方法の改善・定着を図って行く必要がある。

3 理科における課題

実験等には積極的に取り組む一方で、前後の学習と結び付けて思考する力が十分に身に付いていない現状がある。本市の課題は、目的意識をもって科学的に探究する学習を進めていくことである。

そこで、「実験の目的意識を高める」という視点で、「仮説」「グループで話し合い」「検証実験」という流れで行うことにより深めていく指導の手立てを示すこととした。

4 指導の手立て（電流回路の規則性を例にして）

(1) **生活経験や既習事項などから、根拠を持たせて予想を立てさせる**

→自分なりの根拠を持ち、文章化することで思考の可視化ができる。
「予想は〇〇〇、なぜならば・・・」 ※<資料1 ワークシート>

(2) **小グループでの話し合いを通して考えを深めさせる→全体へ発表**

→生徒一人一人が根拠を明確にして意見を述べ表現することで、思考が洗練される。

→他者と自分の考えのちがいを見付けるなかで、考えが深まり、考えが変化する。

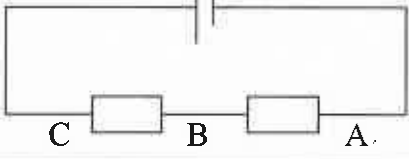
→比較・分類・関連付けなどを行い、多様な観点から考えを深める。

※<資料2 話し合いの役割 と 話し合いの流れ>

(3) **仮説を検証する実験**

→実験の目的が明確になることで知的好奇心を喚起し主体的に活動できる。

参考：自分の考えや他者の考えが見えるようにする。（可視化）

板書 ABC各点の電流 	自信を持って	たぶん～なる	ほぼ、カン!	
	ア $A > B > C$			
	イ $A < B < C$			
	ウ $A = B = C$			
	エ その他			

①話し合いをする前の個人の考え

	自信を持って	たぶん～なる	ほぼ、カン!
ア $A > B > C$	理由: 電圧が同じ、抵抗が同じだから	電圧が同じだから、抵抗が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから	電圧が同じだから、電流が同じだから
イ $A < B < C$			
ウ $A = B = C$		電圧が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから	電圧が同じだから、電流が同じだから
エ その他			

②小グループによる話し合いを行い、仮説を立てる。→クラス全体に発表。

③話し合いをした後の個人の考え

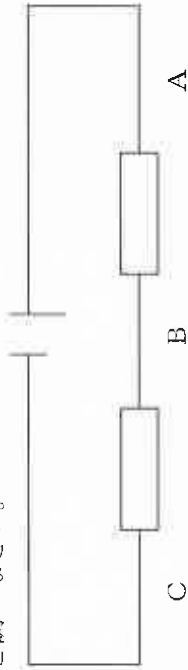
	自信を持って	たぶん～なる	ほぼ、カン!
ア $A > B > C$	理由: 電圧が同じ、抵抗が同じだから	電圧が同じだから、抵抗が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから	電圧が同じだから、電流が同じだから
イ $A < B < C$			
ウ $A = B = C$	理由: 電圧が同じ、抵抗が同じだから	電圧が同じだから、電流が同じだから、電圧降下が同じだから、電流が同じだから	電圧が同じだから、電流が同じだから
エ その他			

電流共和国の謎： 直列回路の各点を流れる電流を調べよ。

1

私は、アンペリア大魔王なり。わが電流共和国へようこそ。さっそくだがわが国の1つめの謎を解いてもらいたい。

★**課題** 図のような回路を組んで、A・B・Cの各点を流れる電流の大きさを調べなさい。



★まずは、**予想**してみよう！

ア、Aが一番強く B・Cの順に弱くなる。(A>B>C)

イ、Cが一番強く B・Aの順に弱くなる。(A<B<C)

ウ、ABCどこも等しい。(A=B=C)

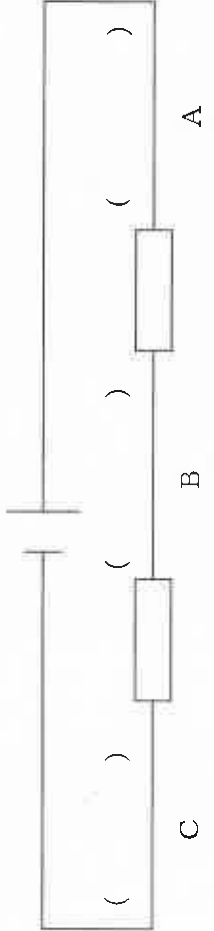
エ、その他 ()

仮説

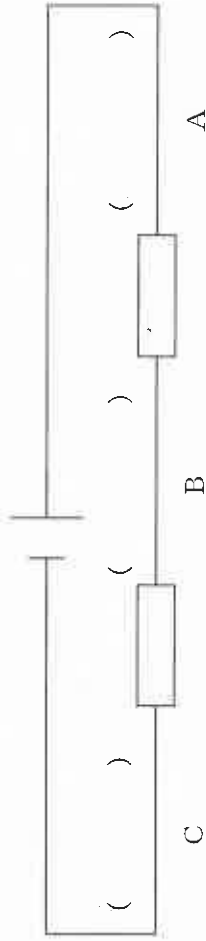
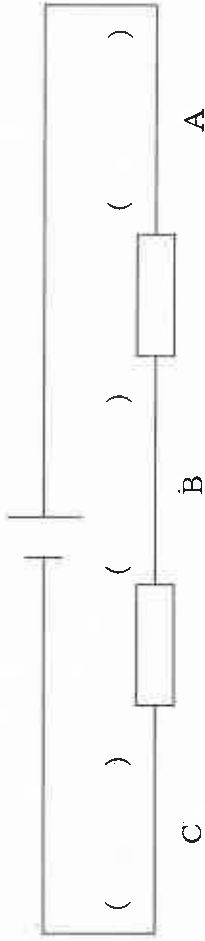
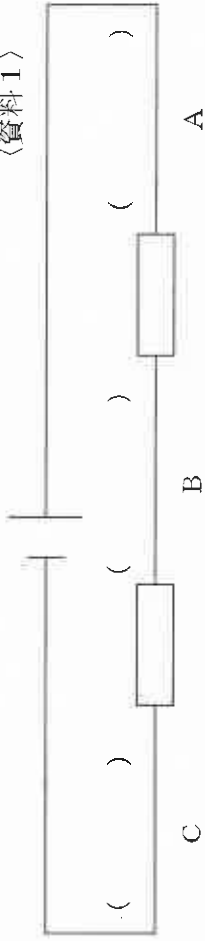
・ABC各点の関係は

であると考え。**理由**は

★**実験結果** () 内に測定した値を書きなさい。単位も書きましょう。



(資料1)



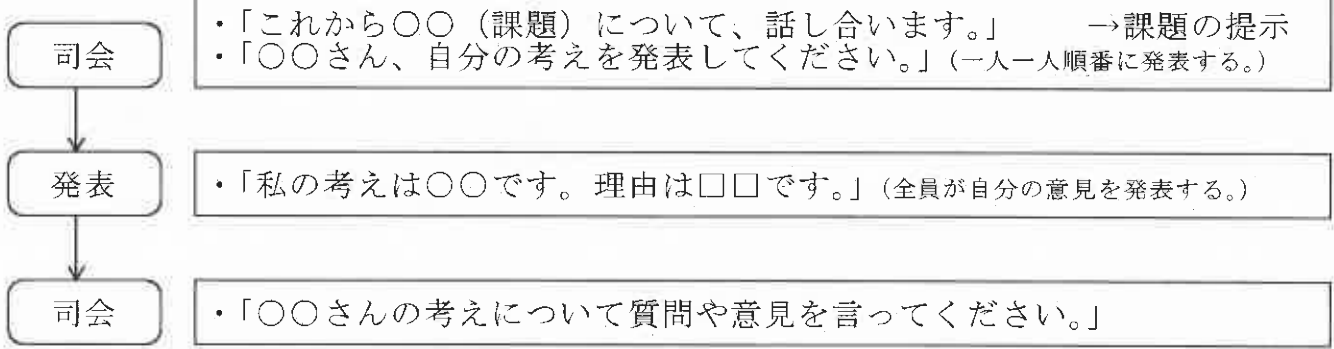
★**考察** 直列回路の場合、各点を流れる電流の強さについてのどのような規則性がありますか。

このことから

話し合いの役割 と 話し合いの流れ

〈資料2〉

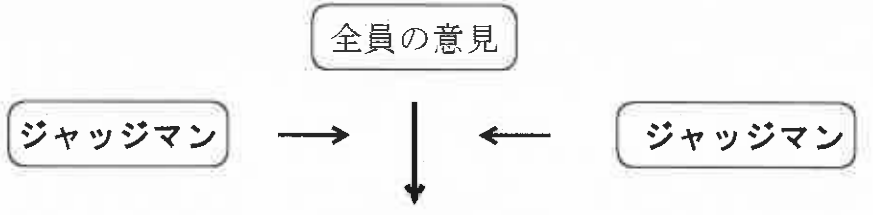
	どんな役なのか	主な発言
司会役 1人	★考えを整理し、はっきりさせる。 ・話し合いを進める役 ・考えがまとまるように、質問したり、意見を求めたりする。 ・話し合いの結論が出たかを判断する。	「〇〇についてどう思いますか」 「つまり、言いたいことは〇〇ですか。」 「〇〇についても意見を言ってください。」 「〇〇さんの意見をどう思いますか。」
発表役 1人	★「自分の考えは〇〇です。理由は□□です。」 ・話し合いの最初に、自分の考えを言う役 ・考えをまとめて、わかりやすく班やクラスに伝える役	「わたしの考えは〇〇です。理由は□□からです。」 「班の意見をまとめると〇〇のようになりました。理由は□□です。」
ジャッジマン 評価・検討役 2人	★人の発言を評価する。 ・理由がきちんと言えなかったり、話が止まってしまった人にアドバイスをする。 ・根拠がない話や間違った意見を確認し、指摘し、アドバイスする。 ★意見や考えが、実験結果や前に学習したことを比べて、正しいか判断する。みんなの意見を比べる。 ・データの誤差の検討 ・実験は成功したか？ ・実験結果をもとに考察しているか？ ・仮説をもとに、話し合っているか？	「今の意見の理由は何ですか。」 「その説明はちがうと思うよ。」 「〇〇のような説明の方がわかりやすいよ。」 「図を使ってみたら」 「その意見いいね。もっと詳しく説明してみて！」 「今の意見は、実験結果と合わないよ。」 「誤差を考えると仮説の値と合うよ」 「以前習ったことの〇〇と話が合わないよ」 「前回の実験の〇〇と同じだ」 「〇〇さんの意見と△△さんの意見は同じことを言っているね」



ここから自由討論

①自分の考え・意見を出す。 } 両方の意見を出す。

②自分の役割での発言



司会役
「みんなの意見をまとめると〇〇になります。」

発表役 「私たちの班では〇〇になりました。理由は□□だからです」

【英語科】

1 英語科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）より

教研式標準学力検査（NRT）では、平成20年度以降、偏差値50を上回っている。4領域（聞く・話す・読む・書く）で見ると、話すことが全国平均を0.5ポイント下回った以外は、全国平均を上回っている。しかし、「語や文を正確に聞き取る」「強勢や区切りに注意して話す」「適切な表現を用いて書く」に課題が見られる。

(2) 川越市中学生学力調査の結果から

川越市中学生学力調査において、第1回、第2回を通して、リスニングの正答率が高いが、「語順整序」「英問英答」「要約文の適語補充」の正答率は低かった。場面にあった英語を聞いて理解する力は上がっていると考えられる。しかし、正しい語順で表現することに課題が見られる。

2 英語科における課題

(1) 強勢と区切りを意識して読むこと

強勢や区切りを意識して、読んだり、話すことができる力を付けるために、強勢や区切りの箇所をあらかじめ必要であると考え、身近な話題等を扱った英文に数多く触れ、継続して取り組む中で、強勢、区切りを更に意識して、対話や文を読み取る力の育成を図る。

(2) 正しい語順で表現すること

「語順整序」「英問英答」の力を育成するためには、基本文や場面に適した表現を何度も繰り返し聞いたり、実際に表現したりする練習が必要であると考えられる。そこで、実際に役割を演じるなどの活動以外に単語や基本文の書き取り練習を習慣化し、常に綴りや語順を意識して言える、書けるように練習する場面を設定し、これらの力の育成を図る。

3 指導の手立て

(1) 強勢と区切りを意識して読む指導の工夫

〔該当学年：全学年〕

【指導資料（1）】

短い文章を用いて、強勢と区切りを意識しながら読む練習をする。始めに一語読みを行い、次にチャンク読み、センテンス読みという区切りだけでなく、意味の流れも意識しながら行う。

強勢については、強く読む部分の単語を太字で示しており、読む際に意識できるように工夫した。

(2) 日本語と異なる英語の語順を身に付ける

〔該当学年：全学年〕

【指導資料（2）】

英語の語順を理解した上で、表にある語句をならべて、たくさんの英文を作る。始めは、適切な表現になるように文章を組み立てる。慣れてきたら、あえてあり得ない意味の英文になるように、組み立ててみる。これにより、英文の組み立てをたくさん練習できる。

表を使った英文作りに慣れたら、制限時間内にいくつ英文を作ることが出来るか、を競わせる活動も考えられる。また、授業の最初に英文作りタイム（仮称）として、たとえば3分間ほど取り組ませると、英文作りにより慣れることができ良い。力のある生徒に対しては、表にない英語を使ってもよいというような課題を設定してもよい。

生徒自身が作成した単語表を活用することもできる。生徒一人一人が意欲的に取り組める工夫をすればさらに活用できる。

【指導資料(1)】

■ 強勢と区切りを意識しながら音読してみよう ■

(音読例文)

Summer vacation was almost over. My brother, Toshi, and I planned to do something interesting before school started. Toshi wanted to go camping. I hoped to visit our uncle who lived in Tokyo.

My sister, Yoko, didn't want to go anywhere. She wanted to read the book which she borrowed from the school library.

■ 区切りを意識して読んでみよう ■

Summer vacation was / almost over.

夏休みは～でした ほとんど終わり

My brother, Toshi, and I planned /

私の兄のトシと私は計画を立てました

to do something interesting / before school started. /

何か面白いことをするための 学校が始まる前に

Toshi wanted to go / camping. /

トシは行きたかった キャンプに

I hoped to visit / our uncle / who lived in Tokyo. /

私は訪れたかった おじさんの所へ 東京に住んでいる

My sister, Yoko, didn't want to go / anywhere. /

私の妹のヨウコは行きたくなかった どこへも

She wanted to read / the book / which she borrowed /

彼女は読みたかった 本を 彼女が借りた

from the school library. /

学校図書館から

■ 強勢を意識しながら読んでみよう ■

Summer vacation was / almost over. My brother, Toshi, and I planned / to do something interesting / before school started. /

Toshi wanted to go / camping. / I hoped to visit our uncle / who lived in Tokyo. /

My sister, Yoko, didn't want to go / anywhere. / She wanted to read / the book / which she borrowed / from the school library. /

【指導資料（2）】

語順を知る

英語の文章を書くためのファーストステップ。それは、語順の違いを理解できるようにすることです。

日本語と英語の語順は違います。

日本語は、〈いつ〉〈誰が〉〈どこで〉〈誰と一緒に〉〈何を〉〈何する〉の語順です。例えば、

「昨日 私は 学校で 友達と一緒に サッカーを プレイした。」
という日本語を生徒に英訳を指示すると、単語自体は簡単であるのに、

Yesterday I at school with my friends soccer played .

というような英文(?) になりかねません。それは、日本語と英語の語順が根本的に違うことを理解していないからです。

英語は、〈誰は〉〈何する〉〈何を〉〈誰と一緒に〉〈どこで〉〈いつ〉の語順です。

先ほどの日本語を英文の語順に直すと、
「私は プレイした サッカーを 友達と一緒に 学校で 昨日 」
となり、これを英単語に置き換えると

I played soccer with my friends at school yesterday .

それでは、下の表の単語を組み合わせて、できるだけ多くの英文を作ってみましょう。

誰が	何する	何を	誰と一緒に	どこで	いつ
I	study(ies)	<i>okonomiyaki</i>	with students	LL room	then
He	play(s)	hamburger	with my friends	at <i>Shizuka's</i> house	in the 15th century
She	eat(s)	English	with my mother	in the park	10 years ago
We	make(s)	ABC song	alone	here	last Sunday
Takeshi	cook(s)	soccer	with Tom	at school	yesterday
Mariko	sing(s)	<i>doraemon</i>	with his son	at home	in April
Ken and Emi	draw(s)	<i>kinkaku-ji</i>	with Nobita	in Kyoto	every day

5 平成26年度全国学力・学習状況調査結果の分析（参考）

平成26年度 全国学力・学習状況調査の概要（川越市）

調査目的

- ◆ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◆ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆ 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査実施日 平成26年4月22日（火曜日）

調査対象児童生徒数 小学校第6学年 3001名
中学校第3学年 2740名



川越市マスコットキャラクター
ときも

調査内容

- ◆ 教科に関する調査
国語A、算数・数学A・・・主として「知識」に関する問題
国語B、算数・数学B・・・主として「活用」に関する問題
- ◆ 質問紙調査
児童生徒に対する調査・・・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する調査・・・学校における指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する調査

平成26年度の調査結果から今後の取組として重視する内容

■ 国語の分析から見える授業改善

- ◇単に知っているだけでなく、知識・技能を活用できるようにするために、様々な言語活動を通して指導する。（小・中）
- ◇「書くこと」では、自分の考えを形成し、なぜそう思ったのかを交流するという学習過程を明確し指導する。（小・中）
- ◇目的や場面に応じた話し合いができるように、結論（まとめ）を導き出すために、意見を整理する観点を生徒に考えさせるよう指導する。（中）

■ 算数・数学の分析から見える授業改善

- ◇児童が、身に付けた知識・技能を実生活の様々な場面で活用できるように、身の回りの素材を教材化し指導する。（小）
- ◇生徒が、様々な課題を解決できるように、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する能力を伸ばすよう指導する。（中）
- ◇事象を捉える経験（規則性を見いだすこと、関係性を見いだすこと等）を重ねるようにし、口述や記述による説明を求めるよう指導する。（小・中）

全教科・学年の授業改善を図り、
児童生徒の学力向上を目指す

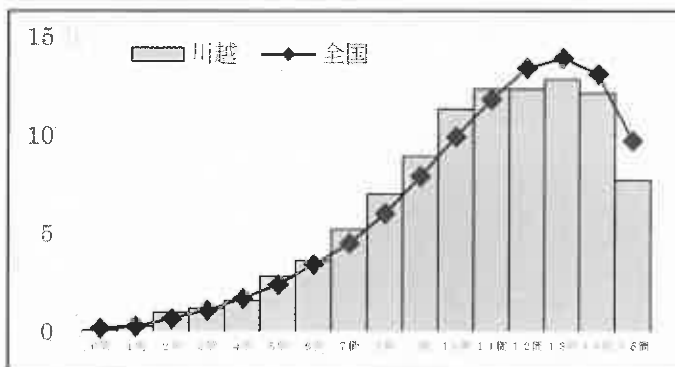
平成 26 年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（小学校）

教科に関する調査 小学校：国語

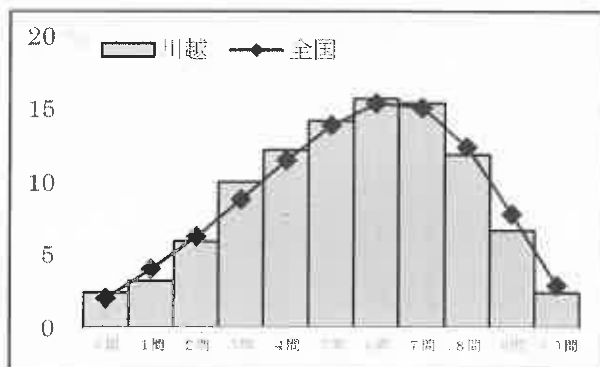
平均正答率 国語A 71.1% 国語B 54.6%

1 正答率分布（正答数ごとの児童の割合）

【国語A】 主として「知識」に関する問題



【国語B】 主として「活用」に関する問題



2 国語の調査結果の概要及び指導改善のポイント

【結果概要】

- ◇今回出題された漢字の読みは、相当数の児童ができています。
- ◇司会の役割として話合いの観点を整理したり、質問の意図を捉えたりすることができる。
- ◆故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。
- ◆詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。

【指導改善のポイント】

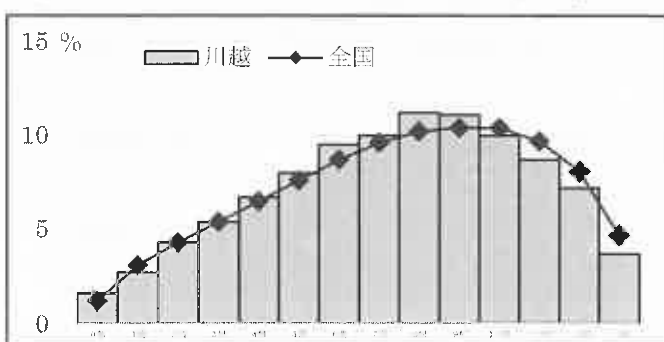
- ・ 故事成語を文章の中で使えるように、スピーチや新聞づくり、レポート作成の中で表現させます。
- ・ 授業では、考えたことについての交流場面を大切にします。互いを比較しながら共通点や相違点を考えたり、互いの考えを分類したりして、どのような着眼点に基づくかを明確にしていきます。

教科に関する調査 小学校：算数

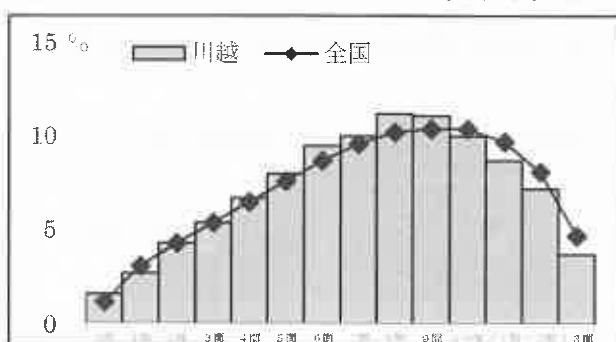
平均正答率 算数A 76.3% 算数B 57.0%

1 正答率分布（正答数ごとの児童の割合）

【算数A】 主として「知識」に関する問題



【算数B】 主として「活用」に関する問題



2 算数の調査結果の概要及び改善に向けて

【結果概要】

- ◇整数、小数、分数の四則計算をすることは、相当数の児童ができています。
- ◇示された直方体の体積を求めることは、相当数の児童ができています。
- ◆割合が1より小さい場合でも、比較量が、(基準量) × (割合) で求められることの理解に課題がある。
- ◆示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することに課題がある。

【指導改善のポイント】

- ・ 倍に関する学習は、第2学年から系統的に位置付けられています。整数の乗法についての理解を基に、小数倍の意味を図と関連付けて、数量の関係（基準量、比較量、割合）を捉えられます。
- ・ 日常の授業の中で、解決の見通しを立てたり、解決の方法や判断の理由を言葉や数、式、図、表、グラフなどで表現したりする活動を取り入れて指導します。

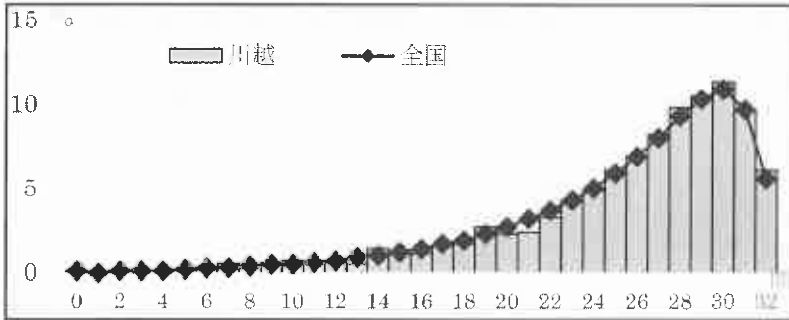
平成 26 年度全国学力・学習状況調査 川越市立小・中学校の調査結果（中学校）

教科に関する調査 中学校：国語

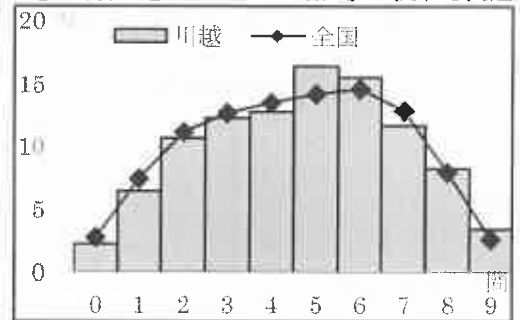
平均正答率 国語 A 79.9% 国語 B 52.3%

1 正答率分布（正答数ごとの生徒の割合）

【国語 A】 主として「知識」に関する問題



【国語 B】 主として「活用」に関する問題



2 国語の調査結果の概要及び指導改善のポイント

【結果概要】

- ◇質問し、必要に応じて足りない情報を聞き出すことは、相当数の生徒ができています。
- ◇心情が相手に効果的に伝わるように描写を工夫して書き加えることは、相当数の生徒ができています。
- ◆資料から適切な情報を得て、事実や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる。
- ◆文脈に即して漢字を正しく書くこと、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題が見られる。

【指導改善のポイント】

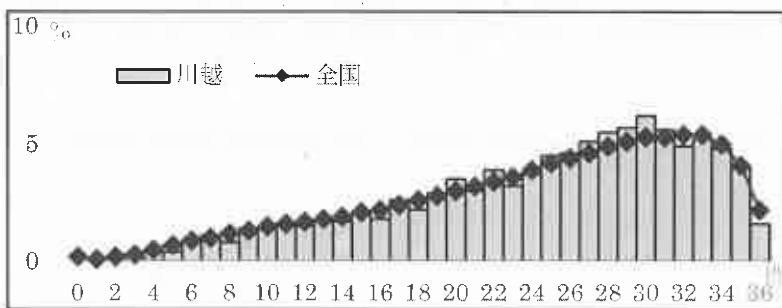
- ・目的に沿って資料の内容を整理したり、自分の言葉で言い換えたりした際に、使用した資料の内容を適切に取り上げているかを確認するために、学習の振り返りを大切にします。
- ・言語への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設けることを大切にします。

教科に関する調査 中学校：数学

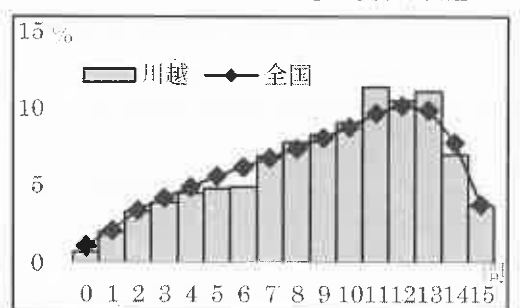
平均正答率 数学 A 68.1% 数学 B 61.2%

1 正答率分布（正答数ごとの生徒の割合）

【数学 A】 主として「知識」に関する問題



【数学 B】 主として「活用」に関する問題



2 数学の調査結果の概要及び改善に向けて

【結果概要】

- ◇数量を文字式で表すことと、式変形と移項の対応については、相当数の生徒が理解している。
- ◇日常的な事象を表した図から必要な情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることは、相当数の生徒ができています。
- ◆証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を基に、発展的に考えることに課題がある。
- ◆関数の意味を理解すること、グラフと表を関連付けて反比例を理解すること、一次関数の変化の割合を理解することに課題がある。

【指導改善のポイント】

- ・「証明の方針」と「証明」の対応や順番について考え、仮定から結論を導く推論の過程を的確に表現する活動を充実させます。
- ・表、式、グラフを相互に関連付け、式やグラフの形から関数を判断する活動を大切にします。

児童質問紙調査から

90%以上の児童が肯定的に回答した項目

<基本的な生活習慣>

- ・朝食を毎日食べている。 93.7%
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 93.6%

<自尊意識>

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 94.7%

<学校でのコミュニケーション>

- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。 93.6%

<家庭でのコミュニケーション>

- ・家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。 95.2%

<家庭学習>

- ・家で学校の宿題をしている。 97.1%

<規範意識>

- ・学校の決まりを守っている。 91.1%
- ・友達との約束を守っている。 97.5%
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 96.1%
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 97.5%
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。 96.1%

<学習に対する関心・意欲・態度>

- ・国語の勉強は大切だと思う。 94.5%
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。 90.7%
- ・算数の勉強は大切だと思う。 95.0%
- ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。 91.0%

全国平均と比べて好ましい回答であった項目

<社会との関わり>

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。 78.1%(全国比+10.1)

<総合的な学習の時間>

- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 77.2%(全国比+13.4)

<言語活動>

- ・5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思う。 86.2%(全国比+8.9)

<国語の学習>

- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。 66.3%(全国比+5.7)
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。 75.5%(全国比+4.8)

<算数の学習>

- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。 85.5%(全国比+7.2)

肯定的な回答が少なかった項目

- ・家で、学校の授業の予習をしている。 47.4%
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 46.8%

生徒質問紙調査から

90%以上の生徒が肯定的に回答した項目

<基本的生活習慣>

- ・朝食を毎日食べている。 93.7%
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 92.2%

<自尊意識>

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 94.0%

<学校でのコミュニケーション>

- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。 92.7%

<規範意識>

- ・学校の決まりを守っている。 93.6%
- ・友達との約束を守っている。 97.1%
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 95.2%
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 94.6%
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。 93.4%

<学習に対する関心・意欲・態度>

- ・国語の勉強は大切だと思う。 91.7%
- ・数学ができるようになりたいと思う。 91.5%

全国平均と比べて好ましい回答であった項目

<家庭学習>

- ・家で、学校の授業の予習をしている。 39.5% (全国比+5.3)

<総合的な学習の時間>

- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 64.8% (全国比+10.0)

<国語の学習>

- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。 61.8% (全国比+5.7)

<数学の学習>

- ・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。 45.8% (全国比+4.9)
- ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。 72.4% (全国比+4.9)
- ・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。 75.2% (全国比+5.2)

肯定的な回答が少なかった項目

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 43.3%
- ・家で、学校の授業の復習をしている。 47.3%
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。 32.9%

Ⅲ 教育情報誌「小江戸川越寺子屋タイムズ」

1 作成の目的

- 各教科等の指導における本市児童生徒の課題を踏まえて「児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むこと」の一助となるスタンダード（大切にしたいこと）を学力向上研究委員会として示していく。それらを情報として提供し積み重ねる中で、教師の意識、授業の質の向上を図る。

2 内 容

- 「児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むこと」の一助となるスタンダード（大切にしたいこと）

【例】

- ・各教科等の指導において大切なこと
- ・学習の流れと板書
- ・関心・意欲を高める工夫
- ・問題解決能力の育成ポイント
- ・学習環境の整備
- ・教材・教具の活用

3 備 考

- 学力向上研究委員の日頃の実践をベースに“読みたくなる”紙面作りを心掛ける。
- 各種学力調査のデータ等による川越市としての課題や国、県の動向等を踏まえた紙面作りも考えられる。

IV 平成26年度

川越市の児童生徒の学習・生活状況調査 報告書

調査実施の概要

1 実施の目的

本調査の結果の検証を通じて、本市児童生徒一人一人の学習と生活の状況について実態を把握するとともに、学力向上に向けた教育活動を活性化させ、知徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を図ることを目的とする。

2 調査の方針

- (1) 「川越市小・中学生学力向上プラン」を踏まえるとともに、国や県の調査・検証結果における課題との関連を図る。
- (2) 本市の学習状況と生活状況の関連に基づき、指導方法の工夫・改善に資する資料を作成、提供する。
- (3) 小・中学校9年間の学習と生活の状況の連続性を踏まえた調査を行う。
- (4) 既存資料の活用、修正及び次年度以降の学力向上研究委員会関連部会との連携を図る。

3 調査の方法と内容

質問紙により以下の内容について調査を行う。

調査A 小・中学校全学年

○「教育に関する3つの達成目標」の「規律ある態度」の12項目

調査B 小学校第5学年 中学校第2学年

○埼玉県小・中学校学習状況調査質問紙の項目のうち10項目程度

調査C 小学校第6学年 中学校第3学年

○全国学力・学習状況調査質問紙の項目のうち5項目程度

4 実施期間

平成27年1月13日（火）～1月23日（金）



小江戸川越

川越市マスコットキャラクター ときも

寺子屋タイムズ (小学校国語版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年1月

「主語・述語・修飾語」を「読むこと」「書くこと」の学習の中でも取り上げることで、活用する力を伸ばします。

先生、トイレ!

先生は、トイレではありません。

どう言えば 伝わるんだろう。

先生は、トイレです?

主語と述語がきちんとそろっていることが大切です。

先生、ほくはトイレに行きたいです。

主語・述語の見つけ方 (スタンダード)

① 述語を見つける。
(述語は、文末にある。)

② 述語に合わせて、「誰が」「何が」に相当する言葉を探す。
必ず主語と述語を続けて読み、対応していることを確認する。

③ 主語・述語以外は修飾語になる。

文ちゃん人形 (文の仕組み)

文を作ってみよう

だれが 何を どのように

わたしが 漢字を 書きました。

主語 述語

もっとくわしい文を作ろう

私が 何を どのように

私が 漢字を 書きましたか?

何を 書きましたか?

どこで 書きましたか?

私が 何を どのように

私が 漢字を 書きました。

主語 修飾語

私が 家で 漢字を 書きました。

何を 書きましたか?

どこで 書きましたか?

私が 何を どのように

私が 漢字を 書きました。

主語 修飾語

私が 家で 漢字を 書きました。

何を 書きましたか?

どこで 書きましたか?

私が 何を どのように

私が 漢字を 書きました。

主語 修飾語

私が 家で 漢字を 書きました。

読むことの学習の中で

学年が進むと文章が長く、複雑になっていきます。主語と述語を探ると文の仕組みがわかりやすくなり、内容の理解に役立ちます。

「大進しんざんとガン」

最初飛び立ったものの後について飛ぶ、というふうを知っていたの、このガンを手に入れたとき、ひひひ、これをいって使って、残雪の仲間をいってさあ、きんぞうだ。

① この文が 知っていた。

② この文が 考えたのだ。

書くことの学習の中で

主語と述語の関係が正しいか見直しをしましょう。わかりにくい文章、一文が短く明瞭に書き直しましょう。

ほくは、朝風がらうてい、お母さんがほくを中止になったと教えてくれて、がっかりしました。

わかりにくい文だな。

主語と述語を確認しよう。

① 朝風がらうてい。

② お母さんが、ほくを中止になったと教えてくれた。

③ ほくは、がっかりしました。



小江戸川越

寺子屋タイムズ (中学校国語版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年12月

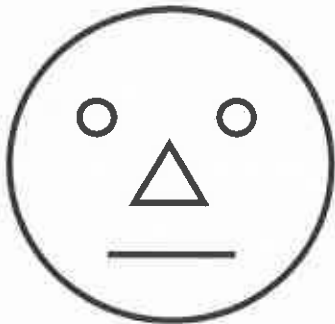
伝え合う力を身に付けるために！

<情報を正しく伝えよう> ～情報伝達ゲーム～

相手や目的、意図に応じて適切に表現したり正確に理解したりする「伝え合う力」の育成は、学力向上を図る上で重要です。「伝え合う力」を高めることで、国語に限らず他の教科においても、その効果が期待されます。そこで、授業で実践できる「伝え合う力」を身に付けるための事例を紹介します。

課題Ⅰの図形を、実際の絵を見せずに、言葉だけで伝えよう。

課題Ⅰ



(人の顔のような図形)

《 取り組み方 》

- ①伝達リーダーを一人決める。
- ②課題Ⅰの図形について、言葉だけで伝えさせる。
(制限時間は2分。)
- ③教師はリーダーの説明をメモしておく。
- ④リーダー以外は、説明を聞いて紙に書く。
- ⑤出来上がりを比べ合う。
- ⑥教師はメモしておいたリーダーの説明をもとに話した内容・順序を確認する。
- ⑦正確に早く伝わる話し方を班ごとに考える。
- ⑧考えた話し方を班ごとに発表し、より早く正確に伝える方法をまとめさせる。

《 指導のポイント 》

情報を正確に伝えるためには、**相手意識を持つ**ことが大切である。この事例は、それを体験させることが目的である。聞き手は、情報を自分のフィルター(既存の体験等)を通して理解する。話し手も自分のフィルターを通して情報を伝えようとする。だから、**お互いのフィルターを一致させる**ように話すと情報はより早く正確に伝わる。フィルターを一致させるためのポイントを学習し、スピーチや日常生活に活用させたい。

《 情報を正確に早く伝えるポイント

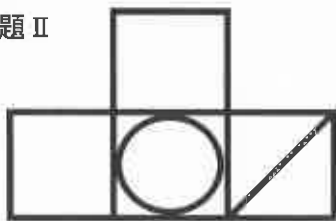
～フィルターを一致させるために～ 》

- ①耳からの情報は第1イメージが大事。
- ②最初に情報全体をイメージした表現をする。
- ③1文に1情報くらいの「短い文」で伝える。
- ④具体的な数値や共通理解できている事物を活用し、表現する。
- ⑤情報を伝える順序を吟味する。



* 発展課題として下記のⅡ・Ⅲのほか、「〇〇への行き方」「地図の説明」等 がある

発展課題Ⅱ



(幾何学的な図形)

発展課題Ⅲ



(漢字…正確なものではない)

* 「課題の説明の例」については、発行済みの「寺子屋タイムズ(中学校国語版①)」で確認できます。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校書写版①)

川越市教育委員会 川越市学力向上研究委員会

平成27年1月

学習を始める前に確かめよう

よい姿勢・筆の持ち方



ポイント

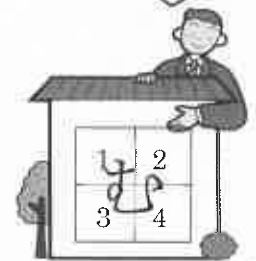
- ・足の裏は、床につけて少し開く。
- ・背中を伸ばす
- ・お腹と背中に「グー1つ分」空ける。
- ・紙を軽く押さえる。
- ・ひじを上げる。

用具の準備・手の位置



文字のお部屋

文字の書き始めを意識させましょう。



学習の進め方 (基本)

- ① 準備する
- ② 学習のめあてを確かめる
- ③ 試し書きをする (硬筆 or 毛筆)
- ④ **考える (ここがポイント！)**
 - ◎ 試し書きと教科書の文字を比べる (自己批評・相互批評)
 - 批評の観点は、本時のめあてに基づく
 - ◎ 水書板を活用する
 - ◎ 映像を見せる (例 筆使い・穂先の動き 等)
 - 書写指導書 CD-ROM を活用
- ⑤ 練習する (半紙3枚程度)
 - ◎ 様々な練習用紙を用意して、自分の課題に合ったものを選ばせるのもよい。(例 かご字・骨書き・文字枠等)
 - 書写指導書 CD-ROM を活用
- ⑥ まとめ書きをする (毛筆→硬筆で確認)
- ⑦ 振り返りをする
- ⑧ 片付ける
- ★ 番外編・他教科や生活に生かす (授業後)
 - ノート・手紙・掲示物・ポスター・新聞等

自己批評



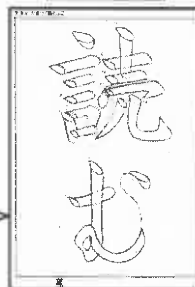
- ・書いたものと教科書(手本)の文字を比べる。
- ・批評の観点は、本時のめあてに基づく。
- ◎ 「二文字以上書く時は、一文字目の大きさや位置も大切だね。」
- ◎ 「手本と比べると、平仮名をもう少し小さく書くといいかも…」

相互批評



- ・友達とお互いに書いた文字を批評する。(言語活動)
- ・批評の観点は、本時のめあてに基づく。
- ◎ 「〇〇君は、文字の大きさに気をつけて書いているね。」
- ◎ 「△△さんと比べると、僕は、もっと大きさに変化をつけた方がいい。」

かご字



骨書き



枠のみ



練習用紙は印刷して使う (練習用紙の一例)





小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校社会科版①)

川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年11月

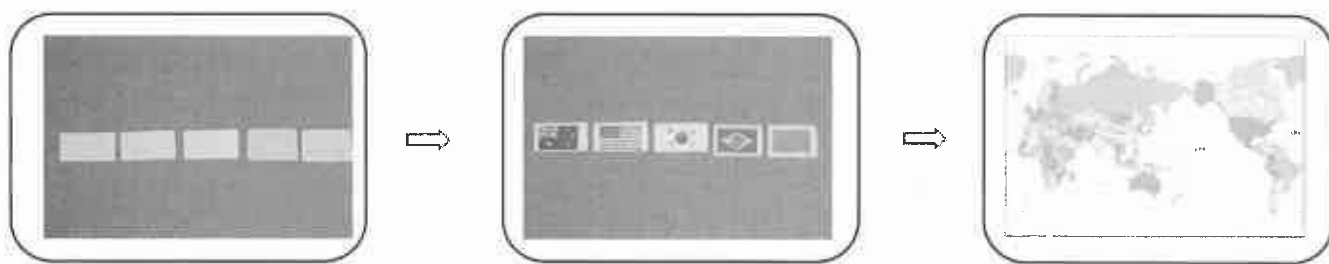
学習指導要領（第5学年）の「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」で、六大陸と三海洋の名称と位置や広がりを取り上げるとあります。しかし、児童の実態を見ると世界地図等を効果的に活用する能力や、主な国の名称や位置に関する知識がやや弱いので、それらを高めるための手立てとして、以下のような取り組みがあります。社会科と英語活動とのコラボレーション、休み時間等で取り組むなど様々な方法が考えられます。



世界地図を使って、国の名前や場所を楽しく学習するアイデアを紹介します！
※日本地図を使って都道府県を学習する方法にも活用できます！

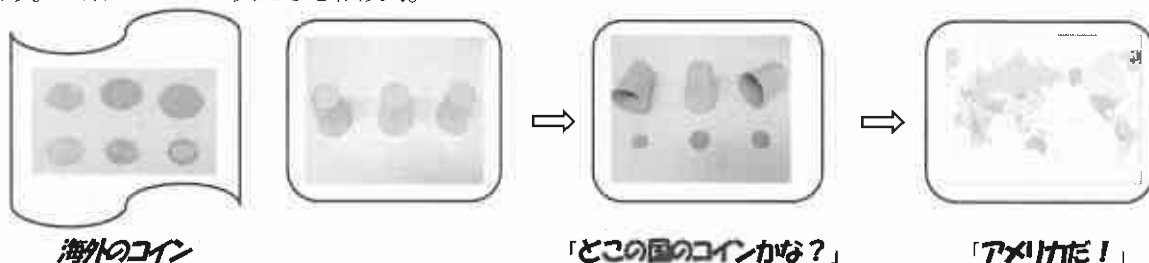
例1 《国旗カードゲーム》

- ① 4グループを作る。
- ② 各グループから1人ずつ代表者が出る。
- ③ 「Ready Go!」で裏返した国旗カードを1枚選び、出た国旗の国の場所を地図上でタッチしながら、国名を言う。



例2 《コインゲーム》

- ① 3グループを作る。
- ② 各グループから1人ずつ代表者が出る。
- ③ 「Ready Go!」でコップを1つ選び、中に入っている海外のコインの国の場所を地図上でタッチしながら、国名を言う。 ※グループの友だちと相談可。





小江戸川越

寺子屋タイムズ (中学校社会科版①)

川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年2月

『歴史新聞』の評価を考えよう

単元のまとめとして『歴史新聞づくり』が考えられます。この新聞づくりは、社会科の力を測るために取り組ませるので、具体的な意図(評価の基準)を持ってつくらせる必要があります。歴史新聞づくりを通して、学習内容を整理させることが目的です。今回は、鎌倉時代における『歴史新聞づくり』の評価について考えてみました。

【この単元のねらいは】

「武家政治の特色」については、武士が台頭し、やがて「主従の結び付きや武力を背景にして」(内容の取扱い)東国に武家政権が成立したことなど、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに注目して**考察**し、自分のことばで表現できるようにさせる。(『中学校学習指導要領解説 社会編 P.90』)

中世の日本の評価規準 【思考・判断・表現】

鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
(国立教育政策研究所資料より)

この記述での『思考・判断・表現』に係る評価

- 複数の視点から幕府の支配を考察している
- 幕府の成立の背景や影響に触れている
- 封建社会の特色を踏まえた記述をしている

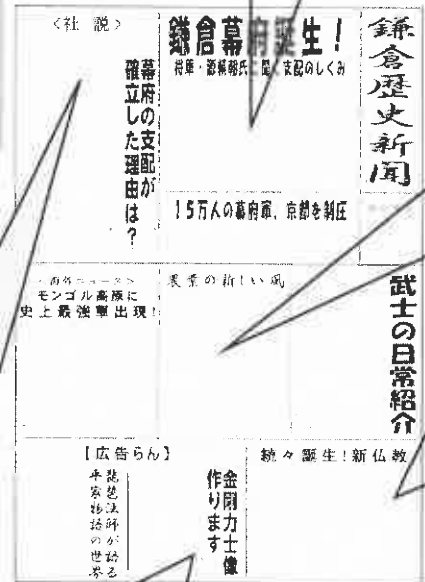
↓この

A: 天皇や貴族の政治とのちがいに注目し、武家政権の特徴について具体的な歴史的事象を取り上げて、深く考察し、記述することができている。

例 将軍と御家人の間には、「御恩と奉公」という関係があった。
将軍は武士の領地を守り、御家人は忠誠を誓い将軍に尽くす。
こうした関係は、天皇や貴族の政治にはなく、互いにより良い関係を築くことができたから、幕府による支配が成立したのではないかと、私は考える。

B: 武家政権の特徴について具体的な歴史的事象を取り上げて記述することができている。

図表の作成『技能』



手紙形式『思考・判断』

表にまとめる『知識・理解』

CM作成『興味・関心』や『技能』

作成にあたっての留意点

- ・事前に評価の基準を示しておく
- ・「自由に表現させる内容」と「一定の基準で記述する内容」とを区別する
- ・自分自身のことばで記述する
- ・授業で学んだことの定着を確認できる内容構成とする



小江戸川越

寺子屋タイムズ (算数科版①)

川越市教育委員会 ・ 川越市学力向上研究委員会 平成27年2月

よりよい授業にするために！

(1) 1単位時間の流れを明確にする

算数科において、1単位時間の流れを明確にして授業を進めることは大切です。学習過程(例)を「つかむ」「見通す」「解く」「話し合う」「まとめる」とし、教室に掲示しておく、児童にとっても流れがわかります。

「見通す」段階では、「どんな考え方・方法ならできそうか」を考えたり、「どんな答えになりそうか」を見当をつけたりします。

また、【写真1】のように、自力解決時の手立てとなる既習事項を算数コーナーに提示しておきます。

学習の流れ

つかむ

今までと違うところを探そう。
課題は何かな。

見通す

どんな考え方・方法ならできそうかな。
どんな答えになりそうかな。

解く

自分の力で解いてみよう。
別の方法・考え方でもやってみよう。

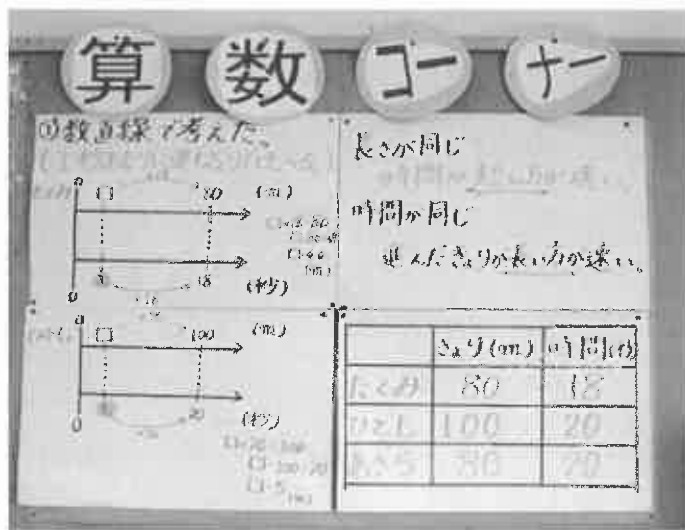
話し合う

わかるように説明しよう。
友達の考えをよく聞こう。

よいところを見つけよう。
似ているところ、同じところ、いつでも使える方法。

まとめる

課題に沿って書こう。
自分の言葉で書けるといいよ。



【写真1】 算数コーナー



【写真2】 板書の例

(2) 板書とノート作り

児童が、問題をどのように考えたのか、どのようなことを学んで、何ができるようになったのか等を教師が知ることは児童一人一人のノートからです。児童がどのようにノートに記述していくのかは、教師の板書が大きく影響します。黒板には、比較的多くの内容を残すことができます。児童は板書されている他の児童の考えをヒントにしたり、複数の考えを比較したりしながら思考していきます。また、算数科は系統性のある教科です。板書を丁寧に構成し、学習したことを振り返ることができるノート作りを心掛けます。

【写真2】は1単位時間の板書の例です。1単位時間の流れと合うように板書を構成していきます。授業の最後に板書を見たときに、児童の思考の流れを確認できるようにすること、この授業を通して学習したことを一目で把握できるようにすることが大切です。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (数学科版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年2月

考えることが楽しい授業づくりをめざして!

数学の授業を通して、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「関心・意欲」をバランスよく育てることが大切です。そのためには、数学的活動を充実させ、生徒が主体的に取り組むことを大切に授業を仕組んでいかなければなりません。その一つとして、導入における「問題」が考えられます。「問題」をきっかけとして生徒が、「知的楽しさ」を味わえるような雰囲気醸成していきたいものです。

(例) 確率の導入場面において



サイコロをふって、1か6以外の目が出たら、何かごちそうしてあげるよ。その代わりに、1か6が出たら、何かごちそうしてね。

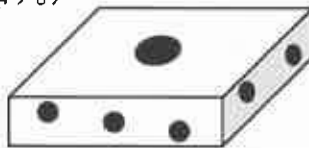
1・6よりも、2・3・4・5の方が、数が多いから出やすそうだな。

いいよ! (何にしようかな。)



じゃ、いくよ。

(厚紙や、新品の消しゴムなどで特殊なサイコロを前もって準備しておき、ここでおもむろに取り出す。)



ずるい!



なんで、ずるいのかな?

※ 後の展開で、“同様に確からしい”につなげていく。



それでは、コインを2枚投げて、2枚とも同じ面と違う面で勝負をしたら、どちらが有利になると言えるかな?

(予想をたてさせた後、) 実際にコインを投げて、回数を数えてみる。

- ・一人50回程度投げ、それをクラスで共有することで、2000回程度の実験にできる。
- ・面の出方は(表と表)、(裏と裏)、(表と裏)の3通りのように見えるので、同じ面が出る場合が有利と考えられそうだが、結果は平等となる。

実際に多数回の試行を行うなどの経験を通して、ある事柄の起こる割合が、一定の値に近づくことを実感を伴って理解できるようにすることが大切です。場合の数に基づいて確率を求めた場合には、それが正しいかどうかだけでなく、そのことによってある事柄の起こりやすさについてどのようなことが分かったのかを実験や調査などを通して確認することも大切です。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校理科版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成27年3月

問題解決能力育成のポイント

問題を見だし、予想をたて、観察・実験を行い、結果を整理し、考察やまとめを行う、という流れで学習を進め、予想や考察の場面では話し合いを行います。この過程を繰り返すことによって、科学的な見方や考え方が育ち、問題解決の能力が育成されていきます。

問題解決学習の流れ



考察をしよう

問題	どうすればろうそくの火を燃え続けさせることができるのだろうか。
結果	上下にすきまがあると炎はよく燃え、煙もたまらなかった。
考察	このことから、ろうそくが燃え続けるには、空気が入れかわる必要があると考える。なぜなら、線香の火が下から上へ動いていたから。

①個人の考察

実験後、結果について自分の考えをまとめます。

②グループでの考察

グループの中では、役割分担をしながら、個人の考察を検討します。

③全体での共有

聞いているみんなにわかるように理由や考えを説明し、考えを共有することによって、少しずつ科学的な見方や考え方がついていきます。

予想をしっかりとてよう

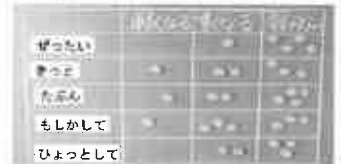
①視点を与える



②自分の考えを書く

～だと思います。理由は、～だからです。

③個人のマグネットを置く



児童の考えを板書し、残すことによって考えの変容を視覚化できます。自信度によって「ぜったい」「きっと」「たぶん」「もしかして」「ひょっとして」の5段階に分けて自分のネームプレートを貼っていきます。友達の意見を聞いて考えが変わったら、プレートを動かしてOKです。

話し合いをしよう

*根拠をもとにして、論理的に説明をするには、役割を決めよう。

司会	情報を明確化する
スタート	説明する
ジャッジ	批判的に思考する
まとめ	行動決定する





小江戸川越

寺子屋タイムズ（中学校理科版①）

川越市マスコットキャラクター とさも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年1月

理科では、科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、生徒が目的意識をもって観察・実験を主体的に行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的探究の能力の育成が重視されています。

根拠をもった予想、話し合い活動を通じた思考の深化、仮説を検証する実験については、冊子「学力分析と指導の手立て」に掲載予定です。

これらの前提には観察・実験の充実が欠かせません。ここでは、限られた時間の中で円滑に実験を行うための準備について、簡単にできる実践例を紹介します。

身近なものを使って理科室を整頓すると、実験をスムーズに行えるようになります。

◇シール容器やフィルムケース等を使って

電流の実験で使用する導線などを、一定数シール容器（右の写真は20.3cm×15cm×7cm）に入れ、班の数+1用意しておく、電流の单元だけでなく、他の单元で使用する際も便利です。またフタの上に内容物を明記しておく、片付けの時の確認にも便利です。



最近は少なくなりましたが、まちの写真屋さんをお願いして、フィルムケースを分けてもらう方法もあります。

実験に使う薬品を、フィルムケース等に小分けで準備しておく、便利です。シール容器に物質ごとに入れておくと（18cm×9.8cm×7cmならば12個入ります）、棚の中に重ねて収納できます。

フィルムケースに化学式を書いておくと、生徒が元素記号に触れるチャンスが増えます。



BTB溶液等は小分けにして、スクリュウキャップ容器等にまとめておくと便利です。



チャック付き透明袋も、薬品や薬包紙、リトマス紙の小分けなどに使えます。500ml炭酸飲料のペットボトルは、質量保存の法則の実験容器としてばかりでなく、水を入れておもりに、下半分を切って肺のモデル実験に、等々、いろいろと便利です。





川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (中学校英語版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年 2月

知っ得！音読指導



- 【お悩み】 (1) 「音読の声が小さいんですけど... 声を大きく出させるにはどうしたらいいですか？」
 (2) 「毎回授業で、生徒が音読指導に飽きてしまっているようです。どうしたらいいですか？」

【考えられる原因】 声が出ない理由として主に2つ考えられます。

- (1) 読めない単語があり、声を出して読む自信がないのではありませんか？
 (2) 音読練習がいつも同じで、マンネリ化していませんか？

【解決策】

(1) 生徒に自信がない場合

- ① イチゴ読み…単語を一語ずつリピートする。
- ② チャンク読み…文を意味のまとまりごとにかたまりにして読む。
- ③ センテンス読み…一文ずつリピートする。
- ④ バックワード読み…文末の単語から一語ずつ追加してリピートしていく。

(2) いつもの音読練習に飽きている場合

- ① 一文交代読み…奇数行を教師が読み、偶数行を生徒が読む。
- ② 男女交代読み…最初は男子、次は女子から始める。
- ③ 一人一文読み…一文交代で全員が読む。
- ④ サバイバル読み…一人ずつ、間違うまで読む。
- ⑤ タケノコ読み…教師がゆっくり読んでいく。自分の読みたい文が来たら立って読む。
- ⑥ ダウト読み…教師がわざと間違えて読むが生徒はそれにつられずに読む。
- ⑦ 同時読み…モデルと同じ速さで読む。
- ⑧ 翻訳読み…教師が日本語を言う。それをただちに英語で言う。
- ⑨ 四方八方読み…回数に応じて前後左右を向いて読む。
- ⑩ パートナーチェンジ読み…相手を次々と変えて練習する。
- ⑪ 制限時間読み…制限時間内に読めるようにひたすら速く読む。
- ⑫ 状況設定読み…図書館での会話、地下鉄駅構内、など場の設定をする。
- ⑬ ペア探しの旅…1回読むごとに相手ペアを探して読む。聞いた人のサインをもらう。
- ⑭ グループ内同時読み…グループで声を合わせて読む。
- ⑮ 誘い読み…途中まで教師が読み、続きを生徒に読ませる。

音読させるとき、生徒が英文の内容理解ができていることが前提です♪





小江戸川越

寺子屋タイムズ（生活科版①）

川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年10月

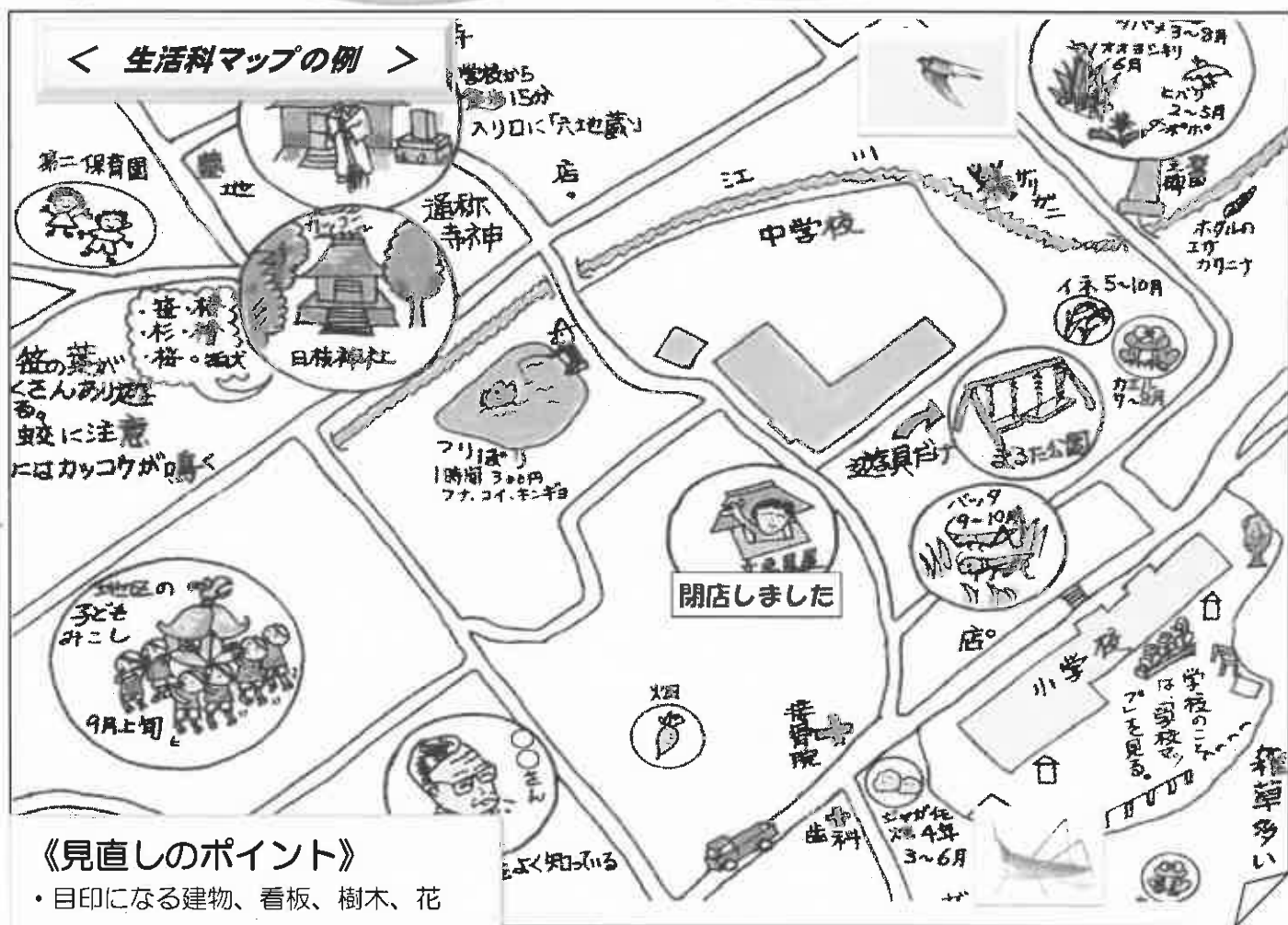
「生活科マップ」活用していますか？

生活科は、児童の生活圏である身近な地域が学習の場となります。そこで、教師は、地域の「ひと・もの・こと」をしっかりと理解し、定期的に「生活科マップ」を見直すことが必要です。つまり、教材研究の要といえる作業です。今年度、「生活科マップ」のバージョンアップは行いましたか？



年間指導計画とリンク
させましょう。

写真を貼っておくのも
いいですね。



《見直しのポイント》

- ・目印になる建物、看板、樹木、花
- ・〇〇名人の〇〇さん
- ・ザリガニつりや虫とりのポイント
- ・〇〇まつりのビューポイント
- ・町探検時のトイレや給水ポイント
- ・危険な場所 など

単元の途中でも、気付いた
ことがあったら、書き込んで
いきましょう。





川越市マスコットキャラクター ときも。

小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校音楽版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年10月



まだ間に合う!! 音楽会直前情報



♪今回は、目前にせまった音楽会に向けて、先生方への情報です。
合唱(歌唱)指導での悩みや問題点に対しての解決策をあげてみました。
これがすべてというわけではありません。参考にしてみてください。



お悩み①

教室では十分歌えているのに、体育館へ行くと、声が小さく届かないのです…。



お悩み②

とても意欲的に歌っている子。でも、声が目立ってしまっ…。

解決策①

声を遠くに飛ばす目標(声の的(マ))を定めて「的(マ)を突き抜けるように歌おう」と声がけをしてみましょう。とにかく全力で!

解決策②

中低音域が弱い(声がスカ…等)場合はミュージカ風または、宝塚の男役風な「きどり声」で喋るように」と声がけをしてみましょう。

解決策①

「軽い声で歌ってごらん」と声がけをしてみましょう。力が抜け自然な声ができます。その子の肩に手をのせるのも効果的です。

解決策②

「友だちの声を聴きながら歌ってごらん」や「自分の声を友達の声に混ぜて…」も効果的な声がけです。

★きどり声でわかりにくい場合は、どんな声かを先生が出して聴かせましょう。



お悩み③

大きな声で歌っているのですが、歌詞が聞き取れません。発音も汚く聞こえます。



お悩み④

演奏がなんだかバラバラ…。まとまりのある合唱を目指したいのですが…。

解決策①

情景が伝わるような美しい朗読を生かして発音させましょう。
鼻濁音・丁寧な語尾・明瞭な子音を大切にしましょう。

解決策②

「ことばを届けよう」こんな声がけをしてみてください。誰に向けて歌っているのかイメージし、聴き手を意識させてみましょう。

解決策①

発声の統一(音程・声質・響き)が前提ですが、声が散ってしまわないよう、声をついに束ねるようにイメージさせましょう。

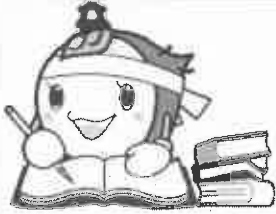
解決策②

ことばをはっきり、しっかり、明確に、そろえて発音すると統一感が出ます。指揮を見て、そして、全員が気持ちに合わせて…。



《《指揮について ポイントアドバイス》》

- ① 子どもに向けて一声かけて → 間をとって → 余裕をもって…さあ、指揮を!!
- ② 指揮者の立ち方: 少し足をずらして立ちましょう。(前後や左右に)
- ③ 指揮を振る前に速さを感じておきましょう。右手は拍を示して、左手で表情を出してあげましょう。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (図画工作科版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年12月

子どもたちを夢中にさせる 魔法の言葉

子どもたちと題材が出会う瞬間は、**図画工作科の命**です。題材名や提案の言葉の一工夫で、子どもたちの発想はどこまでも広がります。

子どもたちの表現力(発想)を高めていきたいけれど、具体的にどうしたらいいのかわからない。…よく耳にします。
指導例：4年生「木を描こう」→「木・木・木… 木から〇〇」(何かが始まるような、わくわく感をかき立てるような題材名に変えてみる。子どもたちは、絵本のように教科書を見て、すでに題材に対する予備知識があります。)

【 導入が大切です 】

子どもたちと実際に校庭にある木の下に行き、木に触れたり語り合ったりしましょう。

五感を使って、木と関わり合うことで、木のイメージを広げ、親しみが持てるようになります。

木を抱えてみよう。

下から見上げてみよう。

木のささやきを聴いてみよう。

木の下で給食を食べてみよう。

この木はね…木にまつわる話を聞く。

木の周りで鬼ごっこをしよう。

根から吸い上げた栄養を枝の先まで送っているね。

木の心臓の音を聴いてみよう。

たくさんの子どもの声を聞きながら成長してきた。

根っこはどこまで広がっているかな？

暑い夏も寒い冬も、一生懸命ここで根を張って踏ん張っている。

【 題材名が大切です 】

◎ この木をもとにどんな世界に行ってみたい？ (〇〇は自由なネーミングで)

- ・タイムマシンに乗っていくよ
- ・木の学校あり？
- ・木でパーティをしよう
- ・〇〇ワンダーランド
- ・ツリーハウスに住みたいな
- ・〇〇ドリームランド
- ・夢の木〇〇
- ・虹の世界〇〇ツリー等
- ・未来の木〇〇
- ・海の中の〇〇…
- ・地底に広がる〇〇世界

【 どんどん描きたくなる題材 】

- ・クレヨン (色を限定する) 赤、紫、朱、青等
- ・和筆や割りばしペンと墨汁で下描きをする。
- ・版画用紙をくしゃくしゃにしてのりで画用紙に貼る。
- ・穴(窓)を一つあける。・画用紙を正方形にする。

【 子どもの気持ちを引き出す言葉 】

- ・木で遊ぼう→住んでみてもいいよ。
- ・この木には一人で住んでいるの？
- ・木にもたくさんの栄養をあげよう。
- ・おしゃれな木にしてみよう。
- ・夜になるとどうなるの？
- ・地下はどうなっているの？



小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校家庭科版①)

川越市マスコットキャラクター

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年12月

家庭科は家庭で実践することが大切です！

学校と家庭との連携を図った取組

題材名 「冬休みはおまかせ」

学校で

保護者
に
お願
いの
手紙
を出
す

冬休みは、学校での学習を家庭で実践するよい機会です。児童が家庭の仕事に関心を持ち、進んで取り組めるような工夫をします。

第5学年 保護者様

日頃より教育活動にご協力いただきありがとうございます。

今年から家庭科の学習が始まった5年生は、意欲的に学習に取り組み、調理、手縫い、ミシン縫いの仕方など身に付けてきたことを家庭で生かすよい機会であると考えます。

つきましては、冬休みの計画を立てるにあたり各ご家庭で「冬休み依頼書」の作成をお願いします。以下の例を参考に、お子さんへの依頼書と、「やってほしい仕事」を書いて後日担任までご提出ください。

<「冬休み依頼書」の例>

○○△

いつもお手伝いありがとう。5年生になって洗たく物を上手にたたんでくれるようになって、助かります。いよいよ冬休みですね。冬休みは年越しや新年の準備でとても忙しい毎日です。



そこで○○にこんなお手伝いをたのみたいです。できるものでいいのでよろしくお願いします。

やってほしい仕事	ポイント	やってほしい仕事	ポイント
ふるそうじ	2		
雨戸開け、閉め	1		
おせち料理作りの手伝い	5		
玄関そうじ	1		
トイレそうじ	2		

※仕事の内容に応じてポイントを決めてください。

家庭で

実践する

自分の立てた計画にそって、家庭で実践します。1回だけでなく、継続して取り組むことも大切です。

いつもよくする仕事だけでなく、普段はしないこと、少し難しいことなどにも挑戦してみようという気持ちにさせるよう、あらかじめ保護者会などでお願いしておくともよいです。

<「冬休み実践カード」の例>

お役に立ちます！冬休み

5年 組

10ポイント以上獲得しよう！

やること	ポイント	やった日
		/
		/
		/
		/
		/
		/
		/
		/
		/
		/
合計ポイント		

お役立ちNO.1の活動を紹介します



自分の感想

家の人から

家族からのメッセージをもらうことにより、家族の一員として役に立っているという気持ちをもてるようになります。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (体育版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年12月

小学校体育科の授業では、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点を重視し、最低限必要なことは徹底して指導するとともに、努力や成果を温かく認めるなど指導と評価の一体化に努める。(平成26年度学校体育必携より抜粋)

そのために



「技能」「態度」「思考・判断」の内容をバランスよく育む指導と評価の工夫が大切

その中で今回は「思考・判断」について取り上げます。(小学校学習指導要領解説 体育編より抜粋)

第1学年及び第2学年の「思考・判断」のキーワード

- ア ~運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶこと。
- イ ~の動き方を知り、友達のよい動き方を見付けること。

第3学年及び第4学年の「思考・判断」のキーワード

- ア ~の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶこと。
- イ ~のポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶこと。
- ウ 仲間との競走(争)の仕方を知り、競走(争)の規則を選ぶこと。

第5学年及び第6学年の「思考・判断」のキーワード

- ア 課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶこと。
- イ ~を知り、自分に合った競走(争)のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶこと。

体育Q&A

Q 体育の授業で子ども達に対してどのような発問をしたらよいか分からず、教え込みの授業になってしまいます。



A 【例 5年生 陸上運動(ハードル走)】

①ねらいの確認 ハードルの間を3歩のリズムで調子よく走って、競走したり挑戦したりする。



②ねらいを踏まえての発問
「3歩のリズムで調子よく走るために、どのような動きや姿勢をしたらいいかな。」

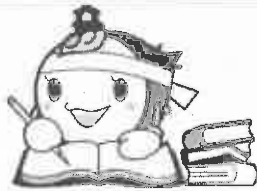
③思考1
『ふりあげ足をまっすぐにするといいのかな。』



③思考2
『上体を倒すといいんじゃないかな。』



☆その時間のねらいを確認し、そのねらいを達成するための授業を組み立て、発問していきましょう。それが、その時間の評価につながっていきます。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (学級経営版③)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成27年1月

平成26年度川越市の児童生徒の学習・生活状況調査が実施されます。

質問紙調査 (質問項目及び結果) を明日からの学級経営に生かしましょう。

→ 質問紙で尋ねられていることは、「学力向上」に向けての大切な意識・態度です。

調査C質問① 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。



学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった経験を積み重ねます!



学年・学級や学校の行事などでは、学級や一人一人にめあてをもちます。そのめあてを達成するために、全員で役割分担をします。

教師は一人一人の取り組みをよく観察し、称賛や励ましをします。また、自己評価や相互評価により、めあての達成感を味わわせ、自分のよさや友達のよさに気付かせます。

★ 成功体験を積み重ねることは、一人一人に自信と学級への所属感を持たせることにつながります。また、お互いの価値を認め合う温かな学級集団が育ちます。

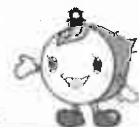
★ 温かな人間関係が築かれている学級では、安心して自分の力を発揮しようと意欲的に学習にも取り組みます。

調査C質問③ 授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていたと思う。

調査C質問⑥ 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。



学級やグループで話し合う活動を行います!



2人～4人程度の少人数グループや学級全員で、考え方や理由を伝え合う活動を行います。分からないことが分かるようになったり、説明することで自らの理解が深まったりします。また、考えを共有することにより、新たな物の見方や視点をもつことができるようになります。

★ 互いに認め合う関係づくりができ、自己肯定感が育ちます。

★ 自分と違う考え方を柔軟に受け入れられるようになり、多面的な考え方ができるようになります。

調査により明らかになった実態を踏まえ、指導の改善に努め、温かい学級をつくりましょう。

IV 平成26年度

「川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」報告書

調査実施の概要

1 実施の目的

本調査の結果の検証を通じて、本市児童生徒一人一人の学習と生活の状況について実態を把握するとともに、学力向上に向けた教育活動を活性化させ、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を図ることを目的とする。

2 調査の方針

- (1) 「川越市小・中学生学力向上プラン」を踏まえるとともに、国や県の調査・検証結果における課題との関連を図る。
- (2) 本市の学習状況と生活状況の関連に基づき、指導方法の工夫・改善に資する資料を作成、提供する。
- (3) 小・中学校9年間の学習と生活の状況の連続性を踏まえた調査を行う。

3 調査の方法と内容

質問紙により以下の内容について調査を行う。

調査A 小・中学校全学年

○「教育に関する3つの達成目標」の「規律ある態度」の1・2項目

調査B 小学校第5学年 中学校第2学年

○平成25年度 埼玉県小・中学校学習状況調査質問紙の項目のうち10項目程度

調査C 小学校第6学年 中学校第3学年

○平成26年度 全国学力・学習状況調査質問紙の項目のうち5項目程度

4 実施期間

平成27年1月13日（火）～1月23日（金）

「平成26年度 川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」集計結果【調査A】

内容	項目	質問	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
はじめのある生活ができる	時刻を守る	①登下校時刻を守ることができていますか。	平成24年度	90.8	91.4	95.3	95.9	95.8	94.9	97.7	96.5	96.6
			平成25年度	90.6	91.8	95.1	95.5	94.8	95.0	98.2	97.6	96.5
			平成26年度	90.6	91.3	95.8	95.7	96.4	94.4	98.1	97.9	97.1
		②授業や活動の始まる時こくを守ることができていますか。	平成24年度	91.2	91.6	95.9	96.1	96.9	96.5	97.5	97.4	97.8
			平成25年度	93.7	92.2	96.3	97.0	97.2	97.3	97.1	97.9	97.9
			平成26年度	91.9	90.5	95.9	96.7	96.7	96.4	97.9	98.1	98.5
	身の回りの整理整頓を	③脱いだはき物のかかとをそろえることができますか。	平成24年度	88.8	84.6	87.6	87.3	85.0	84.8	83.4	85.7	85.7
			平成25年度	89.0	84.3	88.4	88.0	85.8	87.3	86.4	86.6	88.9
			平成26年度	89.6	84.5	91.4	91.0	91.1	90.5	91.8	91.6	93.0
		④机やロッカーの中、身の回りの整理整頓をすることができますか。	平成24年度	87.4	82.7	89.6	88.1	87.5	85.9	79.9	80.5	82.9
			平成25年度	86.7	84.3	90.2	90.3	87.3	87.9	80.8	80.9	83.2
			平成26年度	87.5	84.4	89.9	89.5	88.7	87.5	86.5	85.2	86.7
礼儀正しく人と接することができる	進んであいさつを	⑤誰に対しても進んであいさつをすることができますか。	平成24年度	83.6	77.6	87.3	85.8	82.9	81.8	82.7	81.2	85.2
			平成25年度	84.7	79.5	87.9	85.4	84.0	83.2	84.7	84.2	83.3
			平成26年度	85.4	79.7	87.0	84.4	83.5	81.1	86.6	84.6	85.9
		⑥名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をすることができますか。	平成24年度	93.1	87.9	93.1	91.8	89.8	86.3	86.8	85.5	87.1
			平成25年度	93.1	89.8	93.8	92.6	90.3	88.0	87.6	86.8	87.2
			平成26年度	93.7	88.1	94.0	92.2	91.1	87.0	89.1	88.8	88.8
	身にねい言葉づかい	⑦時と場に応じた適切な言葉づかいができていますか。	平成24年度	86.7	82.7	89.4	88.1	86.5	85.8	87.7	88.6	91.8
			平成25年度	88.3	83.8	90.6	89.9	88.3	88.2	88.6	89.4	91.6
			平成26年度	88.0	85.3	91.0	88.5	89.3	88.6	88.2	91.0	91.8
		⑧相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉づかいができていますか。	平成24年度	92.4	88.2	87.9	84.9	86.4	83.5	85.0	86.5	91.0
			平成25年度	92.1	89.6	90.8	87.9	85.7	86.4	86.5	88.4	90.8
			平成26年度	93.0	90.0	90.3	87.9	88.8	84.6	86.2	90.0	90.7
約束やきまりを守ることができる	学習のきまりを守る	⑨学習の準備を整え、授業にのぞむことができますか。	平成24年度	79.6	72.5	83.2	78.8	82.2	79.1	86.7	86.0	88.6
			平成25年度	81.2	70.8	83.8	78.3	85.3	81.6	87.3	86.8	86.8
			平成26年度	77.4	71.7	80.9	79.5	86.2	82.1	89.3	89.2	90.5
		⑩先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか。	平成24年度	91.6	91.5	88.4	84.5	80.1	74.7	76.5	76.3	80.6
			平成25年度	93.6	91.9	89.2	86.0	82.8	81.2	75.7	76.2	81.3
			平成26年度	92.5	90.1	89.0	85.2	83.1	77.1	79.2	77.6	82.7
	生活のきまりを守る	⑪人の集まる場所では静かにし、その場にふさわしい態度をとることができますか。	平成24年度	88.6	86.4	90.8	89.0	88.2	86.2	90.9	90.4	91.6
			平成25年度	88.3	84.5	91.2	89.8	89.6	87.4	90.9	91.4	92.5
			平成26年度	90.1	85.5	91.0	91.4	90.7	87.5	91.7	93.8	93.5
		⑫進んで掃除や美化活動に取り組み、学校をきれいにすることができますか。	平成24年度	96.1	95.6	93.8	92.8	90.1	87.7	87.4	84.7	87.7
			平成25年度	95.7	95.7	94.4	93.8	90.2	90.1	88.9	87.0	87.9
			平成26年度	96.0	94.5	95.5	94.2	92.7	88.3	89.7	89.0	91.9

※ 質問の文言は、中学生用質問紙のものです。(小学校は、低・中・高で表現が異なっています。)
 ※ 平均値は、学校平均ではなく、児童数を元にしています。
 ※ は同一集団を表す一例です。

「平成26年度 川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」集計結果【調査B】

1 学校に持って行くものを、前日か、その日の朝にたしかめますか。

	小5		中2		小5		中2		小5		中2		小5		中2	
	必ず確かめる		たいてい確かめる		確かめないことが多い		全く・ほとんど確かめない		無回答							
平成25年度県	56.0	55.8	35.2	32.4	7.2	8.2	1.5	3.6	0.1	0.1						
平成25年度市	52.3	52.5	38.9	34.8	6.9	8.8	1.9	3.9	0	0						
平成26年度市	52.4	47.8	38.5	37.7	8.1	11.1	1.0	3.4	0	0.1						

2 学校に行く前に朝食をとりますか。

	必ずとる		たいていとる		とらないことが多い		全く・ほとんどとらない		無回答	
	平成25年度県	91.6	86.1	6.2	9.6	1.5	2.8	0.5	1.3	0.1
平成25年度市	90.3	85.5	7.7	9.7	1.5	3.0	0.4	1.7	0.1	0
平成26年度市	88.8	80.6	8.8	13.4	1.7	3.9	0.6	2.0	0	0

3 毎日、何時くらいまでに寝ますか。

	8時		9時		10時		11時		12時		12時すぎ		無回答	
	平成25年度県	2.5	0.3	26.1	2.2	48.1	13.3	17.9	36.3	4.0	34.5	1.3	13.2	0.2
平成25年度市	3.0	0.2	27.2	2.5	46.5	14.3	17.5	33.9	4.4	34.9	1.4	14.2	0.1	0.1
平成26年度市	3.0	0.8	23.7	2.6	46.8	9.4	19.7	28.4	5.3	40.2	1.3	18.6	0.2	0

4 1日にだいたいどのくらい睡眠時間をとりますか。

	6時間未満		6時間以上7時間未満		7時間以上8時間未満		8時間以上9時間未満		9時間以上10時間未満		10時間以上		無回答	
	平成25年度県	2.6	7.3	8.6	29.6	20.3	40.2	38.1	18.6	25.0	3.6	5.3	0.6	0.2
平成25年度市	2.4	7.3	8.8	28.0	20.6	41.0	38.0	19.5	25.5	3.4	4.4	0.7	0.2	0
平成26年度市	2.8	11.1	10.1	36.6	23.8	35.7	39.0	14.2	20.6	2.0	3.5	0.5	0.1	0

5 学校の体育の授業以外に、外遊びや運動・スポーツを1時間以上する日数はどのくらいですか。

	ほとんど毎日(週3日以上)		ときどきする(週1~2日程度)		たまにする(月1~3日程度)		しない		無回答	
	平成25年度県	53.6	73.6	34.3	9.9	9.3	9.7	2.6	6.7	0.1
平成25年度市	50.4	72.3	36.9	10.8	10.0	9.4	2.6	7.4	0.1	0
平成26年度市	42.3	67.8	38.8	12.8	14.3	11.1	4.5	8.3	0.1	0

6 友達との約束を守っていますか。

	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
	平成25年度県	69.5	59.5	28.0	37.6	1.8	2.3	0.4	0.4	0.4
平成25年度市	65.8	57.2	31.3	39.2	2.2	2.8	0.5	0.5	0.3	0.3
平成26年度市	61.9	60.1	36.4	38.0	1.5	1.6	0.2	0.3	0	0

7 学校のきまりを守っていますか。

	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
	平成25年度県	50.5	47.7	42.3	44.9	5.3	5.9	0.8	1.0	1.0
平成25年度市	47.4	48.2	43.1	44.2	6.9	6.2	1.4	1.0	1.2	0.5
平成26年度市	40.1	50.7	53.9	44.2	5.2	3.9	0.7	1.2	0	0

8 1日にだいたいどのくらい読書を読みますか。

	全くしないほとんどしない		10分以上30分より少ない		30分以上1時間より少ない		1時間以上		無回答	
	平成25年度県	17.3	15.1	43.9	51.9	26.0	21.2	12.3	11.5	0.6
平成25年度市	19.3	12.1	42.6	55.4	24.5	19.5	12.9	12.6	0.7	0.4
平成26年度市	24.6	24.1	44.2	49.6	20.6	16.7	10.0	9.5	0.7	0

9 学校の授業以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか。

	全く・ほとんどしない		30分より少ない		30分以上1時間より少ない		1時間以上2時間より少ない		2時間以上3時間より少ない		3時間以上		無回答	
	平成25年度県	4.6	9.2	17.1	13.5	33.7	23.9	28.5	32.7	9.1	16.2	6.6	4.2	0.4
平成25年度市	5.1	8.8	19.7	13.1	34.2	22.8	26.1	33.5	8.4	16.7	6.2	5.0	0.4	0.1
平成26年度市	4.6	13.7	19.9	13.6	33.9	21.5	28.0	31.2	8.2	15.6	5.3	4.4	0.1	0

10 ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。

	宿題が出れば宿題をする		予習や復習		興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする		試験があれば、それに備えて勉強する		試験でできなかったところを確かめる		無回答	
	平成25年度県	91.2	89.0	47.4	50.8	40.9	24.0	45.2	77.7	39.3	29.8	0.4
平成25年度市	91.4	89.5	46.8	49.7	42.5	25.9	45.7	79.9	39.6	27.3	0.4	1.2
平成26年度市	87.4	79.3	47.4	31.5	40.4	29.0	44.9	68.7	34.3	22.1	0	0

※平均値は、学校平均ではなく、児童数を元にしています。

「平成26年度 川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」集計結果【調査C】

1 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3
	当てはまる		どちらかと言えば、 当てはまる		どちらかと言えば、 当てはまらない		当てはまらない		その他・無回答	
平成26年度全国	56.9	58.5	29.6	26.0	9.9	9.8	3.5	5.2	0	0.5
平成26年度県	59.7	63.0	29.0	23.9	8.3	8.0	3.0	4.5	0	0.5
平成26年度川越市(4月実施)	58.1	63.2	30.5	23.0	7.9	8.1	3.5	5.0	0	0.7
平成26年度川越市(1月実施)	65.9	72.8	27.8	21.7	4.5	3.4	1.7	2.1	0	0

2 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。

平成26年度全国	49.7	36.9	29.6	44.2	12.6	14.8	3.7	4.0	0	0.1
平成26年度県	53.0	41.5	29.0	44.4	10.5	10.9	2.9	3.1	0.1	0.1
平成26年度川越市(4月実施)	51.1	39.7	30.5	43.9	10.9	11.9	3.1	4.4	0.1	0.1
平成26年度川越市(1月実施)	55.2	55.7	27.8	38.0	6.1	5.1	1.0	1.2	0	0

3 授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思う。

平成26年度全国	47.3	31.3	37.6	44.0	12.5	19.9	2.4	4.6	0.1	0.1
平成26年度県	48.5	31.5	38.6	46.8	10.8	17.9	2.1	3.6	0.1	0.1
平成26年度川越市(4月実施)	45.1	29.5	41.1	47.7	11.4	18.1	2.3	4.5	0	0.1
平成26年度川越市(1月実施)	47.9	38.9	42.3	48.8	8.4	9.9	1.4	2.5	0	0

4 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。

平成26年度全国	50.9	32.9	31.1	38.6	13.8	21.5	4.2	6.9	0.1	0.2
平成26年度県	48.3	26.9	34.6	44.8	13.3	22.1	3.7	6.0	0.1	0.1
平成26年度川越市(4月実施)	48.5	23.2	34.3	45.1	13.3	24.1	3.8	7.4	0	0.1
平成26年度川越市(1月実施)	52.0	29.7	38.3	52.9	8.1	14.4	1.5	3.0	0	0

5 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

平成26年度全国	34.5	15.6	37.4	37.7	20.8	34.6	6.9	11.6	0.4	0.4
平成26年度県	35.5	17.7	39.0	41.1	19.0	31.5	6.1	9.3	0.3	0.4
平成26年度川越市(4月実施)	34.5	16.5	39.9	38.6	18.7	33.4	6.6	11.0	0.3	0.4
平成26年度川越市(1月実施)	40.6	23.2	43.0	51.2	13.8	20.4	2.6	5.2	0	0

6 生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

	そう思う		どちらかと言えば、 そう思う		どちらかと言えば、 そう思わない		そう思わない		その他・無回答	
	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3
平成26年度全国	22.7	16.9	43.2	45.0	26.6	29.2	7.4	8.6	0.2	0.3
平成26年度県	24.4	17.2	45.6	48.4	23.6	26.9	6.2	7.2	0.1	0.3
平成26年度川越市(4月実施)	23.9	17.7	45.3	46.9	24.5	26.6	6.2	8.5	0.2	0.3
平成26年度川越市(1月実施)	37.7	32.8	48.7	52.7	11.4	11.2	2.0	3.3	0.1	0

※質問の文言は、中学生用質問紙のものです。

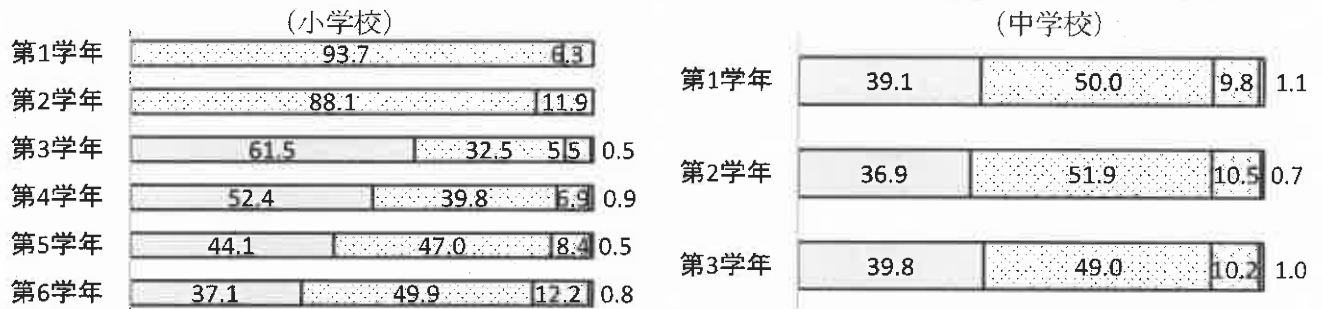
※平均値は、学校平均ではなく、児童数を元にしています。

「平成26年度 川越市の児童生徒の学習・生活状況調査」結果分析

<礼儀正しく人と接することができる> (調査A 質問⑤⑥⑦⑧)

質問⑥ 名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をする事ができていますか。

よくできる だいたいできる あまりできない できない ※「その他・無回答」の児童生徒の割合は、グラフに表示していません。



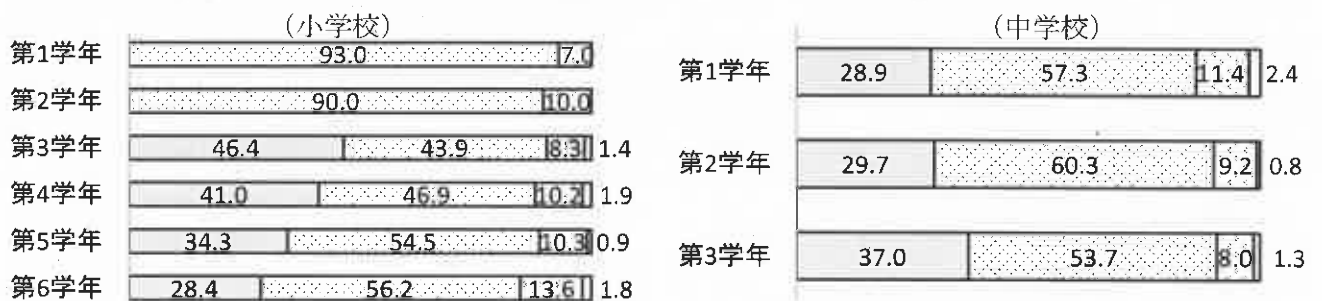
質問⑦ 時と場におうじた正しい(適切な)言葉づかいができていますか。

よくできる だいたいできる あまりできない できない



質問⑧ 相手の気持ち(やその場の状況)を考え、やさしい言葉づかいができていますか。

よくできる だいたいできる あまりできない できない



質問⑥から⑧に対する回答結果から児童生徒は、礼儀正しく生活しようとしていることが読み取れる。特に小学生は礼儀正しい返事が、中学生は様々な人との関わりの経験の積み重ねにより、やさしい言葉づかいやその場に応じた礼儀正しい態度が身に付いてきている。礼儀に関しては、教師の粘り強い指導が重要である。また、名前を呼んでからあいさつをする、一人一人の目を見てあいさつをする等、自分に向けられているあいさつであると気付かせることも大切であるとする。

質問⑤ (P.91参照)の「あいさつをすることができる」に対する過去3年間の調査結果から、小学校2年生になるとあいさつがあまりできていないと自己評価する傾向にある。こういった傾向にあることを踏まえた具体的な指導の必要性が感じられる。

<学習のきまりを守る> (調査A 質問⑨⑩)

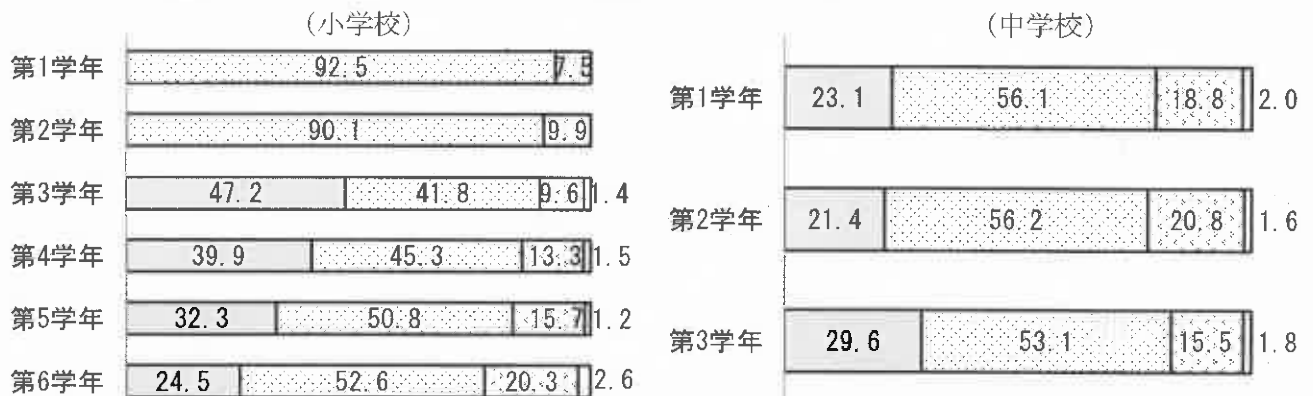
質問⑨ 学習の準備を整え、授業にのぞむことができますか。

よくできる だいたいできる あまりできない できない



質問⑩ 先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか。

よくできる だいたいできる あまりできない できない



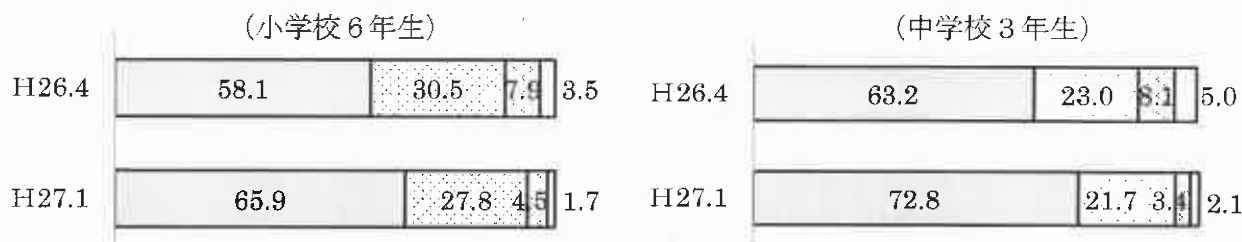
質問⑨に対する回答結果から、中学校では「よくできる」「だいたいできる」と回答した生徒が9割前後となっており、学習の準備への意識が高いことが感じられる。一方、小学校では第1・2・4学年は「よくできる」「だいたいできる」と回答した児童が8割を下回っている。特に第2学年では、71.7%と低い割合となっている。また、過去2年間の結果からも具体的な指導の必要性が感じられる。その一方で質問② (P.91参照) の「学習の始まる時刻を守ることができる」と回答している児童がどの学年でも9割を超えている実態から、児童は始業時に着席することはできているが、学習の準備を整えるところまでは至っていない傾向にあることがわかる。この傾向を踏まえ、児童の学習の準備に対する意識をより高めさせるためには、「学習の準備までできていることが必要である。」という指導を年度当初から徹底するとともに、学習の準備を整えて授業に臨むことで、気持ちよく学習に取り組むことができることを味わわせていくことが必要である。

質問⑩に対する回答結果では、小学校では学年が上がるに伴い、「よくできる」「だいたいできる」と回答した児童生徒の割合が下がっており、特に小学校第6学年から中学校第2学年にかけては8割を下回っている。発表の場を意図的に多く設けるとともに、教師が発問を工夫していくことで「自分の意見を発表したい」「友だちの意見を聞きたい」という気持ちを高めさせていくことや、安心して自分の考えを発表できる温かな学級の雰囲気を作る必要性が感じられる。また、学校生活全体を通じて、聞いたことを反復させたり、まとめさせたりする場面を意図的に設定することも効果的な手立ての1つである。

<意欲や学力の向上につながる学級集団> (調査C 質問1・3・6)

1 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

当てはまる どちらかと言えば当てはまる どちらかと言えば当てはまらない 当てはまらない



3 授業では、学級の友だちと(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。

当てはまる どちらかと言えば当てはまる どちらかと言えば当てはまらない 当てはまらない



6 学級の友だちと(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

そう思う どちらかと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない そう思わない



質問1では、小中学校ともに9割を超える児童生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答しており、年度当初に比べ、一人一人の児童生徒の学級への所属感の高まりが感じられる。この結果は、お互いの価値を認め合うことができる温かな学級集団の形成によるもので、安心して意欲的に学習に取り組む児童生徒の育成につながると考える。

質問3・6に対する回答結果から、小中学校ともに各学校で言語活動を重視し、意図的な指導を行うことで、話し合い活動が充実していることがうかがえる。こういった学級集団の形成は、互いに認め合う関係づくりや、自分と違う考え方を柔軟に受け入れ物事を多面的に考える力の育成につながると考える。

V バックナンバーと掲載ページ(過去5年分)

【国語】

学年 内容	年度	頁
小1 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと	26	33
小2 漢字の読み方	23	45
小2 主語・述語	23	45
小3 目的に応じて、中心となる語や文をとりえて段落相互の関係や事象と意見との関係を考え、文章を読むこと	26	34
小3 ロー文字に親しませ、読み・書きを定着させる指導の工夫	25	40
小3 ロー文字の指導	24	40
小3 主語・述語の関係	22	47
小4 修飾語	23	45
小4 指示語の指導	22	48
小4 接続語の指導	22	47
小5 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事象と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだりすること	26	35
小5 漢字の読み書きを定着させる指導の工夫	25	41
小5 同訓異字・同音異義語の指導	24	40
小5 修飾語	23	45
小5 敬語の指導	22	47
小6 漢字の使い分け	23	45
小6 敬語	23	45
小6 敬語の書き方	22	47
中1 文法(副詞の呼称)	26	39
中1 漢字学習への意欲を高め、読み書きの力を身につけさせる指導(全学年共通)	25	41
中1 接続語や段落のつながりに着目して説明的文章の要点を読み取るための指導	25	41
中1 語彙を豊かにする指導(全学年共通)	24	41
中1 漢字学習への意欲を高めるポイント	24	41
中1 文法を分かりやすく指導する工夫(全学年共通)	24	41
中1 漢字の書き取りの力をつけるための指導	23	46
中1 語彙を豊かにする指導	23	46
中1 古典に親しませる指導	23	46
中1 漢字の成り立ちと意味	22	48
中1 既習漢字の復習(全学年共通)	22	48
中2 熟語(例題語・対義語)の指導	22	48
中2 古典文を正確に読み取れる指導	22	48
中3 間違えやすい漢字	22	48
	26	38

【社会】

学年 内容	年度	頁
小3 方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導のポイント	26	41
小4 方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導の工夫	25	49
小4 47都道府県を活用した方位及び位置関係の学習の工夫	24	52
小5 工業生産と工業地域の学習・指導のポイント	22	58
小6 今に伝わる芸術文化	23	57
中1 歴史的分野における基礎的・基本的な知識・技能の定着	26	46
中1 歴史的事象を様々な資料を活用してまとめ、その時代を大観し表現させる指導の工夫	25	53
中1 歴史の大事を流れの中で各時代を理解させる指導の工夫	24	55
中1 室町文化とその広がり	23	57
中2 日本の工業地帯・工業地域の学習・指導のポイント	22	59

【算数・数学】

学年 内容	年度	頁
小3 数直線上の読みについての指導	26	49
小3 分数や小数を図や数直線を用いて表し、大きさを比べる算数的活動	24	60

【理科】

学年 内容	年度	頁
小4 面積の単位換算についての指導	26	50
小4 三角定規の角についての指導	26	51
小5 表を用いて、二つの数量関係の長方を求める指導の工夫	25	58
小5 三角形の面積の求め方を考えよ	23	64
小6 角柱の体積の求め方を考えるための指導の工夫	25	60
小6 台形の性質を使った台形の面積の求め方	24	62
中1 基本の作図方法を定着させるための指導の工夫	22	68
中1 比例定数の理解を深めるための指導の工夫	26	53
中1 資料を整理し、傾向をとらえ、数表的な表現で説明する力を育てるための指導の工夫	26	54
中1 比例と反比例の関係を見分ける学習の指導	28	52
中1 面積を求める力を身につける指導の工夫	25	62
中1 ともなう変わる2つの数量について	24	64
中1 比例・反比例について比較し、式・列挙・グラフを関連づけ整理する指導の工夫	23	65
	22	69

【理科】

学年 内容	年度	頁
小3 物質とエネルギー～風や玉の動き～	25	65
小3 実験を伴った理解の定着を図るための指導(全学年)	24	67
小3 植物の体のつくり	22	73
小4 空気や水をとじこめること	23	72
小4 ものの温度と体積	23	72
小5 物質とエネルギー～ふりこの運動～	25	65
小5 もののつくり	23	72
小6 物質とエネルギー～この規則性～	25	65
小6 水溶液の性質	23	73
小6 植物の体のつくり	22	73
中1 既習内容や日常の現象と関連づけ、思考の継続化や知識の定着を図る指導の工夫	25	66
中1 体系的なひとまとまりの知識として、生徒に理解させるための指導	24	68
中1 水溶液の性質	23	73
中1 小学校の学習内容を生かした植物の体のつくりの指導	22	74
中2 電流回路の規則性を例にして	26	61
中2 化学変化とイオン	23	75
小全 問題解決の過程を定着させるための手引きの作成	26	57
小全 問題解決に結び付く導入	26	58
小全 考察力を高める指導の工夫	26	59

【英語】

学年 内容	年度	頁
中1 書く習慣をつけさせるための単語の書き取り指導の工夫(中1～中3)	25	74
中1 読える習慣をつけさせるための単語の書き取り指導(中1～中3)	24	77
中1 基本英文を暗記し、活用できるようにするための指導(中1～中3)	24	77
中1 単語を書き取り、覚える習慣をつけさせるための指導(中1～中3)	23	82
中1 基本英文を暗記し、使えるようにするための指導(中1～中3)	23	82
中1 4つの種類の力を伸ばし、ペアで行うコミュニケーション活動	22	81
中2 強勢と区切りを重視して読む指導の工夫	26	66
中2 長文を速報して物語のイメージをする活動	23	82
中2 長文を通して文法や慣用表現を習熟させる	22	82
中3 日本語と異なる英語の語順を身に付ける工夫	26	67
中3 説明文の筋路を通して英文の要旨をつかむ指導の工夫	25	74
中3 長文の筋路を通して物語をイメージする活動	24	77

※6年以上前の指導の手立てについては、教育センターHPより確認することができます。